

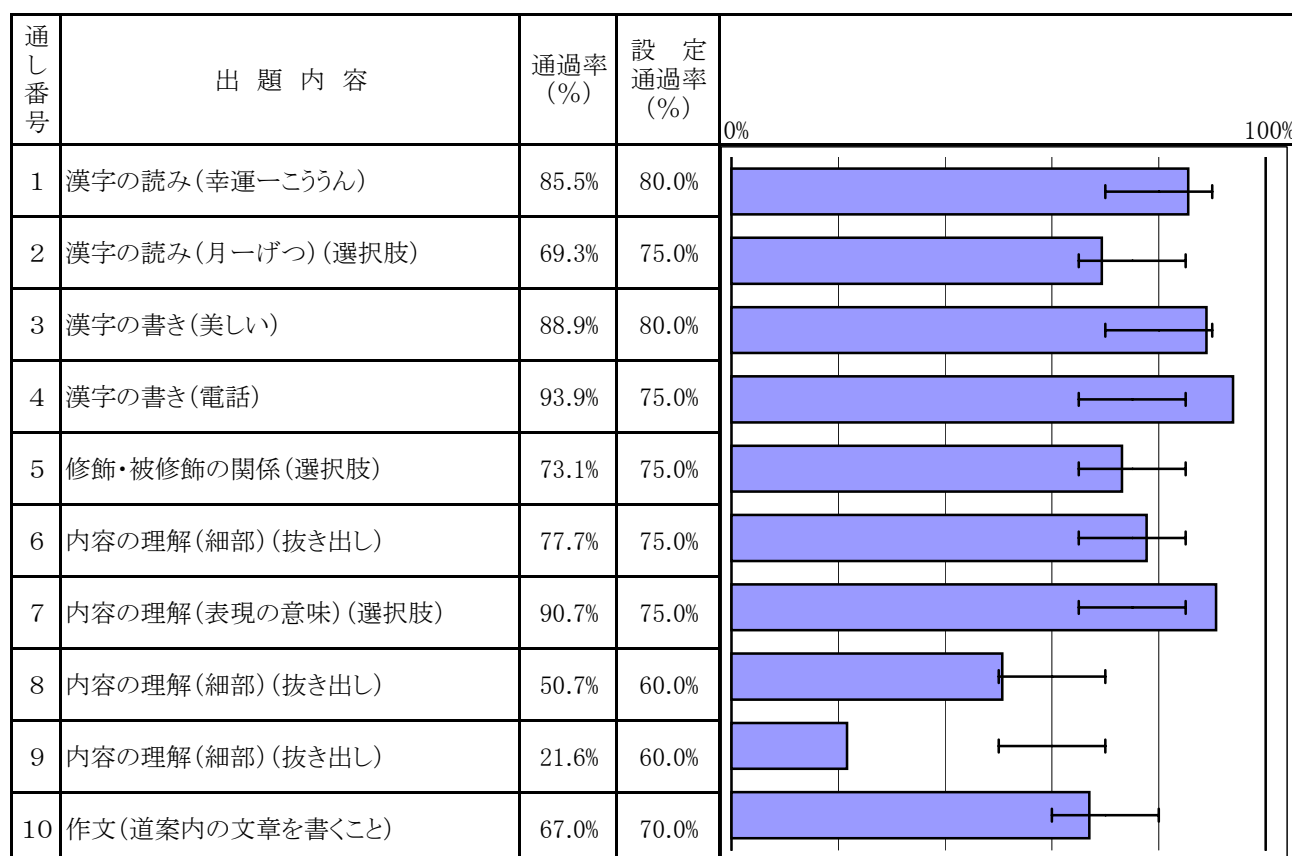
平成 1 9 年度学習状況調査

## 各教科の考察

小学校 第4学年  
国語

小学校4年 国語 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 71.9%



※ ——— は設定通過率±10%を示している。

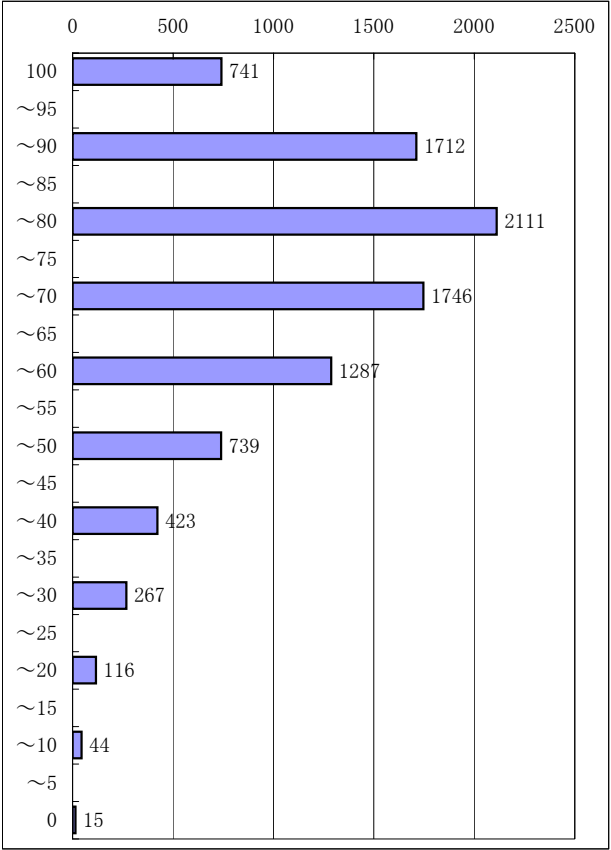
小学校4年 国語

小問別反応率

通し番号			1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
一	1	(1)	85.5%	13.0%	1.5%	0.0%
	2	(2)	69.3%	30.6%	0.1%	0.0%
	3	(3)	88.9%	10.6%	0.5%	0.0%
		(4)	93.9%	5.6%	0.5%	0.0%
	4	(5)	73.1%	26.8%	0.1%	0.0%
二	1	(6)	77.7%	21.8%	0.5%	0.0%
	2	(7)	90.7%	9.1%	0.2%	0.0%
	3	(8)	50.7%	46.7%	2.6%	0.0%
	4	(9)	21.6%	74.5%	3.9%	0.0%
三	(10)		67.0%	32.2%	0.8%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	一-1	一-2	一-3		一-4	二-1	二-2	二-3	二-4	三	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	通過率
100%	5	0	23	28	3	6	8	0	0	2	0
95～100%	13	2	26	52	10	7	38	1	0	5	0
90～95%	29	10	34	51	15	8	49	0	0	7	2
85～90%	47	9	39	18	13	22	45	2	0	8	3
80～85%	32	19	26	9	20	33	16	3	1	26	14
75～80%	16	13	8	3	25	31	5	6	0	9	32
70～75%	9	27	6	0	13	20	0	8	0	15	46
65～70%	10	26	0	1	16	18	2	8	1	19	39
60～65%	1	15	1	1	18	6	0	13	1	19	19
55～60%	0	18	0	0	7	6	0	21	2	12	6
50～55%	1	10	0	0	6	4	0	21	5	15	2
45～50%	0	5	0	0	9	1	0	23	3	7	0
40～45%	0	7	0	0	3	0	0	15	7	7	0
35～40%	0	2	0	0	1	0	0	17	6	7	0
30～35%	0	0	0	0	2	0	0	11	12	2	0
25～30%	0	0	0	0	2	0	0	7	15	3	0
20～25%	0	0	0	0	0	1	0	2	16	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	4	25	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	1	41	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0
計	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163

※1学年20人以上データを提出した学校

# 小学校4年 国語 調査結果及び考察

## (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問題数	10	1	4	5
+10%以上	2	0	1	1
±10%内	7	1	2	4
-10%以下	1	0	1	0

## (2) 考察

全体について

ア 学習の実現状況はおおむね良好といえる。

イ 「言語事項」と「読むこと」について学校間で差が見られる。

成果

ア 「書くこと」では、書く必要のある事柄を収集したり選択したりして書き表すことがおおむね良好である。

イ 「読むこと」では、物語の展開をとらえて内容を想像豊かに読むことが良好である。

ウ 「言語事項」では、漢字の読み・書き、修飾と被修飾の関係の理解がおおむね良好である。

課題

ア 「読むこと」では、叙述に基づいて細部に注意しながら読み取る力が十分ではない。

## (3) 課題をふまえた今後の指導

ア 「読むこと」では、叙述に即して想像的に読み取る力や細部に注意して読み進める力を育成するために、文章中の言葉への気付きを大切にする指導を充実させたい。

・「読むこと」の指導で大切にしたいこと

言葉の意味をとらえる

文脈における言葉の意味について、経験から想像的にとらえたり、辞書的な意味を体験を通して理解して言葉にしたりすることから理解を深める。

場面を思い浮かべる

言葉や文章から場面を具体的に思い浮かべ、自分の言葉で説明をまとめ、伝え合いを通して深める。

自分とのかかわりを考える

読み取ったことを自分とのかかわりで考えるようにし、伝え合いを通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。

問  
ありありと思い出しました。  
とありますが、二郎が思い出したゆ  
めのようすを、文章中の言葉を使っ  
て書きなさい。  
9)

イ 言語事項では、使える語句の量や範囲を広げ、日常生活と結び付けることによって積極的に活用する力を育成する。

- ・漢字の学習は、文や文章の中で正しくとらえながら使わせる繰り返し指導を充実させたい。
- ・そのためには「つくり」や「へん」などの構成について、意味と関係付けた指導を進めたい。日常生活で目にする漢字について、「つくり」や「へん」などの組み合わせによって意味を予想する活動を取り入れていくことも有効である。
- ・辞書を身近に置いて積極的に活用を促し、辞書を引くことが習慣付けられるよう指導したい。

問  
来月の月と同じ読み方  
をするものを、次のア、エから  
一つえらんで、□の中に記号  
を書きなさい。  
2)

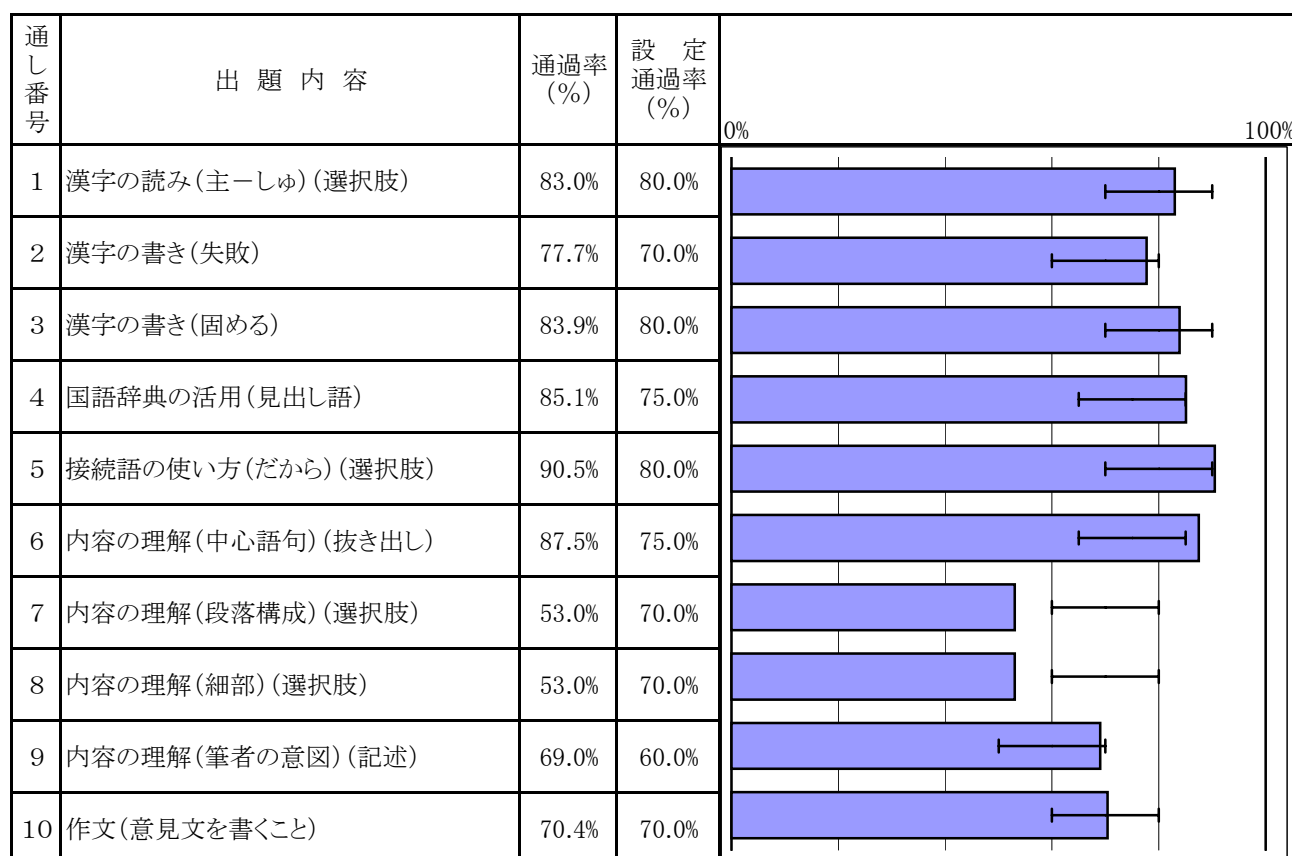
三日月 ウ  
お正月 ア  
月面 エ  
月見 イ

小学校 第 5 学年

国 語

小学校5年 国語 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 75.3%



※ ——— は設定通過率±10%を示している。

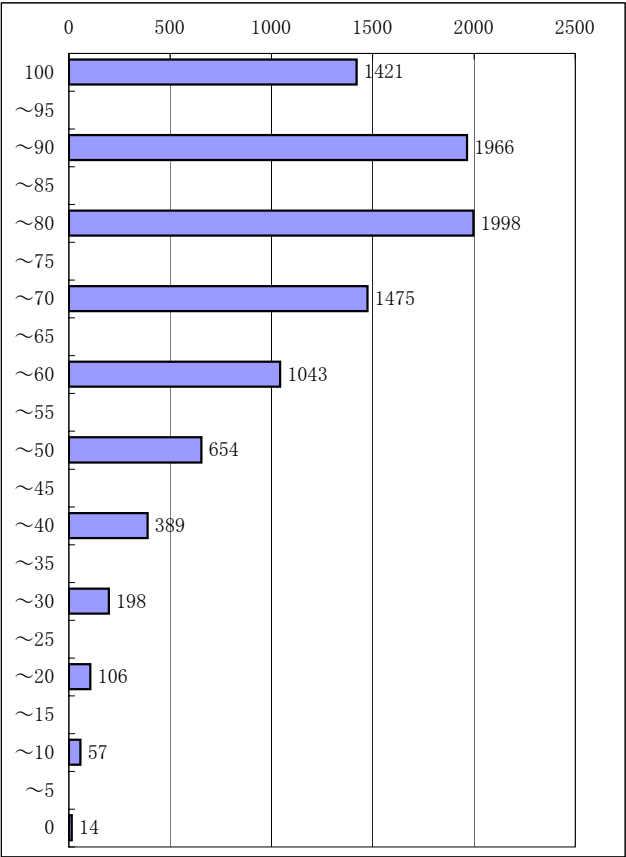
小学校5年 国語

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
一	1	(1)	83.0%	16.9%	0.1%	0.0%
	2	(2)	77.7%	20.1%	2.3%	0.0%
		(3)	83.9%	13.2%	2.9%	0.0%
	3	(4)	85.1%	14.4%	0.5%	0.0%
	4	(5)	90.5%	9.4%	0.1%	0.0%
二	1	(6)	87.5%	11.3%	1.2%	0.0%
	2	(7)	53.0%	46.8%	0.2%	0.0%
	3	(8)	53.0%	46.8%	0.2%	0.0%
	4	(9)	69.0%	27.7%	3.3%	0.0%
三		(10)	70.4%	27.5%	2.2%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	一-1			一-2		一-3		一-4		二-1	二-2	二-3	二-4	三	平均 通過率
	以上	未	満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)		
100%				5	5	7	18	13	10	0	0	1	2	0	
95～100%				13	8	21	21	26	30	1	1	1	12	0	
90～95%				21	15	29	38	59	32	1	0	5	10	2	
85～90%				30	23	31	21	34	40	2	3	14	12	14	
80～85%				40	25	29	26	20	25	3	2	16	22	32	
75～80%				24	22	16	14	10	16	4	4	32	20	44	
70～75%				17	26	13	13	0	6	11	11	28	16	33	
65～70%				6	16	5	6	1	2	9	7	16	13	25	
60～65%				5	13	9	3	1	3	16	18	19	16	13	
55～60%				2	5	4	3	0	0	25	20	5	10	1	
50～55%				0	4	0	1	0	0	28	32	5	9	0	
45～50%				0	1	0	0	0	0	17	21	3	5	0	
40～45%				1	1	0	0	0	0	17	26	3	6	0	
35～40%				0	0	0	0	0	0	18	10	6	3	0	
30～35%				0	0	0	0	0	0	8	2	5	3	0	
25～30%				0	0	0	0	0	0	1	5	4	1	0	
20～25%				0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	
15～20%				0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	
10～15%				0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	
5～10%				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0～5%				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計				164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	

※1学年20人以上データを提出した学校



# 小学校5年 国語 調査結果及び考察

## (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問題数	10	1	4	5
+10%以上	3	0	1	2
±10%内	5	1	1	3
-10%以下	2	0	2	0

## (2) 考察

全体について

- ア 学習の実現状況はおおむね良好といえる。
- イ 「書くこと」と「読むこと」について学校間で差が見られる。

成果

- ア 「書くこと」では、適切な根拠を挙げて考えを書き表すことがおおむね良好である。
- イ 「読むこと」では、部分をまとめ中心となる語を押さえて読むことが良好である。
- ウ 「言語事項」では、漢字の読み・書き、辞書の活用、接続語の理解が良好である。

課題

- ア 「読むこと」では、三つ以上の段落相互の関係をつかむこと、大切なところの細部に注意しながら読む力が十分ではない。

## (3) 課題をふまえた今後の指導

- ア 目的意識や必要感をもって読む活動を通し、段落相互の関係をとらえて全体を読む力を身に付けさせる。

- ・ 文章全体と段落との関係をとらえるために、各段落の内容やつながり方を説明し合うなど、文章全体の段落相互の関係に目を向けて読む学習を充実させたい。
- ・ 文章を意味段落ごとにまとめて紹介するパンフレットをつくったり、文章の内容を紙芝居形式やフリップにして紹介し合ったりするなど、児童が目的や必要感をもって、文章の内容の中心を考えたり発見したりする活動を工夫したい。

問 ③の段落は、①・②の段落とどのような関係になっていますか。次のア～エから一つ選んで□の中に記号を書きなさい。

ア ②段落の要点をまとめて、①段落の答えを書いている。

イ ②段落の要点をまとめて、①段落の疑問を投げかけている。

ウ ②段落の反対の例をあげて、①段落の答えを書いている。

エ ②段落の反対の例をあげて、①段落への疑問を投げかけている。

- イ 読んで、考えて、書く活動を充実し、細部に注意して正しく読む力を身に付けさせる。

- ・ 「読むこと」においては、情報の取り出しから、書かれてあることに自分なりの解釈を加える学習活動を充実させたい。
- ・ 例えば、目的や条件に応じて大切なところの細部を自分の言葉で説明したり、調べたことを引用して本文に補足したりする活動を工夫したい。
- ・ 読んだ結果を生かしてそれぞれが書いたものを相互に交流して、読み取りの質を向上させるための視点を学び合うようにする必要がある。

問 社会のしくみとありますが、筆者はどんなしくみが必要だと考えていますか。次のア～エから一つ選んで□の中に記号を書きなさい。

ア ウシを売買することで、海岸の都市の人たちにもお金がはいるしくみ

イ 海岸の都市の人たちが、サヘルで育ったよぶんなウシを買い取るしくみ

ウ サヘルがたべる草の量が、雨の少ない年の草の量より多くなるしくみ

エ 草や木が十分にそだつことによって、作物をつくる面積が二倍になるしくみ

小学校 第 6 学年

国 語

小学校6年 国語 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 74.3%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0% 100%
1	漢字の読み(採集－さいしゅう)	89.6%	80.0%	
2	漢字の読み(幹－みき)	91.1%	75.0%	
3	漢字の書き(判断)	87.4%	75.0%	
4	漢字の書き(述べる)	90.0%	75.0%	
5	語句の使い方(慣用句)(選択肢)	63.3%	70.0%	
6	同音異字の語(気象)(選択肢)	93.0%	80.0%	
7	語句の使い方(敬語)(選択肢)	56.5%	70.0%	
8	漢字の書き・送り仮名(快い)	61.7%	65.0%	
9	漢字の読み(経る－へる)(選択肢)	60.1%	70.0%	
10	漢字の成り立ち(形声文字)(選択肢)	70.0%	70.0%	
11	対義語(消極←→)(選択肢)	90.2%	75.0%	
12	対義語(基本←→)(選択肢)	86.2%	75.0%	
13	内容の理解(人物の描写)(選択肢)	70.4%	70.0%	
14	内容の理解(文脈上の語句の意味)(選択肢)	88.8%	75.0%	
15	内容の理解(情景描写)(抜き出し)	31.0%	60.0%	
16	内容の理解(心情)(選択肢)	88.3%	70.0%	
17	内容の理解(場面の描写)(記述)	86.6%	70.0%	
18	内容の理解(説明・描写の区別)(選択肢)	54.7%	65.0%	
19	内容の理解(表現の特徴)(記述)	62.3%	60.0%	
20	作文(呼びかけの原稿を書くこと)	65.7%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

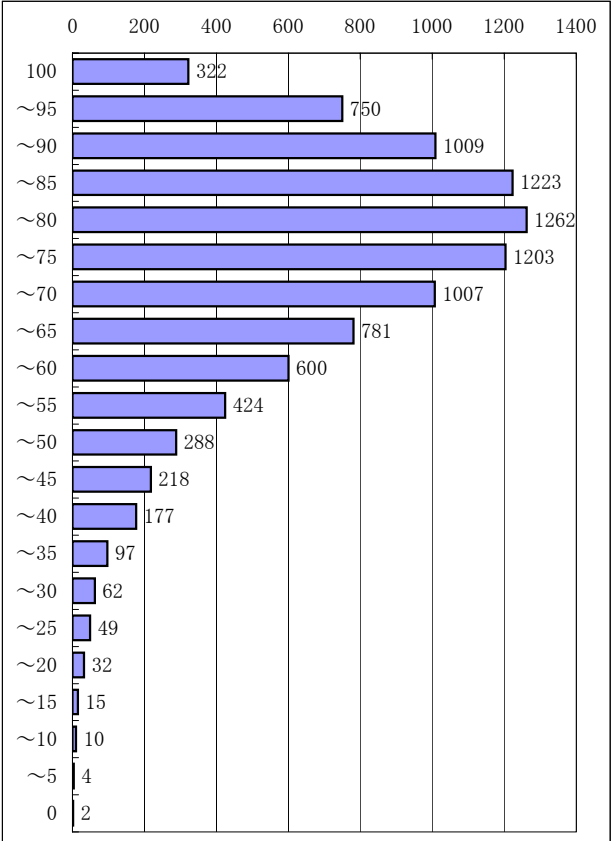
小学校6年 国語

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
一	1	(1)	89.6%	9.8%	0.7%	0.0%
		(2)	91.1%	7.7%	1.1%	0.0%
	2	(3)	87.4%	10.8%	1.8%	0.0%
		(4)	90.0%	8.8%	1.2%	0.0%
	3	(5)	63.3%	36.6%	0.1%	0.0%
	4	(6)	93.0%	7.0%	0.1%	0.0%
	5	(7)	56.5%	43.3%	0.2%	0.0%
	6	(8)	61.7%	34.6%	3.7%	0.0%
	7	(9)	60.1%	39.4%	0.4%	0.0%
	8	(10)	70.0%	29.8%	0.2%	0.0%
	9	(11)	90.2%	9.2%	0.6%	0.0%
		(12)	86.2%	13.0%	0.8%	0.0%
二	1	(13)	70.4%	29.5%	0.1%	0.0%
	2	(14)	88.8%	11.1%	0.1%	0.0%
	3	(15)	31.0%	61.4%	7.6%	0.0%
	4	(16)	88.3%	11.5%	0.2%	0.0%
	5	(17)	86.6%	11.5%	1.9%	0.0%
	6	(18)	54.7%	41.8%	3.5%	0.0%
	7	(19)	62.3%	29.2%	8.5%	0.0%
三	(20)		65.7%	32.7%	1.6%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	一-1		一-2		一-3		一-4	一-5	一-6	一-7	一-8	一-9		二-1	二-2	二-3	二-4	二-5	二-6	二-7	三	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率	
100%	12	24	6	18	0	22	2	0	0	0	23	8	1	7	0	9	6	0	0	2	0	
95～100%	19	40	26	28	3	52	0	4	4	5	40	15	3	25	0	19	11	0	0	15	0	
90～95%	60	42	45	48	3	58	1	2	3	6	46	38	6	50	1	47	36	0	2	15	2	
85～90%	37	23	37	36	3	17	2	12	5	8	22	37	7	39	2	47	48	4	6	12	5	
80～85%	15	12	22	18	4	6	4	13	14	21	15	30	17	23	3	24	38	0	8	19	19	
75～80%	13	12	14	6	10	6	4	11	17	27	7	21	23	13	3	13	13	2	20	15	49	
70～75%	3	3	5	3	14	0	6	9	14	16	2	8	24	4	1	2	6	7	12	10	52	
65～70%	2	5	3	4	19	1	15	15	12	19	4	3	29	1	3	0	2	7	23	10	25	
60～65%	1	0	2	0	33	0	20	17	13	20	1	2	31	0	4	1	1	26	16	14	9	
55～60%	0	0	0	1	32	0	27	11	17	14	2	0	16	0	4	0	1	28	27	8	0	
50～55%	0	1	1	0	28	0	35	25	17	11	0	0	4	0	3	0	0	34	22	5	1	
45～50%	0	0	0	0	6	0	19	9	14	8	0	0	0	0	9	0	0	23	8	5	0	
40～45%	0	0	1	0	5	0	16	7	9	5	0	0	1	0	10	0	0	19	10	9	0	
35～40%	0	0	0	0	1	0	8	9	3	1	0	0	0	0	12	0	0	7	3	4	0	
30～35%	0	0	0	0	0	0	2	3	7	1	0	0	0	0	10	0	0	3	2	2	0	
25～30%	0	0	0	0	0	0	1	8	8	0	0	0	0	0	16	0	0	0	1	3	0	
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0	0	0	0	0	25	0	0	2	1	5	0	
15～20%	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	25	0	0	0	1	4	0	
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	2	0	
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	2	0	
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	0	
計	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	

※1学年20人以上データを提出した学校

# 小学校6年 国語 調査結果及び考察

## (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問 題 数	20	1	7	12
+10%以上	9	0	3	6
±10%内	8	1	2	5
-10%以下	3	0	2	1

## (2) 考察

全体について

- ア 学習の実現状況はおおむね良好である。
- イ 「言語事項」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において学校間で差が見られる。

成果

- ア 「書くこと」では、具体的事象を通して自分の考えを書くことがおおむね良好である。
- イ 「読むこと」では、語句を適切に把握して場面を読み取ることが良好である。
- ウ 「言語事項」では、漢字の読み・書き、同音異字、対義語の理解が良好である。

課題

- ア 「読むこと」では、表現の特徴に着目して内容を理解したり、説明と描写の区別を通して全体を把握したりする力が十分ではない。
- イ 「言語事項」では、尊敬語や謙譲語、丁寧な言い方を場面に応じて使い分ける力が十分ではない。

## (3) 課題をふまえた今後の指導

- ア 「読むこと」では、優れた叙述を味わうための指導を工夫をしたい。

- ・児童自らが、優れた表現や工夫された表現だと思う部分などにサイドラインを引けるよう、言葉や表現に着目する学習を進めたい。
- ・例えば、「普通と違う表現」「前と変化している表現」「繰り返されている表現」の三つを児童に提示し、その語や部分を選んだ根拠を明らかにしながら、読みを深めていく。

問

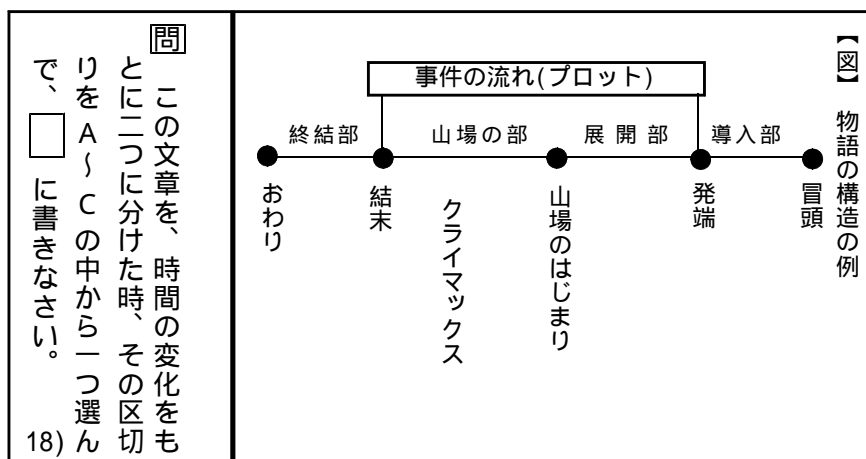
19) 由も合  
がら一  
わがわ  
わせ  
せて  
書  
き  
な  
さ  
い。

問

16) 丸くし  
すが、  
この  
とき  
の  
一  
郎  
さ  
ま  
を  
あ  
つ  
け  
に  
と  
ら  
れ  
て  
目  
を

- イ 「読むこと」では、文章全体を把握するための指導を工夫したい。

- ・物語の構造の典型を児童に示すなどして、物語全体をとらえて読む力の育成を図りたい。



- ・例えば、左図を学習後、「説明から描写へかわるのはどこか(発端)。」「事件が大きく変化するのはどこか(クライマックス)。」といった発問から話し合いを行うなどして、読み深める工夫をしたい。


中学校 第 1 学年

国 語

中学校1年 国語 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 69.5%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
1	漢字の読み(縮尺ーしゅくしゃく)	75.2%	70.0%	
2	漢字の読み(改行ーかいぎょう)	49.4%	65.0%	
3	漢字の書き(認める)	74.8%	75.0%	
4	漢字の書き(往復)	70.0%	70.0%	
5	漢字の読み(意図)(選択肢)	75.3%	85.0%	
6	同訓異字(務める)(選択肢)	81.5%	70.0%	
7	同音の漢字(採集)(選択肢)	83.9%	85.0%	
8	語句の使い方(助詞)(選択肢)	96.4%	85.0%	
9	語句の使い方(副詞)(選択肢)	81.5%	85.0%	
10	語句の使い方(接尾語)(選択肢)	47.1%	65.0%	
11	語句の由来(漢語)	53.3%	65.0%	
12	語句の使い方(ことわざ)(選択肢)	81.4%	70.0%	
13	語句の使い方(四字熟語)(選択肢)	98.6%	80.0%	
14	事象と感想、意見の区別	42.8%	65.0%	
15	内容の理解	81.0%	85.0%	
16	内容の理解(抜き出し)	48.1%	65.0%	
17	段落構成(選択肢)	62.8%	65.0%	
18	筆者の考え(抜き出し)	52.2%	60.0%	
19	自分の考え(記述)	66.7%	60.0%	
20	見出しのよさを書くこと	68.5%	80.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

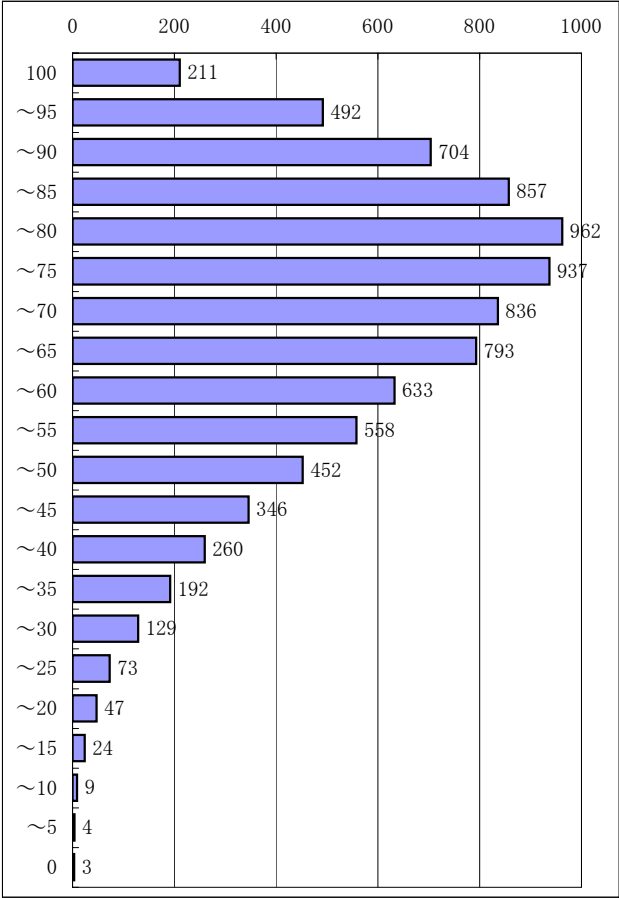
中学校1年 国語

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
一	1	(1)	75.2%	21.7%	3.1%	0.0%
		(2)	49.4%	47.5%	3.2%	0.0%
		(3)	74.8%	14.1%	11.1%	0.0%
		(4)	70.0%	24.7%	5.3%	0.0%
	2	(5)	75.3%	24.5%	0.2%	0.0%
	3	(6)	81.5%	18.4%	0.1%	0.0%
	4	(7)	83.9%	16.0%	0.1%	0.0%
	5	(8)	96.4%	3.5%	0.0%	0.0%
	6	(9)	81.5%	18.4%	0.1%	0.0%
	7	(10)	47.1%	52.8%	0.1%	0.0%
	8	(11)	53.3%	46.2%	0.4%	0.0%
	9	(12)	81.4%	18.5%	0.1%	0.0%
	10	(13)	98.6%	1.2%	0.1%	0.0%
二	1	(14)	42.8%	56.6%	0.6%	0.0%
	2	(15)	81.0%	18.6%	0.4%	0.0%
	3	(16)	48.1%	45.3%	6.6%	0.0%
	4	(17)	62.8%	36.7%	0.5%	0.0%
	5	(18)	52.2%	40.7%	7.1%	0.0%
	6	(19)	66.7%	28.9%	4.3%	0.0%
三	(20)		68.5%	26.9%	4.6%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	一-1				一-2	一-3	一-4	一-5	一-6	一-7	一-8	一-9	一-10	二-1	二-2	二-3	二-4	二-5	二-6	三	平均 通過率
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	2	0	0	0	0	0	1	24	0	0	0	0	53	0	0	0	0	0	0	1	0
95～100%	3	0	1	1	1	2	3	70	0	0	0	4	64	0	3	0	0	0	3	0	0
90～95%	12	0	6	7	7	11	18	25	15	0	0	5	5	0	8	0	0	0	3	5	0
85～90%	13	0	9	7	14	34	35	3	23	0	0	23	0	0	18	0	3	0	5	6	0
80～85%	20	2	18	19	27	31	38	0	39	1	0	42	0	0	41	1	2	0	13	9	3
75～80%	15	2	31	18	23	21	21	0	22	2	2	28	0	0	35	0	4	0	21	18	10
70～75%	23	3	24	20	14	14	3	0	17	5	1	16	0	1	13	1	11	2	12	16	45
65～70%	14	3	17	16	14	4	3	0	4	7	6	4	0	3	4	3	26	7	20	21	43
60～65%	8	10	7	13	9	3	0	0	2	6	16	0	0	4	0	8	35	9	13	20	19
55～60%	5	14	5	7	4	2	0	0	0	12	26	0	0	5	0	16	20	22	8	9	2
50～55%	4	21	2	4	1	0	0	0	0	13	30	0	0	6	0	15	14	34	13	7	0
45～50%	2	23	1	3	5	0	0	0	0	12	23	0	0	25	0	31	4	28	6	4	0
40～45%	0	17	1	3	1	0	0	0	0	20	12	0	0	29	0	27	3	10	2	3	0
35～40%	1	15	0	4	1	0	0	0	0	15	2	0	0	27	0	8	0	6	2	3	0
30～35%	0	7	0	0	1	0	0	0	0	15	2	0	0	17	0	9	0	4	1	0	0
25～30%	0	4	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0
20～25%	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

※1学年20人以上データを提出した学校



## 中学校 1 年 国語 調査結果及び考察

### ( 1 ) 設定通過率との比較

比 較 表	全 体	観 点 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問 題 数	20	1	6	13
+ 10% 以上	4	0	0	4
± 10% 内	10	0	4	6
- 10% 以下	6	1	2	3

### ( 2 ) 考察

全体について

ア 学習の実現状況はおおむね良好といえる。

イ 「言語事項」では学校間で差が見られ、「読むこと」に関する実現状況は良好であるとはいえない。

成果

ア 「読むこと」では、筆者の意見をとらえ、それに対して自分の考えを明らかにして書くことがおおむね良好である。

イ 「言語事項」の漢字の読み・書き、同訓異字、ことわざ、四字熟語の理解が良好である。

課題

ア 「書くこと」では、適切な根拠に基づいて書く力が十分ではない。

イ 「読むこと」では、事象と意見の区別、段落構成をとらえる力が十分ではない。

ウ 「言語事項」では、接尾語、語句の由来についての理解が十分ではない。

### ( 3 ) 課題をふまえた今後の指導

ア 「書くこと」の学習では、自分の考えを明確にすること、自分の考えが効果的に伝わるよう根拠に基づき論理的に書く指導に力を入れたい。

問  
のかのらと  
理。見次しこ  
由一出のたの  
をつし三ら記  
を書選をつ、事  
きん選のあに  
なび中な付  
さい。まのたけ  
20)。すどなる

目的や意図に応じ、自分の考えを筋道を立てて書くことができるように、「書く」過程を意識して指導することが大切である。

自分の考えを明確にすること。考えを一文で表したり、判断の理由をすべて挙げてみたりすることで自分の考えが明確になる。

複数の理由(根拠となる事柄)を整理すること。共通項をまとめる、軽重を判断する、事実に基づいているかどうかを検討することにより、必要な情報を絞り込む。

根拠となる事柄を、効果的な順序を考えて構成すること。その際、自分の考えと根拠となる事柄(理由)を区別して記述する。

イ 「読むこと」の学習では、事象と意見を区別して読み取ることについて定着を図り、説明的文章の構成をとらえる力を身に付けさせたい。

問  
て、室  
の番号、町  
を書者の時  
きな代の  
さい。考の  
を述道  
べての  
いるあ  
るよう  
に付  
14) 落  
い

事象と意見を区別する力や、事象と意見の関係や文章構成をとらえる力を育成するには、次のような手立てを講じるなどして、段階的に指導を進めることが大切である。

具体例(事実)と考え(意見)の区別を明確にする。

次の a ~ c の文は、「事実」か「意見」か。

a 道をはいている人がいる。

b おにごっこをする子供たちが群れている。

c 町の中の道は、単なる人や物の通り道ではなかった。

「事実」は実際にあったこと、だれでも確かめられることであり、「意見」は書き手が考えたこと、確かめられないことである。

「意見」を裏付けるものとして「事実」があることを理解させる。

「町の中の道は単なる通り道ではなく、生活の場であった。」

《裏付け》

(意見)

室町時代の絵に見える人々の姿(事実)

中学校 第 2 学年

国 語

中学校2年 国語 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 70.2%

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0%100%
1	漢字の読み(淡いーあわい)	86.7%	70.0%	
2	漢字の読み(前途ーぜんと)	63.6%	60.0%	
3	漢字の書き(届く)	90.8%	85.0%	
4	漢字の書き(公式)	62.8%	65.0%	
5	漢字の書き(疑い)	64.7%	60.0%	
6	漢字の読み(違=い)(選択肢)	60.8%	70.0%	
7	語句の意味(目)(選択肢)	69.3%	75.0%	
8	語句の意味(比重)(選択肢)	66.3%	75.0%	
9	接頭語(未～)(選択肢)	82.9%	85.0%	
10	単語の類別(名詞)(選択肢)	37.5%	60.0%	
11	文節と文節の関係(補助の関係)(選択肢)	68.6%	70.0%	
12	接続語の働き(累加)(選択肢)	96.5%	85.0%	
13	歴史的仮名遣い(云ふ)(記述)	81.5%	85.0%	
14	内容の理解(選択肢)	66.4%	70.0%	
15	内容の理解(抜き出し)	82.5%	70.0%	
16	内容の理解(抜き出し)	50.1%	65.0%	
17	内容の理解(記述)	70.3%	70.0%	
18	ものの見方や考え方の理解(記述)	53.6%	60.0%	
19	表現の特色を考える(選択肢)	66.7%	70.0%	
20	資料を見て自分の考えを書くこと	82.8%	80.0%	

※は設定通過率±10%を示している。

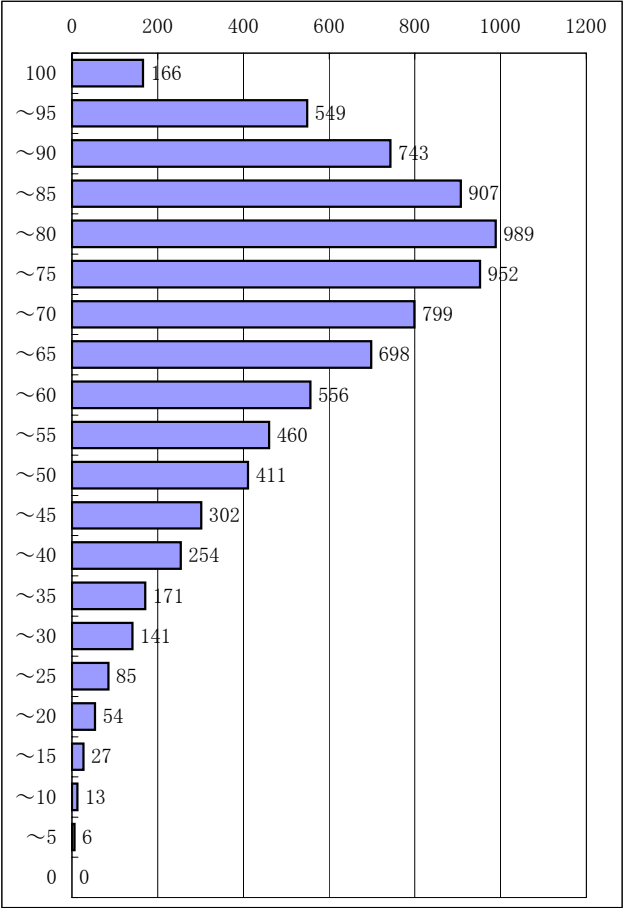
中学校2年 国語

小問別反応率

通し番号			1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
一	1	(1)	86.7%	10.8%	2.5%	0.0%
		(2)	63.6%	30.3%	6.1%	0.0%
		(3)	90.8%	3.8%	5.4%	0.0%
		(4)	62.8%	20.4%	16.8%	0.0%
		(5)	64.7%	15.8%	19.5%	0.0%
	2	(6)	60.8%	37.7%	1.5%	0.0%
	3	(7)	69.3%	30.4%	0.2%	0.0%
	4	(8)	66.3%	33.6%	0.1%	0.0%
	5	(9)	82.9%	17.0%	0.1%	0.0%
二	1	(10)	37.5%	62.1%	0.5%	0.0%
	2	(11)	68.6%	31.1%	0.3%	0.0%
	3	(12)	96.5%	3.5%	0.1%	0.0%
三	1	(13)	81.5%	16.1%	2.4%	0.0%
	2	(14)	66.4%	33.3%	0.3%	0.0%
四	1	(15)	82.5%	11.8%	5.7%	0.0%
	2	(16)	50.1%	42.7%	7.3%	0.0%
	3	(17)	70.3%	21.5%	8.2%	0.0%
	4	(18)	53.6%	30.9%	15.5%	0.0%
	5	(19)	66.7%	32.2%	1.1%	0.0%
五	(20)		82.8%	13.5%	3.7%	0.0%

※4 (未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	一-1					一-2	一-3	一-4	一-5	二-1	二-2	二-3	三-1	三-2	四-1	四-2	四-3	四-4	四-5	五	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	8	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	2	0
95～100%	15	0	25	0	0	0	0	1	2	0	2	66	3	0	4	0	1	0	0	11	0
90～95%	22	1	47	0	2	1	0	1	5	0	3	33	12	0	9	0	2	0	0	35	0
85～90%	30	3	29	1	2	1	5	12	43	0	10	4	36	2	34	0	9	1	3	23	0
80～85%	23	4	14	3	5	3	4	9	37	0	9	0	24	6	36	1	18	2	4	15	1
75～80%	15	12	1	10	19	6	29	13	24	0	15	0	22	12	28	1	26	2	8	12	16
70～75%	7	21	0	11	17	8	22	11	10	0	19	0	15	21	6	4	16	7	25	6	47
65～70%	2	14	3	23	24	21	25	16	2	1	18	0	9	32	4	6	20	14	33	10	47
60～65%	1	26	0	25	14	27	20	17	0	0	15	0	1	23	1	8	11	22	30	4	11
55～60%	0	19	0	17	18	28	13	13	0	3	11	0	1	16	1	20	9	16	14	2	1
50～55%	0	11	0	23	11	16	4	17	0	6	13	0	0	8	0	26	3	14	6	1	0
45～50%	0	6	0	4	6	5	0	6	0	13	5	0	0	2	0	18	2	18	0	1	0
40～45%	0	6	0	4	3	6	0	5	0	21	2	0	0	1	0	14	1	11	0	0	0
35～40%	0	0	0	1	1	1	1	2	0	32	0	0	0	0	0	15	1	4	0	0	0
30～35%	0	0	0	1	1	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	8	0	3	0	1	0
25～30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	1	0	0	0	0	1	2	2	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123

※1学年20人以上データを提出した学校

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全 体	観 点 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問 題 数	20	1	6	13
+ 10%以上	3	0	1	2
± 10%内	15	1	4	10
- 10%以下	2	0	1	1

全体について

- イ 「書くこと」に関する実現状況はおおむね良好であるが、「読むこと」については学校間で差が見られる。

ア 「書くこと」では、資料（グラフ）を見て自分の体験や見聞きしたことと関連付けて自分の考えを記述することが良好である。

- ウ 「言語事項」では、生活場面によく使用される漢字の読み・書きや語句の意味の理解についてはおおむね良好である。

ア「読むこと」では、表現に着目した読みの力や、読み取ったことを基に目的や条件に応じて書く力が十分に身に付いているとはいえない。

- イ 「言語事項」では、単語の類別についての理解が十分ではない。

「読むこと」においては、生徒が目的意識を明確にもち、読み取った事柄を相互に関連付けて解釈したり、生活経験と結び付けて自分の考えをまとめたりする学習を展開する。

- ・「読むこと」の学習においては、生徒が抱いた疑問や感動から、読みの課題を設定するなど、生徒の目的意識を高めることが大切である。例えば、初発の感想などから追究テーマや学習課題を設定し、学習計画を立てることを取り入れたい。

- ・授業においては、発問に留意したい。例えば、次のように発問を整理し、生徒の思考に働きかけるように工夫する必要がある。  
 目的や条件に応じた情報を正確に取り出すための発問

(情報の取り出し)

書かれていることの意味を説明するための発問（解釈）

根拠に基づいて自分の考えを話したり書いたりするための発問や、表現の特色や効果について説明するための発問

(熟考・評価)

- ・自分の考えを深めるには、伝え合う活動を通して他と自分の考えを比較したり、多様な資料に自分の考えを照合させたりなどし、折々に書いてまとめる場面を設定することが大切である。

問 みんなに聞こえるように言いながら、テツオの頭をグリグリとなでた。とありますが、この行動には兄やんのテツオに対するどんな気持ちが表示されているか、「という気持ち。」につながるように四十字以内で書きなさい。

18)

イ 言語事項の指導内容の系統性を理解し、知識としての定着と活用を図る。

- ・言語事項については、小学校での指導内容を踏まえた上でその定着を図りたい。特に、各領域の学習と関連付けて、文脈の中でのその語句のもつはたらきや意味に着目させるなど、学習の有用感を味わわせることが大切である。

- ・言葉への関心を高めるために、例えば慣用表現を集め、辞典にまとめるような作品づくりを取り入れ、目的をもって取り組む活動が有効である。また、日常的に、新聞記事や図書の中から見付けた言葉を取り上げ、その言葉の意味や活用例を示すことなども、言葉への関心を高めることになる。

問 次の例文の「様子」と同じは  
 たらきの単語を、ア〜エから  
 一つ選んで記号を書きなさい。  
 (例文) 相手の様子をうかがう。  
 ア 今、何をするべきか考える。  
 ・ この本は、とてもおもしろい。  
 ・ 庭の花が、きれいに咲いた。  
 ・ ゴールまで、力いっぱい走る。  
 エ

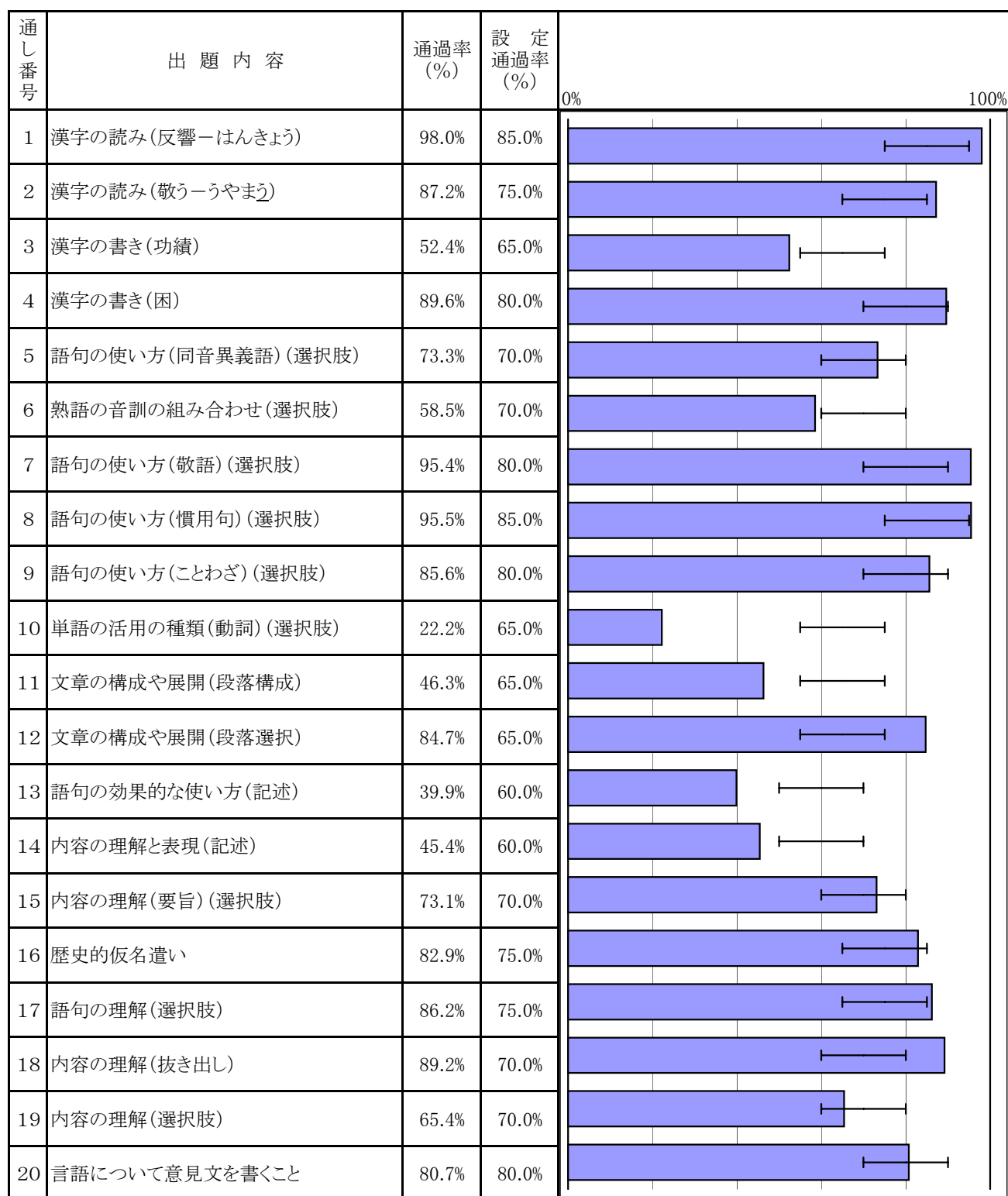
10)


中学校 第3学年

国 語

中学校3年 国語 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 72.6%



※  は設定通過率±10%を示している。

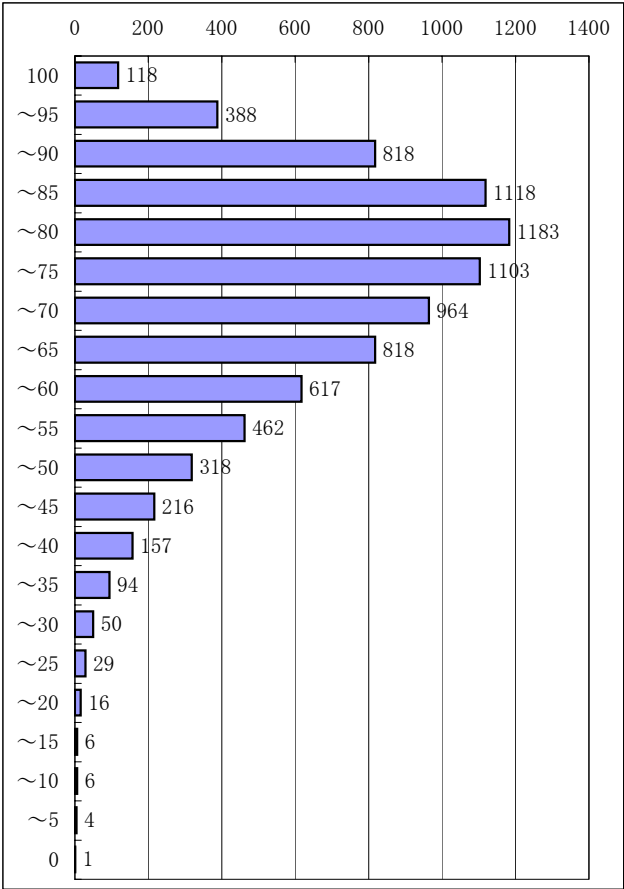
中学校3年 国語

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
一	1	(1)	98.0%	1.6%	0.3%	0.0%
		(2)	87.2%	10.3%	2.5%	0.0%
		(3)	52.4%	39.0%	8.6%	0.0%
		(4)	89.6%	6.7%	3.7%	0.0%
	2	(5)	73.3%	26.6%	0.1%	0.0%
	3	(6)	58.5%	41.3%	0.2%	0.0%
	4	(7)	95.4%	4.6%	0.0%	0.0%
		(8)	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%
		(9)	85.6%	14.2%	0.2%	0.0%
	5	(10)	22.2%	77.7%	0.2%	0.0%
二	1	(11)	46.3%	53.2%	0.5%	0.0%
	2	(12)	84.7%	14.8%	0.5%	0.0%
	3	(13)	39.9%	56.8%	3.3%	0.0%
	4	(14)	45.4%	48.5%	6.1%	0.0%
	5	(15)	73.1%	26.4%	0.4%	0.0%
三	1	(16)	82.9%	17.0%	0.2%	0.0%
	2	(17)	86.2%	13.5%	0.3%	0.0%
	3	(18)	89.2%	9.3%	1.4%	0.0%
	4	(19)	65.4%	34.1%	0.6%	0.0%
四	(20)	80.7%	15.4%	3.9%	0.0%	

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	一-1				一-2		一-3		一-4		一-5		二-1	二-2	二-3	二-4	二-5	三-1	三-2	三-3	三-4	四	平均
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率		
100%	38	4	0	4	0	0	14	13	1	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	3	0		
95～100%	74	12	1	17	0	0	60	60	6	0	0	4	1	0	1	2	5	12	0	13	0		
90～95%	9	34	0	38	2	0	39	43	24	0	0	17	1	2	0	18	29	49	0	21	0		
85～90%	1	35	1	39	8	0	9	5	42	0	0	37	6	2	2	35	37	28	2	22	0		
80～85%	0	18	3	13	12	2	0	1	34	0	0	45	3	3	11	35	38	24	3	16	5		
75～80%	0	10	6	8	31	5	0	0	8	0	1	18	6	1	37	14	12	5	9	12	29		
70～75%	0	5	5	3	31	5	0	0	5	0	0	1	9	3	39	10	1	0	18	14	56		
65～70%	0	2	14	0	20	16	0	0	2	1	3	0	7	2	20	5	0	0	34	9	32		
60～65%	0	2	8	0	12	26	0	0	0	2	2	0	7	7	10	1	0	0	24	5	0		
55～60%	0	0	12	0	6	22	0	0	0	1	10	0	6	6	2	0	0	0	20	4	0		
50～55%	0	0	20	0	0	29	0	0	0	6	22	0	3	12	0	0	0	0	9	2	0		
45～50%	0	0	18	0	0	10	0	0	0	2	35	0	5	13	0	0	0	0	3	0	0		
40～45%	0	0	12	0	0	6	0	0	0	7	24	0	1	20	0	0	0	0	0	0	0		
35～40%	0	0	12	0	0	1	0	0	0	5	12	0	4	23	0	0	0	0	0	1	0		
30～35%	0	0	5	0	0	0	0	0	0	8	8	0	2	16	0	0	0	0	0	0	0		
25～30%	0	0	2	0	0	0	0	0	0	14	4	0	10	11	0	0	0	0	0	0	0		
20～25%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	16	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0		
15～20%	0	0	2	0	0	0	0	0	0	17	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0		
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	1	0	12	1	0	0	0	0	0	0	0		
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0		
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122		

※1学年20人以上データを提出した学校



## 中学校3年 国語 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問題数	20	1	9	10
+10%以上	7	0	3	4
±10%内	7	1	3	3
-10%以下	6	0	3	3

### (2) 考察

全体について

ア 学習の実現状況はおおむね良好といえる。

イ 「言語事項」と「読むこと」について学校間で差が見られる。

成果

ア 「書くこと」は、3年連続して設定通過率を上回っており、資料から課題を見いだして、根拠を明確にして自分の考えを書く力の定着が見られる。

イ 「読むこと」では、古文の設問における通過率が年々上昇傾向にあり、授業改善の成果が見られる。

課題

ア 「読むこと」では、構成や展開を的確にとらえて論理的に記述する力が十分ではない。

イ 「言語事項」では、単語の活用についての理解が十分ではない。

### (3) 課題をふまえた今後の指導

ア 「読むこと」の学習では、説明的文章を読んで筆者の意図を読み取ったり、理解・解釈したりする力を身に付けさせる。

13)	で書きなさい。	線は、に続けて三十文字以内	内容を指していますか。紫外	ひがみとは、どのような人間の	問第10段落にある

・文脈の中における語句の効果的な使い方について理解するためには、授業の中でキーワードやキーセンテンスに目を向けさせる活動を意図的に設定することが大切である。その語句の一般的な意味を踏まえながら、書き手が具体的なイメージを背景として文脈中に配置している意図を読み取るためにも、言語事項の第2学年及び第3学年の指導事項イ、ウと関連させて指導することが必要である。

・語句の効果的な使い方を理解し、自分の言葉の使い方に役立てる力を育てるために、叙述や構成を踏まえて語句や内容の意味を解釈したり、自分の考えをまとめる際に文章を引用したりするなどの学習活動を設定する必要がある。

・様々なテキストを理解しながら読む能力を高めるために、学校図書館を活用するなど読書の活性化につながるような学習過程を意図的に組み込む必要がある。

イ 言葉のきまりを理解し、日常生活で運用する能力の確実な定着を図る。

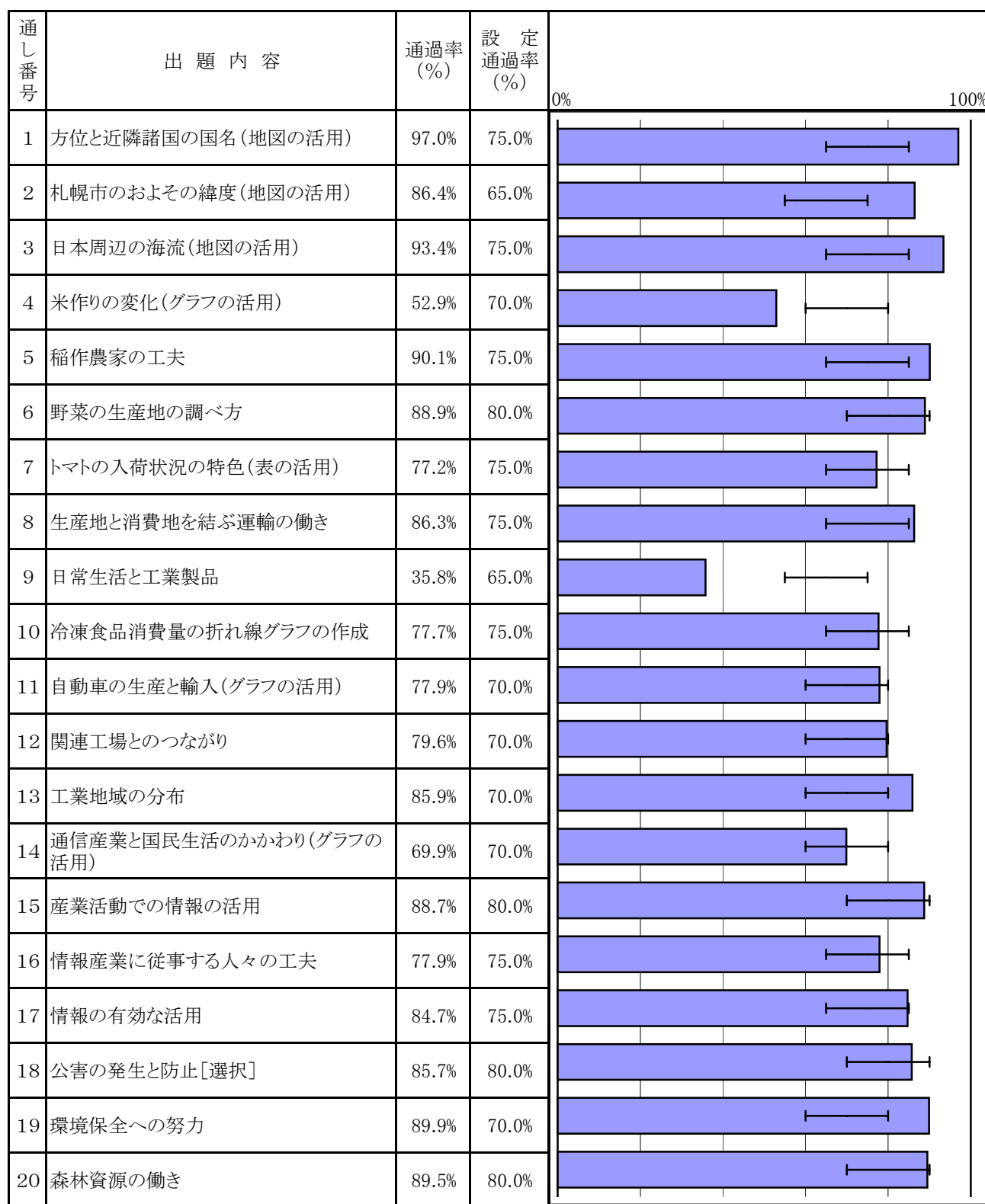
(省略)	例文、選択肢文一部	エ ウ イ ア	食 書 見 破  べ い て ら  る た い な	(例文)	起 き る	い。	選 ん で 記 号 を 書 き な さ	詞、ア、エ、カ、ナ、ツ	と、同じ活用	次の例文の起る動	問

・言葉を効果的に運用する力を育てるためには、言葉のきまりについての正確な知識の習得が不可欠である。

・言葉のきまりの指導については、「書くこと」や「読むこと」と関連付けた指導を大切にし、知識の習得と活用の両面で指導を充実させたい。

・漢字や語句、ことわざや慣用句等、学習したことが実生活や学習場面で役立つような内容や教材、指導の在り方を工夫する。

小学校 第 6 学年  
社 会



※ は設定通過率±10%を示している。

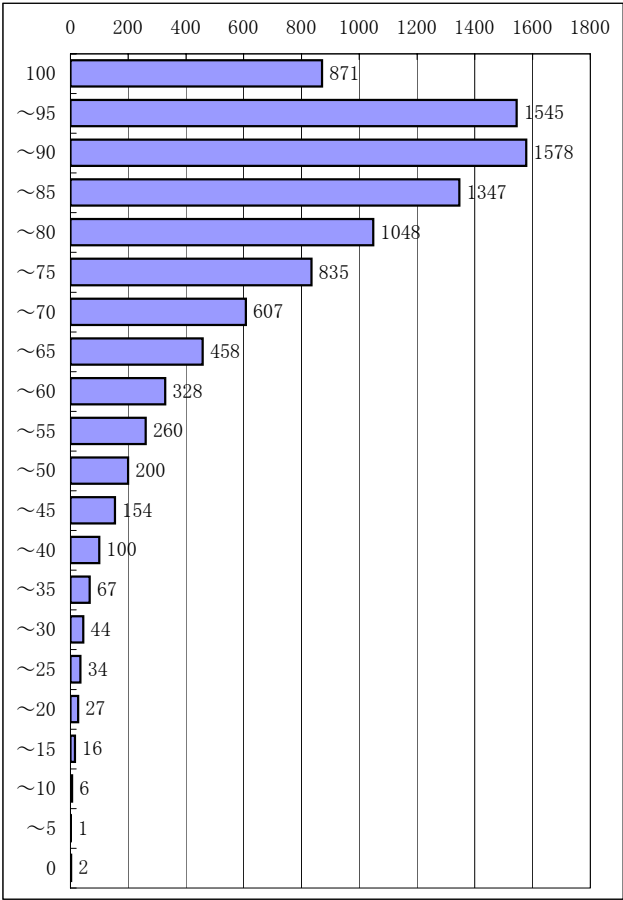
小学校6年 社会

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1)	97.0%	2.9%	0.0%	0.0%
	2	(2)	86.4%	13.4%	0.2%	0.0%
	3	(3)	93.4%	6.1%	0.5%	0.0%
2	1	(4)	52.9%	46.8%	0.3%	0.0%
	2	(5)	90.1%	9.8%	0.1%	0.0%
	3	(6)	88.9%	10.7%	0.4%	0.0%
	4	(7)	77.2%	22.4%	0.5%	0.0%
	5	(8)	86.3%	13.6%	0.1%	0.0%
3	1	(9)	35.8%	62.6%	1.6%	0.0%
	2	(10)	77.7%	20.6%	1.7%	0.0%
	3	(11)	77.9%	21.8%	0.3%	0.0%
	4	(12)	79.6%	20.2%	0.2%	0.0%
	5	(13)	85.9%	11.2%	2.9%	0.0%
4	1	(14)	69.9%	29.3%	0.7%	0.0%
	2	(15)	88.7%	11.0%	0.4%	0.0%
5	1	(16)	77.9%	21.8%	0.3%	0.0%
	2	(17)	84.7%	15.1%	0.2%	0.0%
6	1	(18)	85.7%	13.5%	0.8%	0.0%
	2	(19)	89.9%	8.9%	1.2%	0.0%
	3	(20)	89.5%	9.8%	0.7%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	4-1	4-2	5-1	5-2	6-1	6-2	6-3	平均
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	53	7	33	0	12	13	0	6	1	3	1	1	11	1	7	4	1	2	28	11	0
95～100%	79	19	48	0	19	24	4	11	1	7	2	4	25	1	24	4	14	17	36	31	0
90～95%	27	38	47	3	61	45	14	40	1	15	10	22	37	3	47	13	29	32	40	53	7
85～90%	3	41	21	1	49	44	15	44	3	20	16	26	26	10	47	25	46	47	25	30	27
80～85%	0	25	4	6	12	16	31	35	4	33	38	30	28	14	25	30	33	36	10	20	68
75～80%	0	16	5	4	6	9	36	13	6	23	40	31	10	21	8	34	26	15	13	10	38
70～75%	0	7	1	7	2	3	21	10	5	24	26	26	6	29	1	19	8	8	4	4	17
65～70%	0	7	3	11	0	3	25	0	8	21	15	13	8	34	1	14	2	4	1	0	2
60～65%	0	1	0	16	0	1	11	3	1	3	10	3	6	23	0	9	1	1	1	1	2
55～60%	0	0	0	19	1	1	2	0	8	6	1	3	2	10	1	5	2	0	1	0	1
50～55%	0	0	0	34	0	2	2	0	9	2	2	1	2	12	1	3	0	0	1	2	0
45～50%	0	1	0	23	0	0	0	0	5	3	1	1	1	3	0	1	0	0	1	0	0
40～45%	0	0	0	14	0	1	0	0	9	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0
35～40%	0	0	0	16	0	0	1	0	15	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30～35%	0	0	0	4	0	0	0	0	14	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25～30%	0	0	0	3	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	1	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162

※1学年20人以上データを提出した学校

# 小学校 6 年 社会 調査結果及び考察

## ( 1 ) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			内 容 別	
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	産業	国土
問題数	20	7	8	5	14	6
+ 10% 以上	7	3	3	1	3	4
± 10% 内	11	4	4	3	9	2
- 10% 以下	2	0	1	1	2	0

## ( 2 ) 考察

全体について

- ア 基礎的な学力の定着状況は良好である。
- イ 社会科を好きと答える児童の割合が増えている。

成果

- ア 地図帳を活用する力が付いている。
- イ 文章で自分の考えを表現する力が付いてきている。

課題

- ア 複数の資料を活用する力が不十分である。
- イ 基礎的な知識・理解の定着をさらに向上させたい。

## ( 3 ) 課題をふまえた今後の指導

- ア 統計資料の基本的な活用力が身に付くよう、読み取り方の約束を示し、繰り返し指導する。
- イ 根拠を示して自分の考えを説明する力を高める。

### ポイント

資料読み取りの約束づくり  
複数資料の活用の手立て  
資料を根拠とする表現

具体例

### ・資料読み取りの約束

- ア タイトルに印を付け、何が分かる資料か確認する。  
(「水田」が具体的に分かっているか確認)
- イ 縦軸、横軸の単位を確認する。  
(「ha」が何の単位で、どの程度の広さかを確認)
- ウ 全体的な変化等を読み取る。(変化を色鉛筆等で記入させる作業は有効である。)

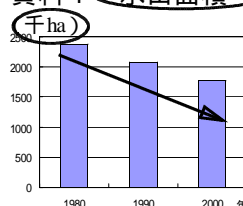
### ・複数資料を活用するためのステップ

- ア 資料 1 を読み取る。
- イ 資料 1 から米の収穫量の変化を予想する。
- ウ 資料 2 を見て予想との違いから学習問題を作る。

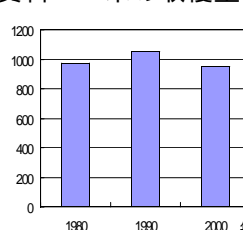
### ・資料を根拠とする発表

「私は、米の収穫量があまり減っていないことに驚きました。それは、資料 1 から水田の面積が減っていることが分かり、米の収穫量も同じように減っているだろうと予想していたからです。」

資料 1 水田面積



資料 2 米の収穫量



5 年生の学習では、統計資料を用いることが多くなる。そのため、学年としての資料の読み取り方の約束を確立する必要がある。また、読み取りをする際は、拡大して黒板に掲示するなど資料が全員に見えるようにしながら、指導する必要がある。

いきなり複数の資料を与えても、多くの児童は何をどう考えていけばいいのかわからない。一つの資料から「予想」を立てた上で、他の資料を読み取ることが重要である。

児童が「～だと思います」と発言したときに、その根拠となる具体的資料を問うことにより、論理的思考力を高める。また、調べたことを表現する際も、結論と根拠の関係が明確になるようにまとめさせることが、資料を再構成する力を高める上でも、聞く側に伝わる発表となる上でも有効である。

中学校 第 1 学年  
社 会

中学校1年 社会 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 72.7%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
1	農耕の始まりと農具	95.2%	85.0%	
2	古墳がつくられた意味	92.5%	80.0%	
3	聖武天皇の政治の特色	86.0%	75.0%	
4	国分寺の分布が示すこと	66.7%	75.0%	
5	ご恩と奉公の内容	79.1%	65.0%	
6	平清盛と北条時宗の働き	80.2%	70.0%	
7	信長、秀吉、家康の働き	59.7%	65.0%	
8	大名の種類と配置の特色(資料の活用)	38.3%	65.0%	
9	参勤交代のねらい	70.8%	70.0%	
10	鎖国政策の内容	77.1%	75.0%	
11	江戸時代の文化と人物	62.6%	70.0%	
12	五箇条のご誓文の内容	79.5%	65.0%	
13	福沢諭吉の業績	75.1%	65.0%	
14	大日本帝国憲法発布の意味	65.9%	65.0%	
15	日清戦争の講和条約の内容	47.9%	65.0%	
16	ポツダム宣言受諾と終戦	66.0%	65.0%	
17	日本国民の義務	93.1%	80.0%	
18	東京オリンピック開催のころの様子	79.8%	75.0%	
19	ユニセフの活動と日本	65.8%	65.0%	
20	青年海外協力隊派遣人数の変化(グラフの活用)	73.0%	65.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

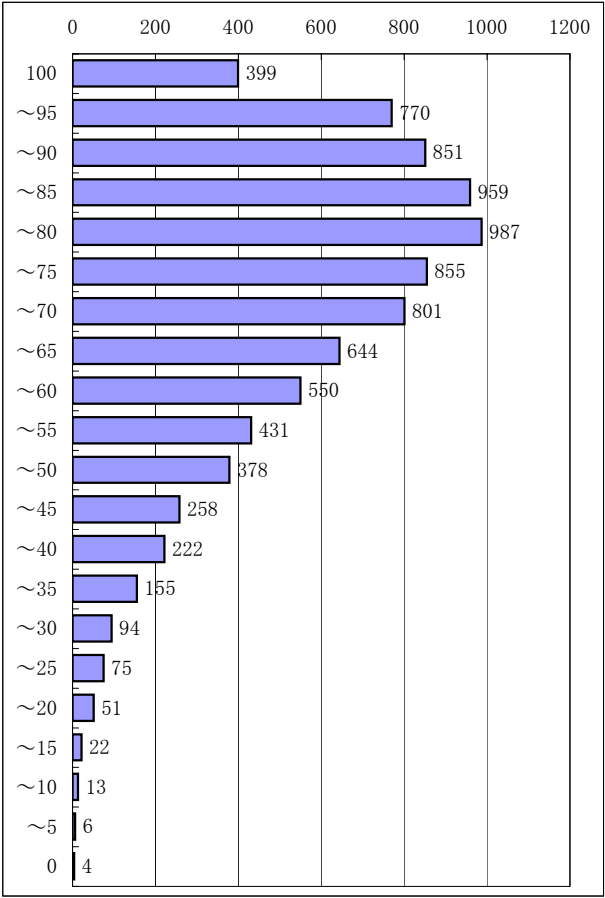
中学校1年 社会

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1	95.2%	4.8%	0.0%	0.0%
	2	(2	92.5%	7.5%	0.0%	0.0%
2	1	(3	86.0%	14.0%	0.1%	0.0%
	2	(4	66.7%	33.1%	0.1%	0.0%
3	1	(5	79.1%	20.7%	0.3%	0.0%
	2	(6	80.2%	19.5%	0.2%	0.0%
4		(7	59.7%	40.1%	0.2%	0.0%
5	1①②	(8	38.3%	53.7%	8.0%	0.0%
	2①	(9	70.8%	28.5%	0.8%	0.0%
	2②	(10	77.1%	20.0%	3.0%	0.0%
	3	(11	62.6%	37.0%	0.4%	0.0%
6	1	(12	79.5%	19.8%	0.7%	0.0%
	2	(13	75.1%	16.1%	8.8%	0.0%
	3	(14	65.9%	33.8%	0.3%	0.0%
	4	(15	47.9%	51.6%	0.4%	0.0%
7	1	(16	66.0%	33.6%	0.3%	0.0%
	2	(17	93.1%	6.7%	0.2%	0.0%
	3	(18	79.8%	19.9%	0.3%	0.0%
8	1	(19	65.8%	33.8%	0.4%	0.0%
	2	(20	73.0%	23.5%	3.5%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4	5-1-1,2	5-2-1	5-2-2	5-3	6-1	6-2	6-3	6-4	7-1	7-2	7-3	8-1	8-2	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
以上 未滿	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	12	7	0	0	0	1	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0
95～100%	62	31	5	0	2	5	0	0	2	3	0	1	2	1	0	0	45	6	0	1	0
90～95%	38	57	24	0	7	14	0	0	9	16	0	8	9	1	0	2	46	20	3	6	1
85～90%	10	18	45	3	22	24	2	0	7	16	2	17	12	0	0	6	16	20	2	18	0
80～85%	0	8	35	6	33	21	3	0	12	19	4	29	23	8	1	7	9	18	4	17	7
75～80%	0	0	7	11	28	27	3	1	15	22	9	41	29	15	0	13	0	22	6	22	28
70～75%	0	1	4	18	14	10	10	0	21	10	15	17	12	23	2	15	0	15	23	16	54
65～70%	0	0	2	35	9	12	13	1	18	9	22	6	11	15	1	21	0	6	32	17	22
60～65%	0	0	0	29	3	2	29	3	17	4	20	2	11	24	6	19	0	4	20	9	10
55～60%	0	0	0	12	2	3	25	1	9	6	24	1	4	15	14	19	0	7	15	7	0
50～55%	0	0	0	4	1	2	24	9	7	3	9	0	4	9	22	16	0	2	11	5	0
45～50%	0	0	0	2	0	0	8	12	1	4	9	0	3	9	28	2	0	0	4	2	0
40～45%	0	0	0	1	0	1	3	25	1	1	5	0	0	2	26	1	0	0	0	2	0
35～40%	0	0	0	0	0	0	0	20	0	1	2	0	1	0	7	0	0	1	2	0	0
30～35%	0	0	0	1	1	0	0	22	2	2	0	0	1	0	7	1	0	0	0	0	0
25～30%	0	0	0	0	0	0	1	18	0	1	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

※1学年20人以上データを提出した学校



## 中学校 1 年 社会 調査結果及び考察

### ( 1 ) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			内 容 別		
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	歴 史	政 治	国際社会
問題数	20	7	6	7	17	1	2
+ 10%以上	8	4	1	3	7	1	0
± 10%内	10	3	4	3	8	0	2
- 10%以下	2	0	1	1	2	0	0

### ( 2 ) 考察

全体について

ア 全体の75%の問題が設定通過率を上回っており、学習状況はおおむね良好といえる。

イ 「社会科が好き」と答える生徒の割合が増えている。

成果

ア 歴史上の主な人物の働きや代表的な文化遺産についての理解が良好な状況である。

イ 一つのグラフを正しく読み取る力が身に付いてきている。

課題

ア 複数の資料を活用して自分の考えを深める力、調べて分かったことや考えたことを自分の言葉で表現する力が不十分である。

### ( 3 ) 課題をふまえた今後の指導

ア 調べて分かったことや考えたことを自分の言葉で表現する力を付けるため、調べたこと(見えるもの)から社会的事象の意味(見えないもの)を見いだす過程を大切にする。

#### ポイント

身に付けさせたい力が身に付いた  
ときの姿の具体化

子どもをゆさぶる資料の提示

思考の過程や操作が見える板書

#### 具体例

「身に付けさせたい力が身に付いたときの姿」として具体化した生徒のまとめ

聖武天皇が、国じゅうの人々の幸せを仏教の力を使って実現しようとしたことが分かりました。  
また、このころ天皇が強い力もち、命令が全国に及んでいたことも分かりました。

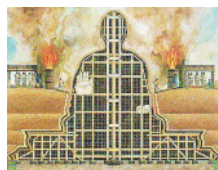
提示する資料と板書の構成

調べたこと

- ・都に東大寺と大仏をつくる
- ・全国各地に国分寺をつくる

分かること

- ・仏教中心
- ・天皇の強い力
- ・全国に広まる政治



身に付けさせたい力が身に付いたときの姿を、具体化する。知識・理解の観点であれば、生徒が書けるようになることを最初に明確にする。

これが、具体の評価規準の一つとなる。

導入では、生徒の中に「なぜ？」という課題意識が生まれ、「調べてみたい」という追究意欲が高まっていくように、相矛盾する資料や生徒の既有の知識に反する資料などを意図的に活用する。

調べたことや発言内容を分類・整理し、キーワードを考えながらまとめていく。この過程が、調べたこと(見えること)から社会的事象の意味(見えないこと)を見いだすために重要であり、この過程への生徒の参加が欠かせない。

また、思考の過程や操作が目で見分けるように、「例えば」(具体)や「つまり」(抽象)といった語を用いたり、関連する内容を矢印で結ぶなどの板書やノートづくりの工夫が必要である。

単元のまとめを、生徒自身に書かせる活動が重要である。その際、最初は書き出しや文末を指定したりキーワードを示したりし、その後は、生徒の実態に応じて、徐々に自力でまとめさせるようにする。また、工夫されたまとめを取り上げ、モデルとすることも有効である。

中学校 第 2 学年  
社 会

中学校2年 社会 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 59.3%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
1	我が国の領域(北方領土)	37.4%	65.0%	
2	都道府県の位置と名称(山形県)	78.9%	75.0%	
3	経度と時差の関係	45.7%	80.0%	
4	赤道と主な国の位置	61.3%	60.0%	
5	身近な地域の地図の読み取り	73.2%	85.0%	
6	身近な地域の成立過程	47.6%	65.0%	
7	身近な地域と他の地域とのつながり	54.1%	60.0%	
8	課題解決に必要な資料の選択	71.8%	75.0%	
9	収集した資料と調査テーマ	21.5%	60.0%	
10	気温と降水量のグラフの作成	70.3%	70.0%	
11	飛鳥時代の衣服	86.7%	70.0%	
12	年号と世紀の表し方(年表の理解)	59.3%	85.0%	
13	聖徳太子の外交姿勢	66.2%	65.0%	
14	古代の農民の生活(文章資料の活用)	90.8%	70.0%	
15	中世の同業者組合の名称	32.3%	70.0%	
16	室町時代の特色と分国法	57.4%	65.0%	
17	「キリスト教の広まり」の調査に役立つ資料の選択	73.7%	80.0%	
18	秀吉の政策と刀狩令	77.1%	75.0%	
19	江戸時代の農業の特色(グラフと絵画資料の活用)	28.8%	65.0%	
20	江戸時代の政治の移り変わり	57.2%	60.0%	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

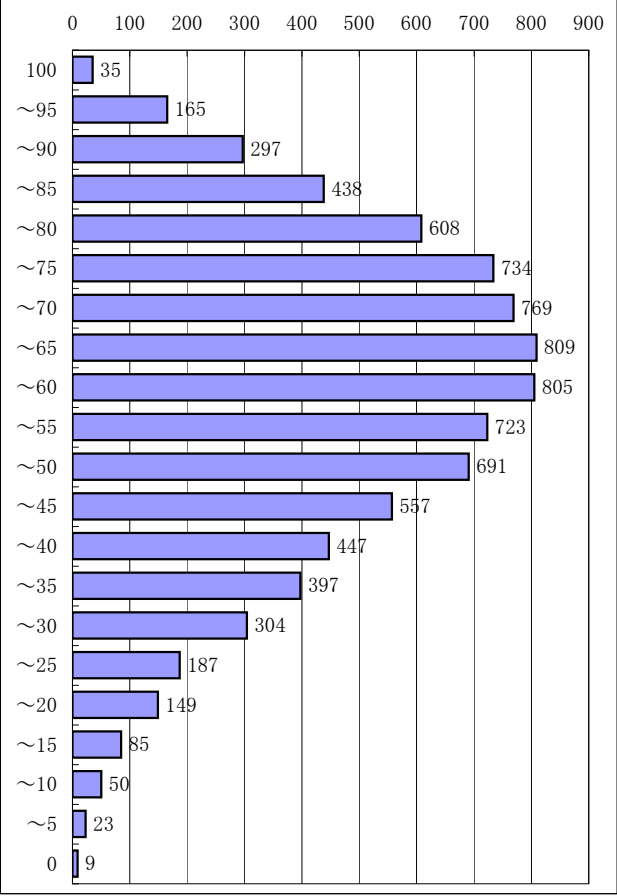
中学校2年 社会

小問別反応率

通し番号		1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
1	(1)	37.4%	62.5%	0.1%	0.0%
2	(2)	78.9%	16.7%	4.4%	0.7%
3	1 (3)	45.7%	53.0%	1.3%	0.7%
	2 (4)	61.3%	37.9%	0.9%	0.0%
4	1 (5)	73.2%	26.4%	0.4%	0.7%
	2 (6)	47.6%	52.0%	0.4%	0.7%
	3 (7)	54.1%	45.1%	0.7%	0.7%
5	1 (8)	71.8%	27.5%	0.6%	0.7%
	2 (9)	21.5%	60.6%	17.9%	0.7%
	3 (10)	70.3%	23.1%	6.6%	0.7%
6	1 (11)	86.7%	12.9%	0.4%	0.0%
	2 (12)	59.3%	38.3%	2.4%	0.0%
7	1 (13)	66.2%	33.4%	0.4%	0.0%
	2 (14)	90.8%	8.8%	0.4%	0.0%
8	1 (15)	32.3%	54.5%	13.2%	0.4%
	2 (16)	57.4%	41.3%	1.3%	0.4%
9	1 (17)	73.7%	25.8%	0.6%	0.4%
	2 (18)	77.1%	16.4%	6.5%	0.4%
10	1 (19)	28.8%	54.6%	16.6%	0.4%
	2 (20)	57.2%	41.7%	1.1%	0.4%

※4 (未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	1	2	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2	5-3	6-1	6-2	7-1	7-2	8-1	8-2	9-1	9-2	10-1	10-2	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
95～100%	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	17	0	0	0	3	0	0	0
90～95%	0	16	0	0	3	0	1	1	0	1	29	0	1	51	0	0	6	15	1	1	0
85～90%	0	22	0	1	6	0	3	2	1	10	51	4	1	35	0	1	6	14	1	2	0
80～85%	0	20	0	6	21	0	8	14	0	20	22	5	7	15	0	3	16	31	1	5	0
75～80%	1	23	0	9	30	1	7	25	0	21	8	8	13	0	1	5	27	18	1	5	0
70～75%	2	15	0	12	22	2	5	27	1	17	5	16	19	0	0	7	25	14	0	15	5
65～70%	0	7	2	19	20	5	9	29	4	14	3	19	29	0	5	13	28	15	4	11	19
60～65%	4	8	6	21	14	5	15	15	1	17	0	13	25	0	1	22	8	6	2	13	35
55～60%	10	5	8	20	4	18	15	6	6	10	0	13	14	0	8	15	6	4	2	16	37
50～55%	11	0	22	18	1	22	11	3	3	3	0	13	8	0	7	25	0	0	3	18	20
45～50%	12	1	22	10	1	17	5	0	2	5	0	12	3	0	8	12	0	0	3	14	6
40～45%	15	0	34	6	0	19	17	0	4	1	0	8	3	0	8	9	0	2	6	9	1
35～40%	13	0	20	1	0	19	7	0	1	2	0	6	0	0	6	6	0	0	14	6	0
30～35%	18	0	3	0	0	10	14	0	2	0	0	0	0	0	16	2	0	0	8	1	0
25～30%	18	0	4	0	0	4	3	0	12	0	0	3	0	0	16	1	0	0	16	2	0
20～25%	13	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	1	0	0	13	1	0	0	10	2	0
15～20%	4	0	0	0	0	0	1	0	25	0	0	1	0	0	14	0	0	0	19	1	0
10～15%	2	0	1	0	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	9	0	0	0	16	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	1	0	0	4	0	0	0	12	1	0
0～5%	0	1	1	0	1	1	2	1	6	2	0	0	0	0	7	1	1	1	4	1	0
計	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123

※1学年20人以上データを提出した学校

## 中学校2年 社会 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			内 容 別	
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	地理的分野	歴史的分野
問 題 数	20	6	7	7	10	10
+ 10% 以上	2	0	2	0	0	2
± 10% 内	10	4	2	4	5	5
- 10% 以下	8	2	3	3	5	3

### (2) 考察

全体について

ア 4割の問題が設定通過率を下回っており改善すべき状況である。

イ 観点別では「知識・理解」と地理的分野の「技能・表現」に課題が見られる。

成果

ア 資料を読み取る、選択するなどの資料を活用する力が付いてきている。

課題

ア 複数の資料を関連付けたり共通性を見付けたりする思考力が不足している。

イ 地理的分野の学習を進める上での基礎的知識と技能が不足している。

ウ 歴史の大きな流れをとらえることや社会的事象の知識の定着に課題がある。

### (3) 課題をふまえた今後の指導

ア 両分野の学習の基盤となる地図と年表の活用を意識的に繰り返し、活用の基礎的技術の定着を徹底する。

イ 追究し解釈したことを、自分の言葉で表現する学習を進める。

ポイント

「部分」と「全体」の強調

作業的な学習の日常化

文章化とキーワード化

具体例

- ・この地域を世界全図の中で確認する。その際、基軸となる本初子午線や北緯40°の緯線を描き込ませる。



700	800	900	1000	1100	1200	1300
古代				中世		
奈良	平安			鎌倉		

- ・黒板に年表で時代区分を表示し、本単元が歴史の流れの中のどの部分に当たるのかを意識させる。
- ・710年を8世紀に、また8世紀を700年代に換算する活動を行う。
- ・古代の学習であれば「大陸の制度を取り入れながら国家の仕組みが整えられ、天皇・貴族の政治が展開されたこと」を具体例を示しながら書けるようにする。より大きな流れでは、武家政権が確立し展開していく中世との違いを指摘できるようにする。その中で、天皇・貴族や武家政権、幕府といった用語がキーワードであることを生徒自身に気付かせる。

地図と年表を活用することは、教師の心がけで大いに進めることができる。学習空間に地図や年表を取り入れることが第一歩である。

学習で取り上げる地域や時代は「部分」であり、「全体」の中のどの部分かを意識させるために、学習の対象を地図や年表で確認する習慣を付けるようにする。「部分」と「全体」を意識することは、読解力を高めることにもつながる。

基礎的な内容の定着を図るために、作業的な学習を日常的に行う。白地図への赤道等の描き込みや年号の世紀への換算等は、日常的に行って初めて効果がある。

学習のまとめでは、文章でまとめる活動を取り入れる。歴史では、前の時代と比較して変わったこととや変わらなかったことを整理し、キーワードを用いて、大きな流れを説明できるようにする。地理では、調査結果だけではなく、調査の方法や手順についても分かりやすく説明できるようにする。

中学校 第 3 学年  
社 会

通 し 番 号	出 題 内 容	通 過 率 (%)	設 定 通 過 率 (%)	0%100%
1	主な国の農業従事者と耕地面積の関係	78.2%	75.0%	
2	「主な国の農業の特色」のまとめに用いた資料の選択	83.6%	70.0%	
3	二か国の農業の特色の比較(複数資料の活用)	89.1%	75.0%	
4	我が国の国土面積と人口	58.3%	75.0%	
5	各国の自動車の保有台数(表の活用)	76.1%	65.0%	
6	南半球の都市の気温と降水量のグラフ	75.8%	70.0%	
7	世界の大陸と人口密度(主題図の活用)	75.2%	80.0%	
8	各国の一次エネルギーの消費量と生産量の特色(表の活用)	29.4%	65.0%	
9	我が国の地理的特色	81.8%	85.0%	
10	太平洋ベルトの理解	83.9%	80.0%	
11	開国の背景と関連する資料の選択	75.6%	65.0%	
12	尊皇攘夷から倒幕への転換	62.9%	60.0%	
13	条約改正の歩み	61.7%	60.0%	
14	我が国の近代工業の発展と貿易の変化	69.6%	70.0%	
15	第一次世界大戦における我が国の動き	58.8%	70.0%	
16	朝鮮戦争と我が国への影響	53.2%	65.0%	
17	日ソ共同宣言と我が国の国連加盟の関係	51.2%	65.0%	
18	石油危機にかかわる資料の選択	79.3%	75.0%	
19	参勤交代の理解	53.4%	65.0%	
20	参勤交代にかかわる資料の読み取り(資料の活用)	55.1%	65.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

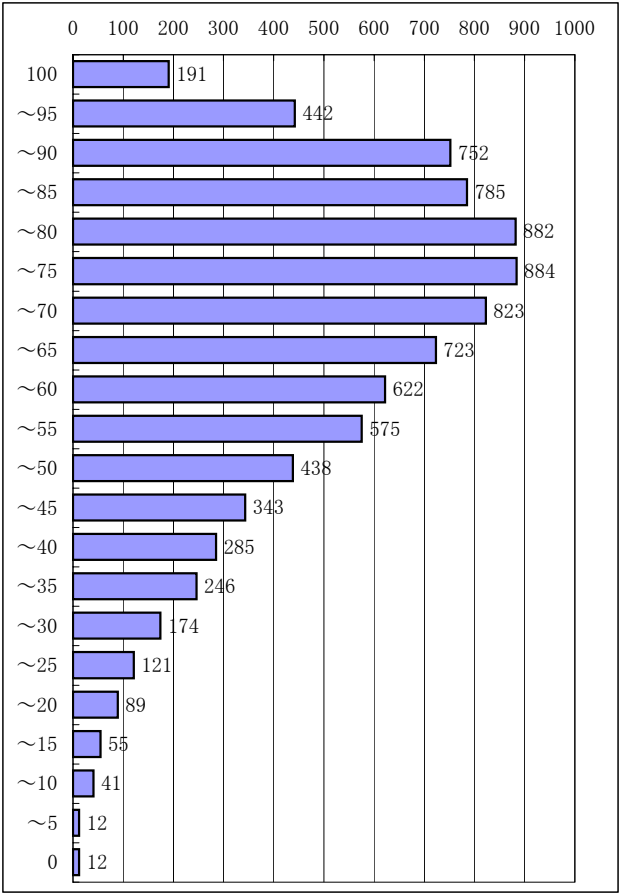
中学校3年 社会

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1)	78.2%	21.4%	0.4%	0.0%
	2	(2)	83.6%	16.0%	0.4%	0.0%
	3	(3)	89.1%	10.1%	0.8%	0.0%
2	1	(4)	58.3%	41.3%	0.4%	0.0%
	2	(5)	76.1%	23.4%	0.5%	0.0%
	3	(6)	75.8%	23.5%	0.6%	0.0%
3	1	(7)	75.2%	24.3%	0.5%	0.0%
	2	(8)	29.4%	61.1%	9.4%	0.0%
4	1	(9)	81.8%	17.0%	1.1%	0.0%
	2	(10)	83.9%	10.2%	5.9%	0.0%
5	1	(11)	75.6%	23.9%	0.5%	0.0%
	2	(12)	62.9%	36.7%	0.4%	0.0%
6	1	(13)	61.7%	37.9%	0.4%	0.0%
	2	(14)	69.6%	29.6%	0.7%	0.0%
7		(15)	58.8%	40.4%	0.8%	0.0%
8	1	(16)	53.2%	46.2%	0.6%	0.0%
	2	(17)	51.2%	48.2%	0.6%	0.0%
	3	(18)	79.3%	20.0%	0.7%	0.0%
9	1	(19)	53.4%	34.0%	12.6%	0.0%
	2	(20)	55.1%	41.5%	3.4%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	6-1	6-2	7	8-1	8-2	8-3	9-1	9-2	平均 通過率
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
100%	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95～100%	0	2	15	0	0	1	0	0	12	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
90～95%	5	14	44	0	4	11	3	1	19	24	4	0	0	3	0	0	0	10	0	0	0
85～90%	12	37	37	3	10	17	10	0	24	35	6	0	1	4	2	0	0	17	2	0	1
80～85%	44	34	12	2	28	19	18	1	23	33	25	4	3	8	4	1	1	37	4	4	1
75～80%	24	24	5	10	34	24	34	2	15	14	38	6	3	20	8	0	2	23	0	0	6
70～75%	20	8	5	13	18	22	31	3	11	7	25	14	13	29	9	4	3	21	5	3	28
65～70%	8	2	0	11	21	12	16	2	10	0	13	31	29	24	14	8	6	8	8	9	57
60～65%	6	0	0	15	4	9	6	2	6	4	6	29	20	20	25	18	9	3	12	15	21
55～60%	1	1	0	22	2	4	3	5	1	2	3	19	26	9	20	25	25	2	16	25	7
50～55%	1	0	0	12	1	3	1	5	0	0	0	16	16	3	17	31	21	1	31	38	1
45～50%	0	0	0	18	0	0	0	3	0	0	0	3	7	0	13	13	19	0	19	18	0
40～45%	0	0	0	8	0	0	0	1	0	0	1	0	4	0	6	10	16	0	9	3	0
35～40%	0	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	10	11	0	8	7	0
30～35%	0	0	0	1	0	0	0	10	0	0	0	0	0	1	1	1	4	0	6	0	0
25～30%	0	0	0	1	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

※1学年20人以上データを提出した学校



## 中学校3年 社会 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			内 容 別	
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	地理的分野	歴史的分野
問 題 数	20	7	5	8	10	10
+10%以上	4	2	2	0	3	1
±10%内	10	3	3	4	5	5
-10%以下	6	2	0	4	2	4

### (2) 考察

全体について

ア 全体的にみると、改善すべき点が多い。

イ 観点別では「思考・判断」と「技能・表現」についてはおおむね良好な状況であるが、「知識・理解」については課題が見られる。

成果

ア 資料を読み取る、選択するなどの資料を活用する力が付いてきている。

課題

ア 複数の資料を活用し思考する力や、条件に合わせて表現する力が不足している。

イ 近現代の歴史の経過の理解や社会的現象の知識の定着が不足している。

### (3) 課題をふまえた今後の指導

ア 複数の資料を活用し思考する力や条件に合わせて表現する力を育てるために、「比較」と「関連」の思考を身に付けさせる。

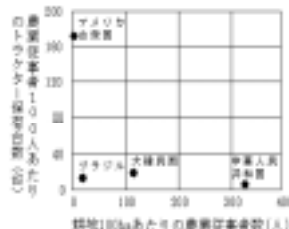
エ 年表を活用しながら近現代史の学習の一層の充実を図る。

ポイント

「比較」と「関連」による思考  
年表を活用した学習の展開

具体例

- 右のグラフで比較と関連を考える。四つの国について耕地 100ha あたりの農業従事者を読みとる活動は「比較」である。この内容と農業従事者 100 人あたりのトラクター保有台数がどのようなかわりをもつかを考えるのが「関連」である。



- 右の年表から、異国船打払令と日米和親条約に着目し、資料の比較からその違いに気づき、ペリー来航との関連を調べる。また、ともに砲撃された薩摩と長州が、その後同盟を結んだことに着目し、その関連を調べる。これらの学習は年表に「比較」と「関連」の思考を結び付けた学習である。

年 代	事 件
1825	幕府が異国船打払令を出す
1853	ペリーが来航し、開国を迫る
1854	日米和親条約を結ぶ
1858	日米修好通商条約を結ぶ
1868	イギリスが鹿児島を砲撃する
1884	韓国艦隊が下関を砲撃する
1893	薩摩と長州が同盟を結ぶ

「比較」とは、同じような質や形式を備えたもののどうしの差(違い)を見つけるような思考操作である。数値資料と写真資料を「比較する」ということはできないし、数値を比較する場合であっても調査年度をそろえる必要がある、といったことを具体的な活動をとおして理解させる。

「関連」とは、対象どうしをどのように説明できるかや対象間に何があるのかを考えるような思考操作であり、「

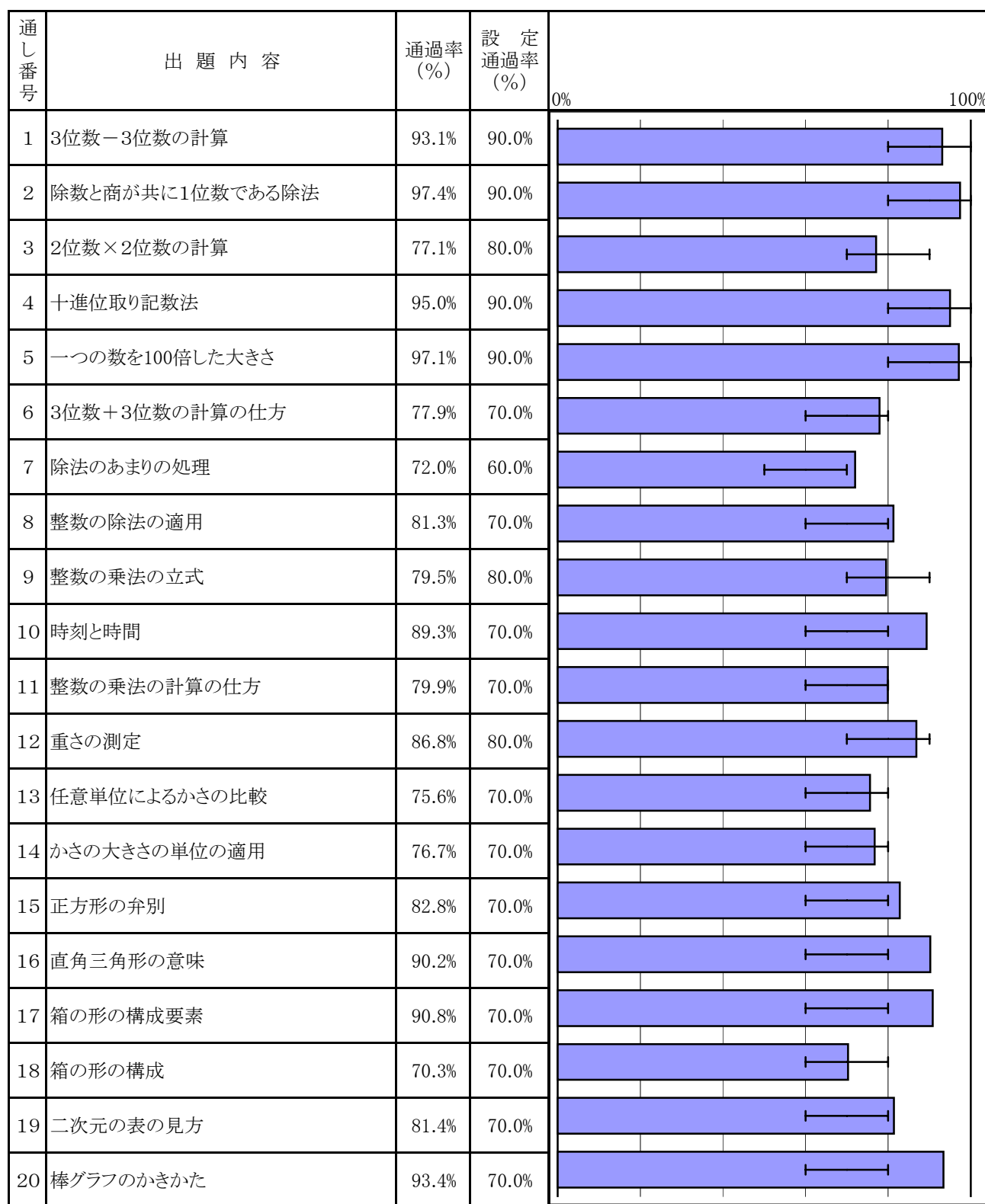
だから だろう」という論理的な思考を伴う。また、その論理が現実と合致しているかを他の資料から確かめることが必要な場合もある。

近現代史の学習の一層の充実が求められる。用語を網羅的に扱うのではなく、年表を活用した指導の工夫が必要である。例えば、以前のできごとと比較し、何がどう変わったのか変化を読みとり、その変化を原因や背景、結果や影響といった視点から調べ、全体として分かったことを表現するような学習を展開する。年表を、事実を確認する資料にとどめず、歴史の大きな流れを学ぶ基礎的な資料として活用することが必要である。また、学習したことのまとめとして年表の作成が重要である

小学校 第 4 学年  
算 数

小学校4年 算数 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 84.4%



※ は設定通過率±10%を示している。

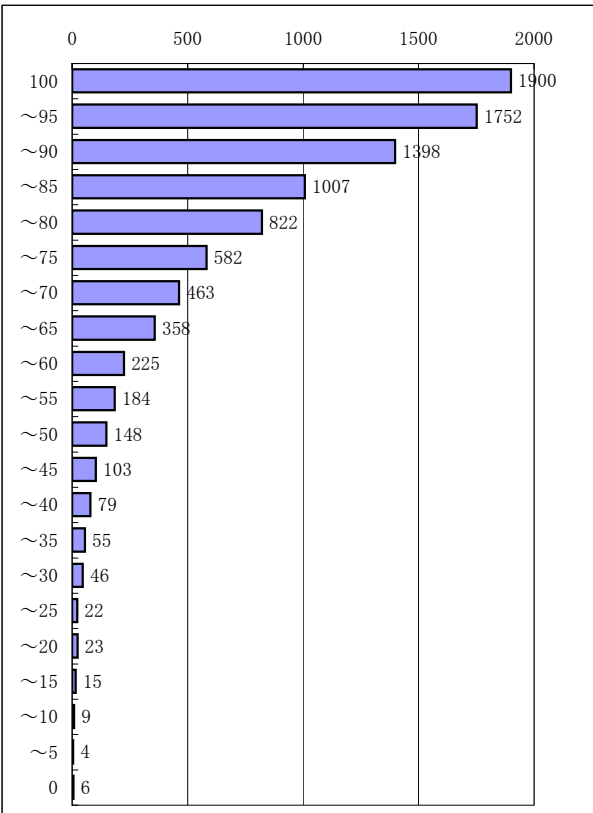
小学校4年 算数

小問別反応率

通し番号			1（通過率）	2（誤答）	3（未記入）	4（未履修）
1	1	(1)	93.1%	6.8%	0.1%	0.0%
	2	(2)	97.4%	2.5%	0.2%	0.0%
2		(3)	77.1%	22.1%	0.8%	0.0%
3	1	(4)	95.0%	4.8%	0.2%	0.0%
	2	(5)	97.1%	2.8%	0.2%	0.0%
4		(6)	77.9%	20.9%	1.3%	0.0%
5		(7)	72.0%	26.2%	1.9%	0.0%
6		(8)	81.3%	18.3%	0.3%	0.0%
7		(9)	79.5%	20.0%	0.4%	0.0%
8		(10)	89.3%	10.2%	0.5%	0.0%
9		(11)	79.9%	18.2%	1.9%	0.0%
10		(12)	86.8%	12.8%	0.4%	0.0%
11		(13)	75.6%	22.6%	1.8%	0.0%
12		(14)	76.7%	22.7%	0.6%	0.0%
13		(15)	82.8%	16.9%	0.4%	0.0%
14		(16)	90.2%	9.0%	0.8%	0.0%
15		(17)	90.8%	8.9%	0.3%	0.0%
16		(18)	70.3%	28.3%	1.3%	0.0%
17		(19)	81.4%	17.6%	1.0%	0.0%
18		(20)	93.4%	5.7%	0.9%	0.0%

※4（未履修）を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ（人）



小問別通過率度数分布表（校）

	1-1	1-2	2	3-1	3-2	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	平均
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	28	68	2	27	55	3	0	1	4	6	2	9	0	0	5	11	16	0	2	27	0
95～100%	42	68	4	63	72	8	3	6	7	28	13	24	3	3	10	31	30	2	7	49	2
90～95%	53	25	17	52	26	11	5	16	20	55	13	47	18	12	24	47	51	3	19	50	21
85～90%	26	2	21	18	10	22	14	28	17	40	28	27	19	17	39	45	46	8	26	28	55
80～85%	10	0	26	3	0	24	21	40	29	22	34	21	33	32	26	20	13	17	44	4	53
75～80%	4	0	25	0	0	33	28	35	38	10	29	14	20	33	29	6	5	20	34	3	20
70～75%	0	0	26	0	0	20	28	21	22	2	17	10	17	19	11	2	1	27	11	2	9
65～70%	0	0	15	0	0	24	19	8	9	0	13	3	15	19	9	0	1	29	9	0	2
60～65%	0	0	10	0	0	9	18	3	10	0	8	4	15	16	4	0	0	29	3	0	1
55～60%	0	0	7	0	0	3	9	1	5	0	4	3	7	9	5	1	0	11	5	0	0
50～55%	0	0	7	0	0	5	7	3	0	0	0	0	6	2	1	0	0	12	1	0	0
45～50%	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
40～45%	0	0	0	0	0	1	5	1	2	0	0	0	3	1	0	0	0	1	1	0	0
35～40%	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0
30～35%	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	0
25～30%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163

※1学年20人以上データを提出した学校

## 小学校4年 算数 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領域別			
		考方	表現・処理	知識・理解	数と計算	量と測定	図形	数量関係
問 題 数	20	5	8	7	10	4	4	2
+ 10%以上	8	1	2	5	2	1	3	2
± 10%内	12	4	6	2	8	3	1	0
- 10%以下	0	0	0	0	0	0	0	0

### (2) 考察

全体について

ア 学習の実現状況は、観点別、領域別ともおおむね良好といえる。

イ 作業的、体験的な問題について学校間で差が見られる。(18

成果

ア 昨年度（設定通過率 - 10%）の問題が改善されている。(14, (15, (20

イ 数と計算の基礎的基本的な内容については確実な定着が見られる。(1, (2, (4, (5

課題

ア 基本的計算力に学校間で差が見られる。(3

イ 根拠を明らかにしながら説明する問題に学校間で差が見られる。(7, (13

### (3) 課題をふまえた今後の指導

ア 計算の意味理解を図りながら筆算の確実な定着を図る。

67  
× 48

(3)

\*乗数を40と8に分けて筆算の仕方を比較する

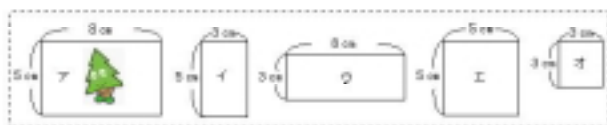
67 × 40 2680	67 × 8 536
--------------------	------------------

3216

- ・形式的な計算処理のドリルだけでなく、筆算の途中の乗法「 $4 \times 7$ 」、「 $4 \times 6$ 」の意味や位の取り方について左の図や具体物の操作と対比させながら意味理解を図る。
- ・このような学び直し等の適切な指導を早期に実施し、定着したことの「検証」まで確実にいき、確実な定着を図る。

イ 作業的、体験的な活動を一層充実させ、豊かな感覚を身に付けさせる。

18 長方形や正方形の板ア～オが何まいかずつあります。



箱の形を作るために、 の中からアを2まいとイを2まいえらび、つぎの図のようにつなぎました。

あと、どの形を何まいえらんでつなぐと箱の形ができるでしょうか。ア～オの中から1つえらんで、その記号とまい数を  の中に書きましょう。



- ・授業の中で、本設問のような問題場面を設定したり、箱を分解したり組み立てたりする操作活動を行ないながら、「どの面とどの面が向かい合うのか、となり合うのか」「となり合う面の辺の関係」などに着目しながら、箱の形の「構成」を考えることができるようにする必要がある。
- ・また、上記の活動に際しては、操作活動の中で試行錯誤をさせながら、「うまく組み立てられない理由」や「うまく組み立てるための方法」など、理由や手順を説明させたりする機会を設け、コミュニケーション能力を高めしていく必要がある。

小学校 第 5 学年  
算 数

小学校5年 算数 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 80.0%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
1	1/10の位までの小数の加法	94.7%	90.0%	
2	3位数を2位数で割る計算	88.7%	80.0%	
3	四則の混合した計算	94.9%	80.0%	
4	除法の性質を道板計算の仕方	79.7%	80.0%	
5	円の直径と半径	74.2%	70.0%	
6	小数を長さを用いて表す	84.1%	90.0%	
7	概数の範囲	60.5%	70.0%	
8	整数の表し方の仕組み	90.7%	80.0%	
9	数量の関係を式で表す	80.9%	70.0%	
10	分数、整数の大きさの比較	54.1%	70.0%	
11	目的に応じた概数	82.8%	70.0%	
12	はがきの面積の量感	75.1%	70.0%	
13	16cm²の面積の図形をつくる	83.3%	70.0%	
14	二つの観点から表を見る	63.3%	70.0%	
15	角の大きさの測定	90.4%	80.0%	
16	二等辺三角形の性質	56.8%	60.0%	
17	正三角形の作図	82.8%	80.0%	
18	伴って変わる二つの数量①	96.6%	80.0%	
19	伴って変わる二つの数量②	77.5%	70.0%	
20	折れ線グラフの読み取り	89.0%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

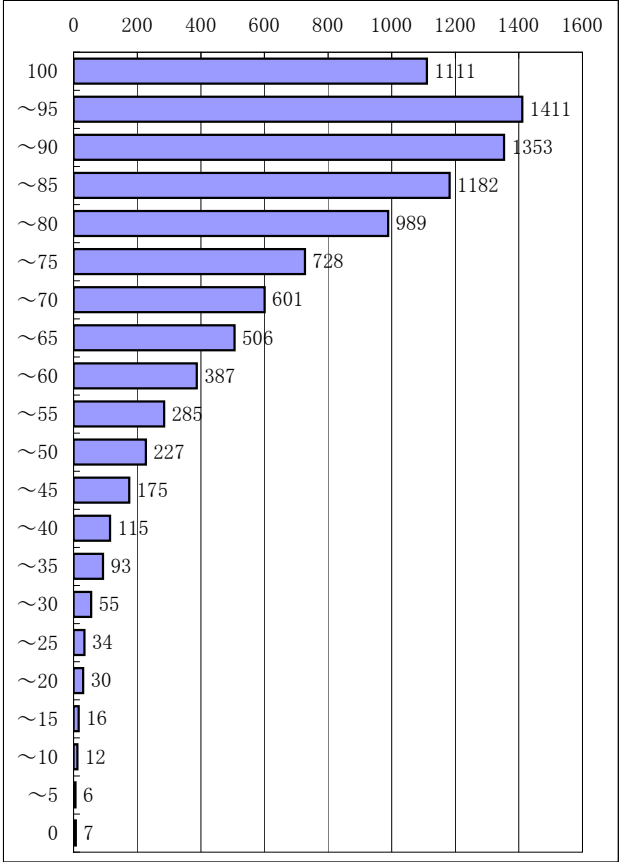
小学校5年 算数

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1)	94.7%	5.2%	0.0%	0.0%
	2	(2)	88.7%	10.2%	1.2%	0.0%
	3	(3)	94.9%	5.0%	0.2%	0.0%
2		(4)	79.7%	19.9%	0.4%	0.0%
3		(5)	74.2%	25.4%	0.4%	0.0%
4	1	(6)	84.1%	15.6%	0.3%	0.0%
	2	(7)	60.5%	37.9%	1.6%	0.0%
5		(8)	90.7%	8.8%	0.4%	0.0%
6		(9)	80.9%	18.8%	0.3%	0.0%
7		(10)	54.1%	45.4%	0.5%	0.0%
8		(11)	82.8%	16.3%	0.8%	0.0%
9		(12)	75.1%	24.6%	0.4%	0.0%
10		(13)	83.3%	16.0%	0.8%	0.0%
11		(14)	63.3%	36.4%	0.3%	0.0%
12		(15)	90.4%	9.3%	0.3%	0.0%
13		(16)	56.8%	41.4%	1.7%	0.0%
14		(17)	82.8%	15.2%	2.1%	0.0%
15	1	(18)	96.6%	3.0%	0.4%	0.0%
	2	(19)	77.5%	21.7%	0.8%	0.0%
16		(20)	89.0%	10.4%	0.6%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	1-1	1-2	1-3	2	3	4-1	4-2	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15-1	15-2	16	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	37	18	48	4	2	8	0	30	1	0	10	4	6	0	18	1	5	49	1	10	0
95～100%	55	22	52	10	6	15	1	42	8	0	13	4	12	4	34	3	11	76	3	24	1
90～95%	52	45	40	14	7	27	1	37	21	2	31	8	21	8	44	2	27	31	13	47	14
85～90%	17	42	12	18	13	36	8	22	27	3	34	21	41	7	28	5	39	7	17	41	27
80～85%	2	14	8	35	32	26	13	15	35	6	23	25	39	13	26	10	28	1	32	30	45
75～80%	1	10	3	33	33	32	11	11	37	9	18	29	16	9	10	8	19	0	35	8	38
70～75%	0	6	1	32	19	11	11	2	17	10	10	23	15	15	3	17	13	0	28	3	29
65～70%	0	6	0	9	17	4	14	0	9	16	14	16	4	17	1	11	11	0	16	1	9
60～65%	0	0	0	5	11	3	23	5	8	15	6	13	4	15	0	16	7	0	8	0	1
55～60%	0	1	0	2	13	0	17	0	1	20	2	8	2	25	0	18	3	0	6	0	0
50～55%	0	0	0	1	7	1	26	0	0	20	3	6	2	17	0	18	1	0	4	0	0
45～50%	0	0	0	1	2	0	17	0	0	12	0	3	2	15	0	17	0	0	1	0	0
40～45%	0	0	0	0	0	1	8	0	0	18	0	3	0	8	0	10	0	0	0	0	0
35～40%	0	0	0	0	1	0	4	0	0	13	0	1	0	8	0	11	0	0	0	0	0
30～35%	0	0	0	0	0	0	7	0	0	8	0	0	0	3	0	6	0	0	0	0	0
25～30%	0	0	0	0	1	0	3	0	0	8	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
計	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164

※1学年20人以上データを提出した学校



# 小学校5年 算数 調査結果及び考察

## (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別			
		考え方	表現・処理	知識・理解	数と計算	量と測定	図形	数量関係
問 題 数	20	5	8	7	8	3	3	6
+10%以上	8	2	4	2	2	2	0	4
±10%内	11	3	4	4	5	1	3	2
-10%以下	1	0	0	1	1	0	0	0

## (2) 考察

全体について

- ア 基礎的・基本的な学習内容の定着が図られている。
- イ 全体の平均通過率が80%であり、学習の実現状況はおおむね良好である。

成果

- ア 「表現・処理」の観点での指導状況が良好である。
- イ 継続して出題している乗除先行の計算問題の定着が見られる。

課題

- ア 分数の大小を比較する問題に学校間で差が見られる。
- イ 基本的な平面図形の見方について学校間で差が見られる。

## (3) 課題をふまえた今後の指導

- ア 数直線等と関連付けながら分数の大きさの理解を図る。

7 次の3つの数を、左から小さい順にならべて  の中に書きましょう。

(10)

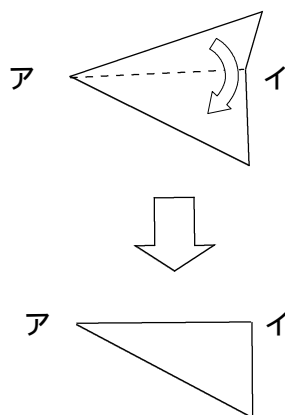
$$\left( \frac{9}{4}, \quad 1\frac{3}{4}, \quad 2 \right)$$

- ・仮分数から帯分数、帯分数から仮分数になおすことを形式的に行うだけでなく、数直線上に表して大きさを実感させながら定着を図る。
- ・大小比較する際に、数直線上でその位置を確かめるなど、整数や小数とも関連づけながら扱うことで、分数の大きさを実感できるようにする。

- イ 平面図形についての豊かな感覚を身に付けさせるために、作業的、体験的な活動を充実させる。

13 ある三角形を、次の図のように、アイの線で2つにおったらびったり重なりました。おる前のもとの形は何という三角形でしょう。  
もとの形の名前とその形ができるわけを  の中に書きましょう。

(16)



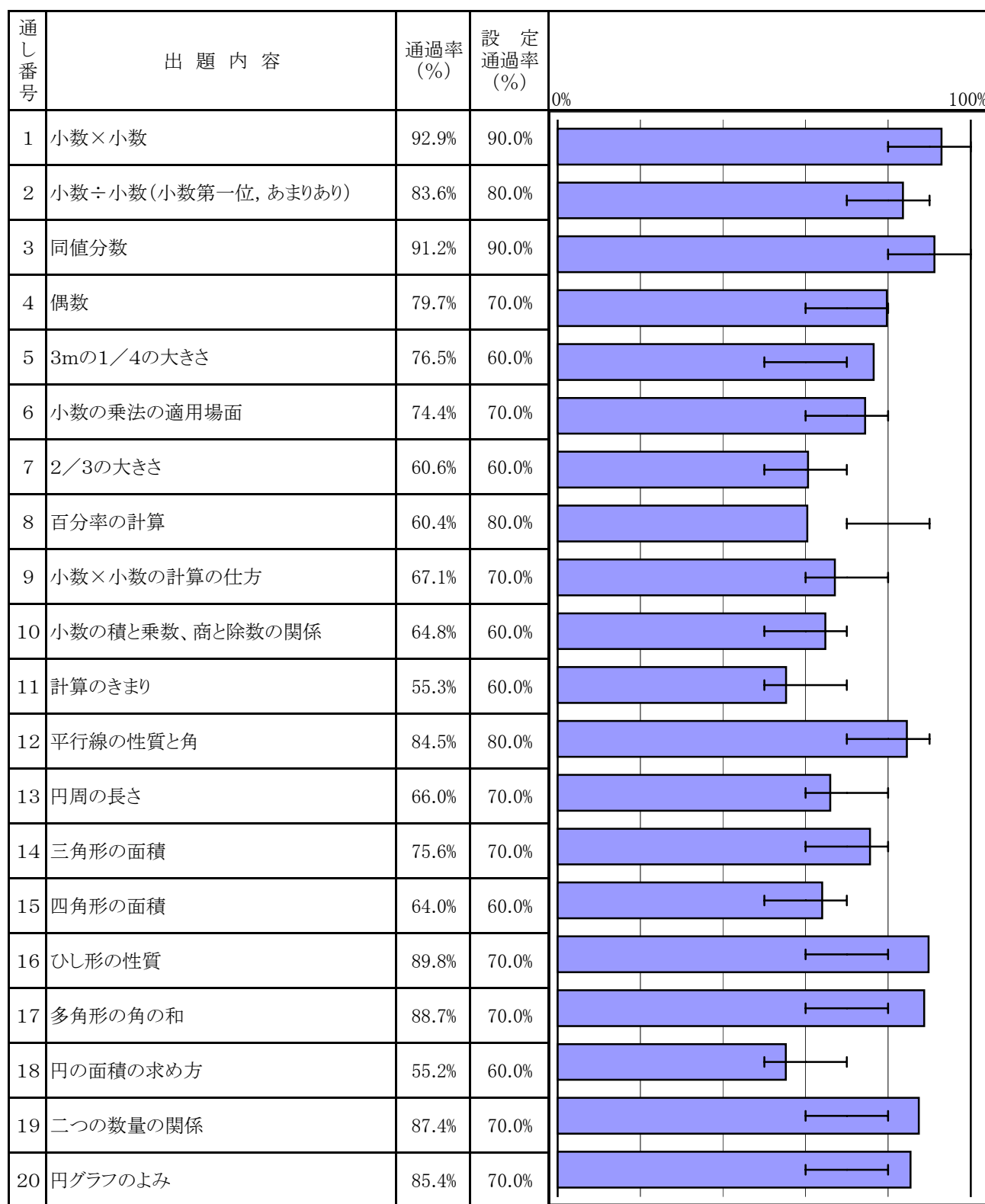
- ・実際に紙を切りぬき、折り重ねなどの作業的な活動を授業の中に取り入れて、どの辺とどの辺が等しいのか、どの角とどの角が等しいのかを実感させながら指導していくことが大切である。

- ・合同な正三角形や二等辺三角形を敷き詰める活動を通して、隙間なく敷き詰められることに気付いたり、四角形や六角形を見出したりするなど、図形の美しさを感じさせていきたい。児童のひらめきや直感を大切にしながら、自由に図形を移動させたり回したりする活動を通して、図形についての感覚を豊かにしていくことが必要である。

小学校 第 6 学年  
算 数

小学校6年 算数 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 75.1%



※ は設定通過率±10%を示している。

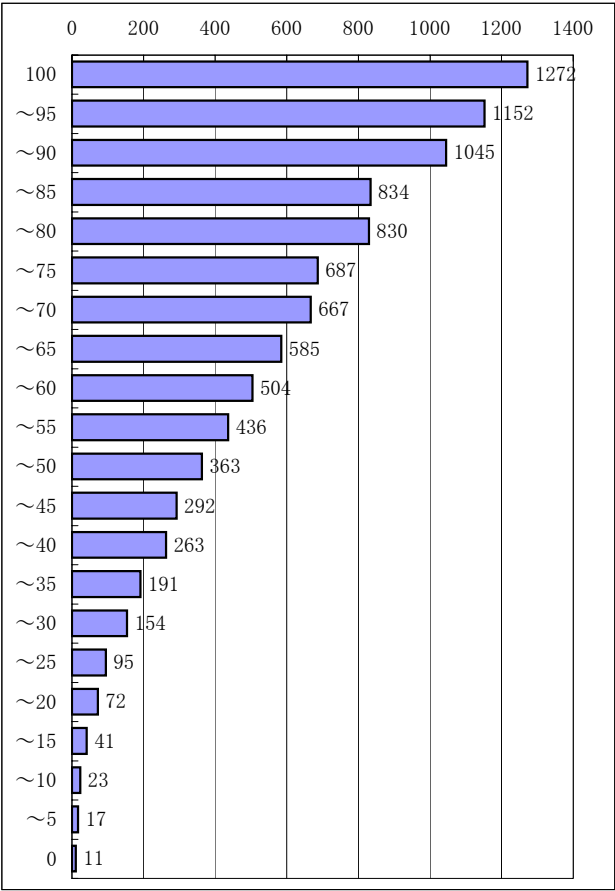
小学校6年 算数

小問別反応率

通し番号			1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
1	1	(1)	92.9%	7.0%	0.2%	0.0%
	2	(2)	83.6%	15.8%	0.6%	0.0%
2		(3)	91.2%	8.4%	0.5%	0.0%
3		(4)	79.7%	19.8%	0.5%	0.0%
4		(5)	76.5%	23.1%	0.4%	0.0%
5		(6)	74.4%	25.2%	0.4%	0.0%
6		(7)	60.6%	38.6%	0.7%	0.0%
7		(8)	60.4%	37.4%	2.3%	0.0%
8	1	(9)	67.1%	32.6%	0.3%	0.0%
	2	(10)	64.8%	34.3%	1.0%	0.0%
9		(11)	55.3%	44.0%	0.6%	0.0%
10		(12)	84.5%	14.9%	0.6%	0.0%
11	1	(13)	66.0%	32.6%	1.4%	0.0%
	2	(14)	75.6%	23.5%	1.0%	0.0%
	3	(15)	64.0%	33.6%	2.5%	0.0%
12		(16)	89.8%	9.4%	0.7%	0.0%
13		(17)	88.7%	10.8%	0.6%	0.0%
14		(18)	55.2%	42.9%	1.9%	0.0%
15		(19)	87.4%	11.3%	1.3%	0.0%
16		(20)	85.4%	14.2%	0.3%	0.0%

※4 (未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	1-1	1-2	2	3	4	5	6	7	8-1	8-2	9	10	11-1	11-2	11-3	12	13	14	15	16	平均
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	27	12	18	4	8	6	0	1	0	1	0	8	1	5	0	21	21	0	6	1	0
95～100%	44	24	42	12	21	11	1	0	2	4	0	19	2	8	2	28	26	2	35	16	2
90～95%	52	32	42	14	25	12	4	4	3	2	1	29	4	13	7	49	44	4	41	26	5
85～90%	27	24	38	21	21	11	4	3	8	3	4	33	8	13	7	23	31	6	41	50	14
80～85%	9	25	15	30	27	26	11	8	9	13	2	31	22	29	15	20	16	7	10	42	23
75～80%	2	14	3	32	13	19	6	9	21	19	5	20	12	19	18	10	12	11	13	19	45
70～75%	1	7	2	11	8	26	16	12	18	24	7	8	17	19	20	7	6	8	7	2	32
65～70%	0	11	1	24	5	13	22	22	27	20	12	4	29	18	15	4	2	21	2	4	22
60～65%	0	6	1	10	6	11	27	23	30	16	24	4	15	20	15	0	3	13	2	1	10
55～60%	0	3	0	3	6	13	15	11	18	24	27	4	12	8	14	0	0	8	2	1	7
50～55%	0	1	0	1	5	5	21	29	10	18	27	1	18	7	25	0	1	23	0	0	1
45～50%	0	1	0	0	2	3	15	17	9	3	21	1	6	2	7	0	0	13	3	0	0
40～45%	0	1	0	0	8	2	12	9	5	6	14	0	6	0	7	0	0	9	0	0	1
35～40%	0	0	0	0	2	2	4	6	2	6	12	0	4	1	4	0	0	12	0	0	0
30～35%	0	0	0	0	3	2	3	2	0	1	5	0	3	0	3	0	0	4	0	0	0
25～30%	0	1	0	0	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	7	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	3	0	1	0	0	9	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162

※1学年20人以上データを提出した学校

# 小学校6年 算数 調査結果及び考察

## (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別			
		考え方	表現・処理	知識・理解	数と計算	量と測定	図 形	数量関係
問 題 数	20	5	7	8	9	3	4	4
+10%以上	5	2	1	2	1	0	2	2
±10%内	14	3	5	6	8	3	2	1
-10%以下	1	0	1	0	0	0	0	1

## (2) 考察

全体について

- ア 基礎的・基本的な学習内容の定着が図られている。
- イ 設定通過率の平均が70.5%に対して、通過率の平均が75.2%であり、おおむね満足できる学習状況である。

成果

- ア 過去に出題された問題にかかわる指導の改善が十分に図られている。
- イ 小数についての問題の改善が図られてきている。

課題

- ア 百分率を活用した基本的な計算をすることに学校間で差が見られる。
- イ 円の面積を求める公式を導き出す問題に学校間で差が見られる。

## (3) 課題をふまえた今後の指導

- ア 百分率の意味理解を図りながら活用することで確実な定着を図る。

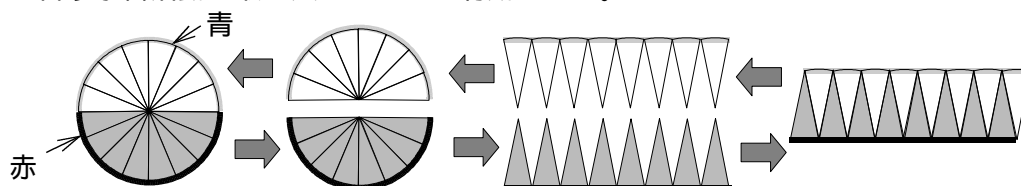
- ・百分率を用いて表すことの意味理解を、具体物を用いた操作活動を取り入れるなどして、実感を伴ったものにする。
- ・例えば「定価800円の20%引きで買います。」という問題場面を、「800円の20%はいくらだろう?」、「いくらで買ったことになるだろう?」、「それは、800円の何%のねだんで買ったのと同じことになるだろう?」のように発問を工夫し、百分率を活用し様々な角度から考察させることで習熟を図る。

7 ある小学校の児童数は800人で、そのうちの16%が6年生です。6年生の人数は何人でしょうか。  
 の中に書きましょう。(8)

昨年度 割合(%)を求める 78.2%  
 今年度 比べられる量を求める 60.4%  
 求めることがらを変えることで、通過率が約20ポイントも下がっている。

- イ 作業的な活動を充実させ、図形についての豊かな感覚を身に付けさせる。

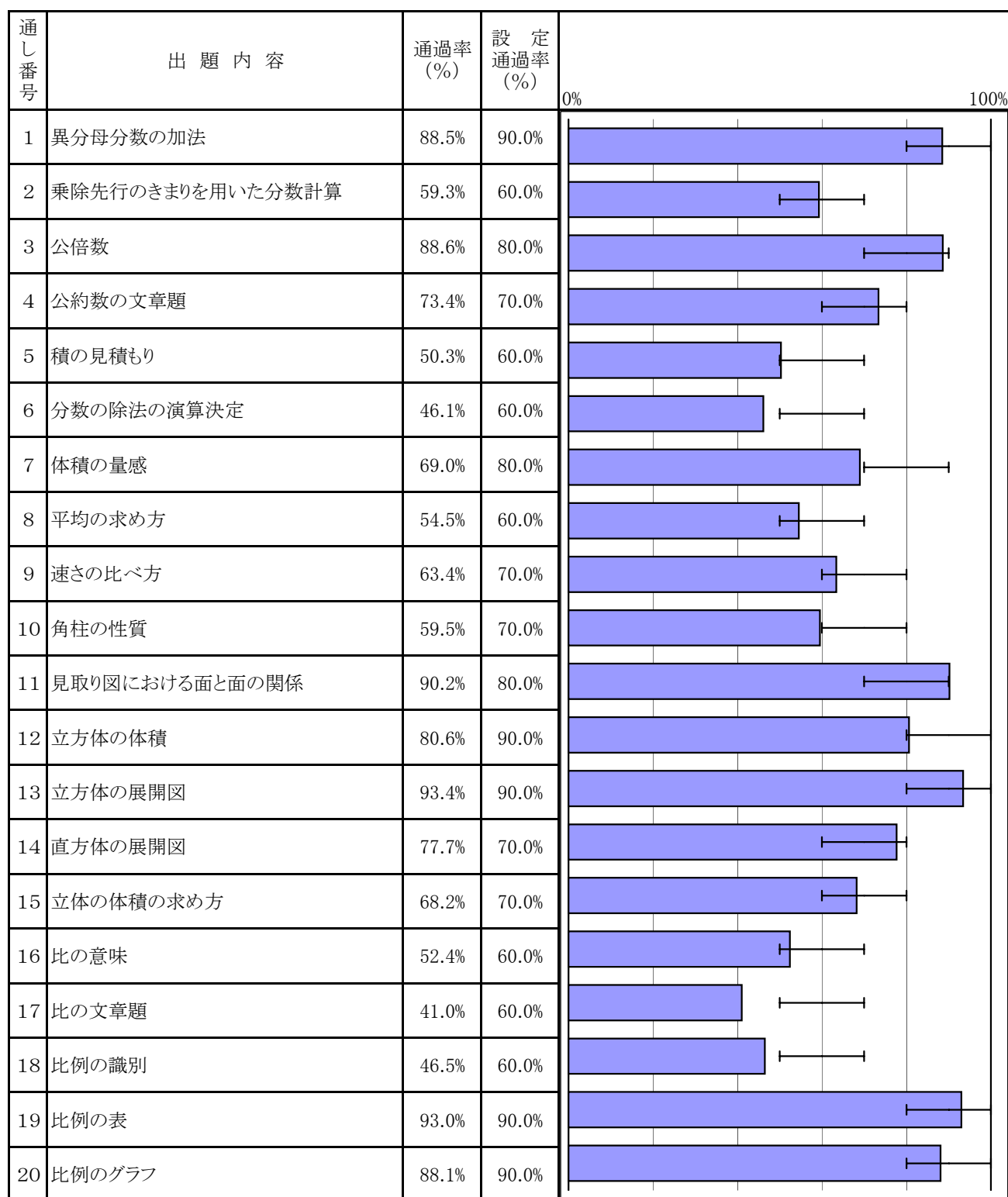
- ・円を扇形に分割し並べ替えて長方形を作るなど作業的な活動を取り入れる。その際、上の辺と下の辺を区別できるように色を付けることで、長方形の縦と横が円のどこの長さにあたるのかを子どもが把握しやすいようにする。また、円を長方形に変形することと長方形を円に戻すことの双方向の過程を体験させることで、円と長方形の対応する部分についての理解を深めることができる。
- ・単に作業的活動で終わらせることなく、図形の変形と式との関連を意識させながら公式を導き出すことができるようにする。その際、式の表す意味についてペアなどで説明し合う学習活動を取り入れることも有効である。



中学校 第 1 学年  
数 学

中学校1年 数学 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 69.2%



※ ——— は設定通過率±10%を示している。

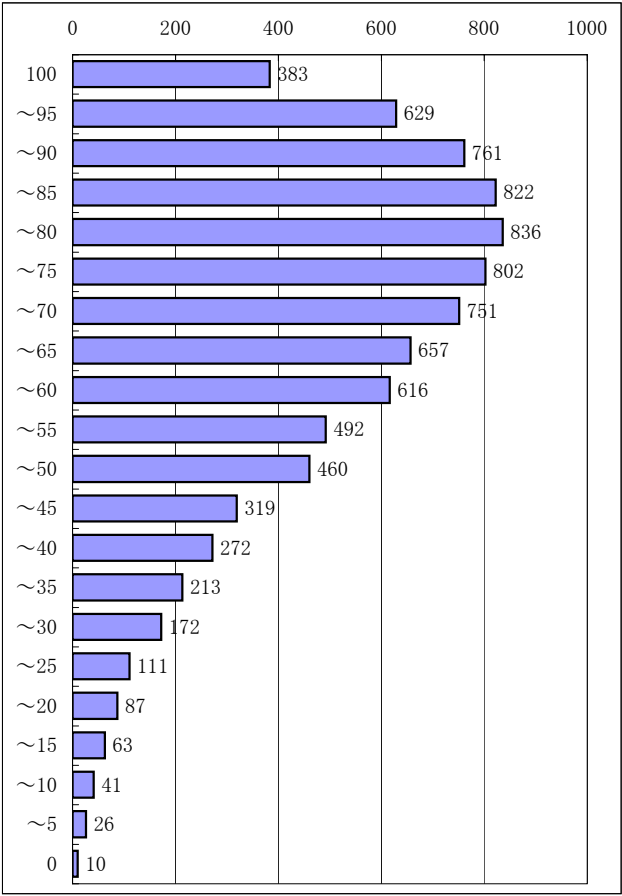
中学校1年 数学

小問別反応率

通し番号			1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
1	1	(1)	88.5%	11.1%	0.4%	0.0%
	2	(2)	59.3%	38.0%	2.7%	0.0%
2	1	(3)	88.6%	10.1%	1.3%	0.0%
	2	(4)	73.4%	22.1%	4.5%	0.0%
3	1	(5)	50.3%	49.3%	0.4%	0.0%
	2	(6)	46.1%	51.3%	2.5%	0.0%
4	1	(7)	69.0%	30.6%	0.4%	0.0%
	2	(8)	54.5%	37.7%	7.8%	0.0%
5	1	(9)	63.4%	33.5%	3.1%	0.0%
	2	(10)	59.5%	39.4%	1.2%	0.0%
6	1	(11)	90.2%	9.4%	0.4%	0.0%
	2	(12)	80.6%	17.9%	1.5%	0.0%
	3	(13)	93.4%	5.6%	0.9%	0.0%
7		(14)	77.7%	20.6%	1.7%	0.0%
8		(15)	68.2%	28.7%	3.1%	0.0%
9	1	(16)	52.4%	46.3%	1.3%	0.0%
	2	(17)	41.0%	46.3%	12.7%	0.0%
	3	(18)	46.5%	52.3%	1.3%	0.0%
10	1	(19)	93.0%	5.7%	1.3%	0.0%
	2	(20)	88.1%	10.7%	1.2%	0.0%

※4 (未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1	5-2	6-1	6-2	6-3	7	8	9-1	9-2	9-3	10-1	10-2	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5	1	12	0	0	0	0	0	7	4	0
95～100%	10	0	10	0	0	0	0	0	0	0	14	2	47	2	0	0	0	0	32	14	0
90～95%	44	0	39	3	1	0	0	0	1	1	50	9	41	11	1	0	0	0	60	36	0
85～90%	41	1	43	7	0	1	2	0	4	0	33	27	15	12	5	0	0	0	14	29	1
80～85%	19	1	25	17	0	0	5	3	8	2	15	30	5	26	7	0	1	0	7	24	3
75～80%	4	7	2	30	1	3	19	0	11	3	3	29	2	25	16	1	0	0	0	7	11
70～75%	2	13	0	28	1	6	31	5	10	11	0	14	0	18	23	3	1	2	1	6	45
65～70%	0	16	0	19	3	6	29	7	20	8	1	8	0	20	24	2	0	2	1	2	36
60～65%	0	31	0	6	9	8	20	11	24	26	0	1	0	7	25	12	2	9	0	0	23
55～60%	0	15	0	11	20	7	10	22	15	32	0	1	0	1	14	25	8	13	0	0	3
50～55%	0	15	0	1	27	18	5	30	11	23	0	0	0	0	3	36	16	19	0	0	0
45～50%	0	14	0	0	26	14	1	29	9	9	1	0	0	0	2	23	18	24	0	0	0
40～45%	0	8	0	0	25	11	0	14	5	4	0	0	0	0	1	14	22	25	0	0	0
35～40%	0	1	0	0	5	21	0	1	3	2	0	0	0	0	1	2	17	14	0	0	0
30～35%	0	0	0	0	3	13	0	0	1	1	0	0	0	0	0	4	19	10	0	0	0
25～30%	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	2	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

※1学年20人以上データを提出した学校



# 中学校1年 数学 調査結果及び考察

## (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別			
		考え方	表現・処理	知識・理解	数と計算	量と測定	図形	数量関係
問題数	20	6	8	6	6	4	4	6
+ 10 % 以上	1	0	1	0	0	0	1	0
± 10 % 内	14	5	6	3	5	3	2	4
- 10 % 以下	5	1	1	3	1	1	1	2

## (2) 考察

全体について

ア 学習の実現状況はおおむね良好で、基礎的・基本的な内容の確実な定着が見られるが、経年比較すると通過率の低い問題が依然見られる。

成果

ア 観点別では「考え方」「表現・処理」が、また、領域別では「数と計算」「図形」がおおむね満足できる状況にある。

イ 前年度の課題だった「体積の量感」「速さの比べ方」で指導の改善が図られている。

課題

ア 分数の除法の演算決定をする力を身に付ける必要がある。

・6) 分数の除法の演算決定の問題における通過率は、41.3% (17年度) 48.3% (18年度) 46.1% (今年度) と推移しており、改善が見られない状況である。

イ 比例の関係を識別する力を身に付ける必要がある。

・比例するものを選択する問題の通過率は、40.0% (18年度) 46.5% (今年度) と低い状況が続いている。

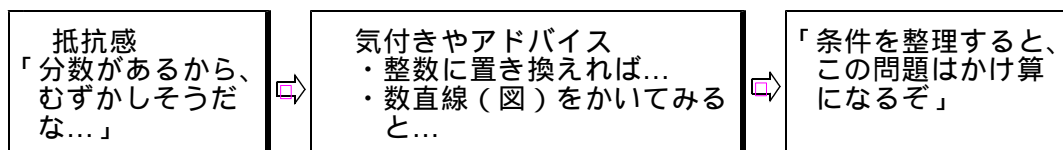
## (3) 課題をふまえた今後の指導

ア 「分数を整数に置き換えて考える」「数量を図に表して考える」などの演算決定の方略(ストラテジー)を身に付けさせる。

(今年度) 3 / 4 mの重さが2 / 3 kgのホースがあります。このホース1 mの重さを求める式を答えなさい。(通過率 46.1 %)



・分数の乗法の文章題において、分数に対する抵抗感を考慮しながら、次のような手順で習熟を図っていくことが大切である。



・上の問題を扱う際の1つの展開例として、次の方法も考えられる。

問題文の分数の部分を にしておく。

復習を兼ねて に整数を入れて、数直線(図)をかいて考える。

次に、 に分数を入れて、整数と同様の手順で考える。

イ 比例の関係を識別する力を高める。

・小6の段階では、対応表(関係を表した表)をかいて変化の仕方に着目させることが必要である。対応表の横と縦の見方を指導しながら識別する力を高めていきたい。

対応表をつかって、一方の量を2倍、3倍し、もう一方の量の変化を見る。  
(対応表の横の見方)

		2 倍	3 倍	
1 辺の長さ	1	2	3	...
まわりの長さ	3	6	9	...
		2 倍	3 倍	

対応表をつかって、数量の二つの数値の割合が他方の割合といつでも等しくなるか見る。(対応表の縦の見方)


	1	2	3	...
1 辺の長さ	1	2	3	...
まわりの長さ	3	6	9	...
	3 倍	3 倍	3 倍	

中学校 第 2 学年  
数 学

中学校2年 数学 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 61.0%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
1	正負の数の大小	81.2%	80.0%	
2	正負の数の計算	85.7%	80.0%	
3	1次方程式の計算	51.5%	70.0%	
4	文字式の理解	79.6%	80.0%	
5	文字を使った数量の表し方	67.8%	70.0%	
6	式の値	58.9%	70.0%	
7	平面図形の対称	48.8%	70.0%	
8	文字式で表された数量の意味	61.9%	60.0%	
9	等式の性質	60.5%	80.0%	
10	1次方程式の立式	71.2%	70.0%	
11	比例関係の式表現	32.8%	60.0%	
12	比例のグラフの式表現	44.6%	70.0%	
13	比例の利用	58.0%	60.0%	
14	反比例の意味	50.3%	70.0%	
15	反比例関係の理解	44.9%	60.0%	
16	空間図形の辺の位置関係	80.3%	80.0%	
17	扇形の中心角	43.7%	70.0%	
18	角錐の展開図	77.1%	70.0%	
19	線分の中点の作図	69.4%	70.0%	
20	文字を用いた数量の一般的な表現	51.9%	60.0%	

※  は設定通過率±10%を示している。

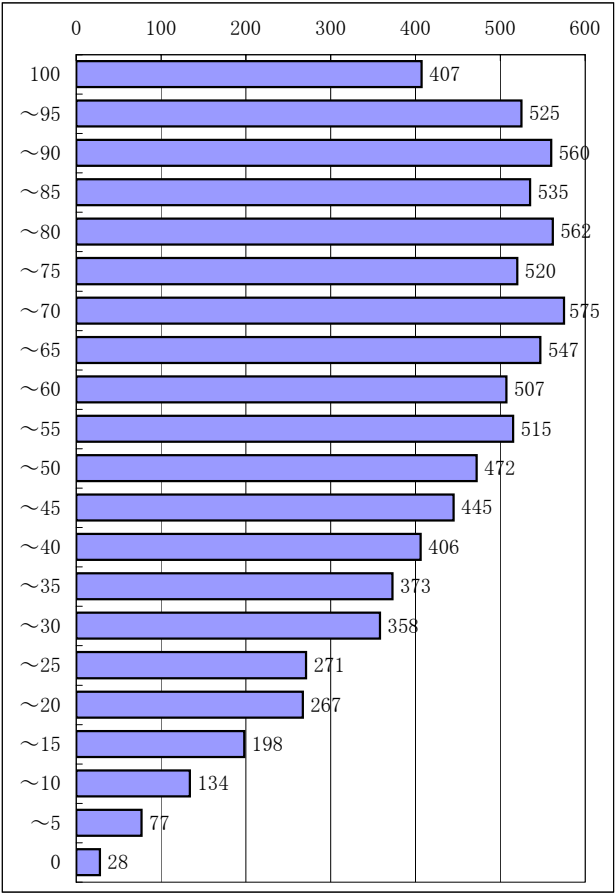
中学校2年 数学

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1)	81.2%	18.7%	0.1%	0.0%
	2	(2)	85.7%	13.3%	1.0%	0.0%
	3	(3)	51.5%	38.6%	10.0%	0.0%
	4	(4)	79.6%	20.1%	0.3%	0.0%
2	1	(5)	67.8%	30.4%	1.8%	0.0%
	2	(6)	58.9%	31.9%	9.2%	0.0%
	3	(7)	48.8%	50.6%	0.6%	0.0%
3	1①	(8)	61.9%	32.5%	5.6%	0.0%
	1②	(9)	60.5%	37.1%	2.5%	0.0%
	2	(10)	71.2%	17.3%	11.5%	0.0%
4	1	(11)	32.8%	51.6%	15.5%	0.0%
	2	(12)	44.6%	44.8%	10.6%	0.0%
	3	(13)	58.0%	28.4%	13.6%	0.0%
5	1	(14)	50.3%	44.5%	5.2%	0.0%
	2	(15)	44.9%	53.1%	2.1%	0.0%
6	1	(16)	80.3%	18.4%	1.2%	0.0%
	2	(17)	43.7%	33.3%	23.0%	0.0%
7	1	(18)	77.1%	17.5%	5.4%	0.0%
	2	(19)	69.4%	24.7%	5.9%	0.0%
8		(20)	51.9%	40.0%	8.0%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	1-1	1-2	1-3	1-4	2-1	2-2	2-3	3-1-1	3-1-2	3-2	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2	6-1	6-2	7-1	7-2	8	平均
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
95～100%	6	10	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
90～95%	22	30	0	7	16	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	13	0	4	5	0	0
85～90%	17	33	0	20	13	1	0	3	0	6	0	0	0	0	0	12	0	20	11	0	0
80～85%	33	33	2	34	6	2	0	6	4	8	0	0	0	0	0	44	0	24	9	0	0
75～80%	15	7	3	31	11	7	0	9	4	26	0	0	6	1	0	36	0	31	17	5	3
70～75%	10	4	8	19	11	7	2	10	11	28	1	3	10	7	1	7	2	20	19	9	9
65～70%	7	1	5	8	8	21	4	18	16	27	1	4	9	11	4	7	6	9	22	11	22
60～65%	5	2	12	1	8	24	9	19	23	17	0	4	29	13	3	2	7	4	17	14	36
55～60%	2	0	14	1	10	18	17	23	30	4	0	13	22	18	7	0	12	8	10	11	29
50～55%	3	0	24	0	5	17	22	19	12	1	6	15	22	14	15	1	12	1	9	17	17
45～50%	1	0	17	0	5	12	27	10	12	1	6	22	16	13	25	0	16	0	2	17	5
40～45%	1	0	20	0	4	7	23	4	7	1	16	25	5	15	27	0	19	1	1	17	1
35～40%	1	0	9	1	3	5	11	2	3	1	15	8	2	14	26	0	20	0	0	11	1
30～35%	0	0	4	0	6	0	7	0	1	0	25	17	2	7	11	0	9	0	0	6	0
25～30%	0	1	3	0	5	2	0	0	0	0	24	9	0	5	3	0	8	0	0	2	0
20～25%	0	0	1	0	3	0	1	0	0	0	22	2	0	4	1	0	6	0	0	2	0
15～20%	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	3	0	0	1	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123

※1学年20人以上データを提出した学校

## 中学校2年 数学 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観点別			領域別		
		見方や考え方	表現・処理	知識・理解	数と計算	図形	数量関係
問題数	20	5	9	6	10	5	5
+10%以上	0	0	0	0	0	0	0
±10%内	11	3	5	3	7	3	1
-10%以下	9	2	4	3	3	2	4

### (2) 考察

#### 全体について

- ア より一層の基礎・基本の確実な定着を目指す必要がある。
- ・全体の平均通過率は61.0%であり、設定通過率(70%)と同程度におさまっているとは言えるものの、10ポイント以上下回る問題が9問ある。
- イ 数学を好意的にとらえている生徒の割合が、年々増加してきている。
- ・数学を好意的にとらえている生徒の割合は54.8%(大すき15.7%、すき39.1%)であり、平成15年度の調査47.5%から年々わずかずつつ上昇している。

#### 成果

- ア 「数と計算」の領域は、おおむね満足できる状況にある。
- イ 過去の調査問題との類似問題では、改善が見られたものが多い。

#### 課題

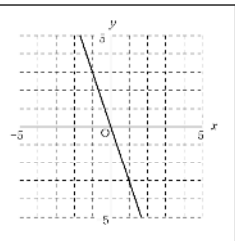
- ア 「数量関係」の領域では、改善すべき点が多い。
- ・出題した5問すべてが設定通過率を下回っており、4問は10ポイント以上下回っている。
- イ 判断理由を記述することに難がある。
- ・比例か反比例かを判断し、その理由を記す問題の(14の通過率が低い。判断はできているものの正しく理由を記述できていないと推測される。

### (3) 課題をふまえた今後の指導

#### ア 関数関係の式表現の確実な定着を図る。

運動会でピストルを鳴らします。ピストルを鳴らしてから  $x$  秒後に、鳴らした地点から  $y$  m 離れた地点にピストルの音が伝わるとすると、 $x$  と  $y$  は比例の関係にあります。ピストルを鳴らしてから 0.5 秒後に、鳴らした地点から 170 m 離れた地点にピストルの音が伝わったとき、 $y$  を  $x$  の式で表しなさい。(11)

次の図の直線は、比例のグラフを表しています。このグラフについて、 $y$  を  $x$  の式で表しなさい。(12)



- ・関数関係の式表現は、中学校1年での関数(比例・反比例)学習の特徴の1つである。しかしながら、(11、(12、ともに設定通過率を大きく下回っている。

「 $y = ax$ 」の式の形とともに、比例定数  $a$  の理解を深めたい。すなわち、 $y/x$  が一定の値( $a$ )となることと、 $x$  が1増加するとき  $y$  が  $a$  増加することの両方の理解を大事にしたい。

- ・その上で、具体的な事象やグラフではどこに  $a$  の値がかくれているか、どこからどうやって  $a$  の値を見つけ出すかを学習したい。2・3年での関数の基礎

- ・基本になるので、短期や長期の繰り返し指導で確実に定着を図りたい。
- イ 根拠を明らかにして答える学習活動を取り入れる。
- ・分かるけれどもどう表現したらいいのか、どう書いたらいいのか悩んでしまう生徒に手立てを与えたい。そのために、反比例と判断してよい理由(根拠)と反比例ならいえる性質を区別して扱ったり、肯定と否定のそれぞれの理由の表現の仕方を学習したりする活動を授業の中に取り入れることが必要である。

次の表は、 $x$  と  $y$  の関係について、対応する値を示したものです。

$x$	...	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	...
$y$	...	3	4	6	12		-12	-6	-4	-3	...

この  $x$  と  $y$  の関係を正しく表しているものを、次のア～ウの中から1つ選んで、その記号を書きなさい。また、その記号を選んだ理由も書きなさい。

- ア  $y$  は  $x$  に比例している。  
 イ  $y$  は  $x$  に反比例している。  
 ウ  $y$  は  $x$  に比例していないし、反比例もしていない。(14)

中学校 第 3 学年  
数 学

中学校3年 数学 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 55.6%

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0%100%
1	単項式の計算	77.5%	80.0%	
2	多項式の計算、式の値	72.5%	80.0%	
3	連立方程式の計算	77.8%	80.0%	
4	文字を用いての立式	42.5%	80.0%	
5	連立方程式の応用	76.9%	80.0%	
6	確率	69.0%	70.0%	
7	等式の変形	52.0%	70.0%	
8	文字式による一般化	61.7%	70.0%	
9	文字式による説明	44.4%	60.0%	
10	対頂角・同位角・錯角の意味	70.1%	80.0%	
11	文字を用いての関係理解	38.0%	70.0%	
12	円周角と中心角の関係	52.3%	70.0%	
13	平行四辺形になるための条件	60.1%	70.0%	
14	二等辺三角形になることの証明	32.5%	60.0%	
15	三角形の合同の証明	53.1%	70.0%	
16	一次関数の識別	37.0%	60.0%	
17	一次関数のグラフと式	50.5%	70.0%	
18	一次関数の変域	48.1%	60.0%	
19	一次関数の関係と式	49.4%	60.0%	
20	一次関数の利用	47.3%	60.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

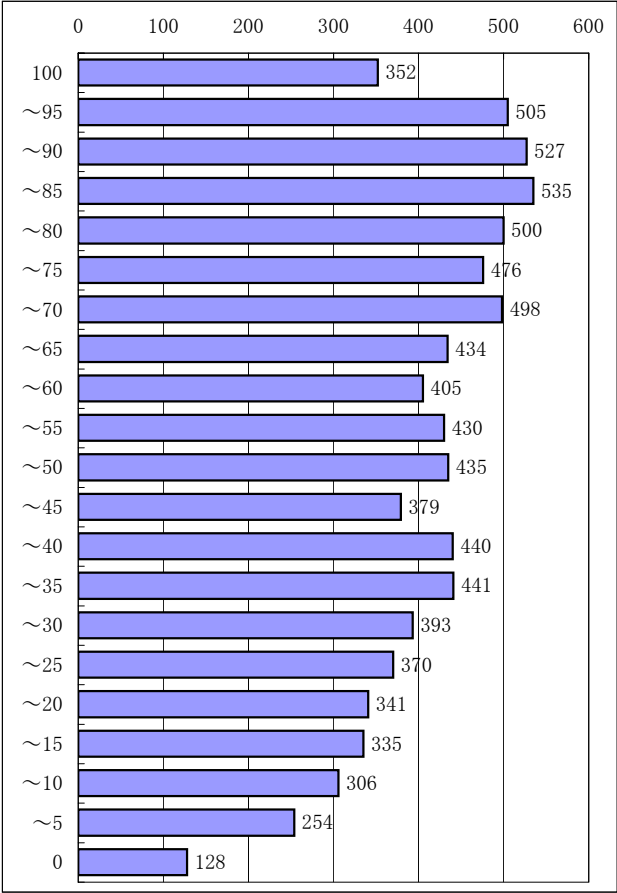
中学校3年 数学

小問別反応率

通し番号			1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
1	1	(1)	77.5%	21.9%	0.6%	0.0%
	2	(2)	72.5%	24.6%	2.9%	0.0%
	3	(3)	77.8%	14.8%	7.4%	0.0%
	4	(4)	42.5%	38.8%	18.6%	0.0%
2		(5)	76.9%	14.9%	8.2%	0.0%
3		(6)	69.0%	30.3%	0.8%	0.0%
4		(7)	52.0%	38.6%	9.4%	0.0%
5		(8)	61.7%	27.4%	10.9%	0.0%
6		(9)	44.4%	49.9%	5.7%	0.0%
7	1	(10)	70.1%	27.4%	2.5%	0.0%
	2	(11)	38.0%	43.9%	18.1%	0.0%
	3	(12)	52.3%	36.4%	11.3%	0.0%
8		(13)	60.1%	38.8%	1.1%	0.0%
9		(14)	32.5%	55.1%	12.4%	0.0%
10		(15)	53.1%	35.2%	11.7%	0.0%
11		(16)	37.0%	50.3%	12.6%	0.0%
12		(17)	50.5%	42.6%	6.9%	0.0%
13		(18)	48.1%	38.7%	13.2%	0.0%
14		(19)	49.4%	38.9%	11.7%	0.0%
15		(20)	47.3%	49.1%	3.6%	0.0%

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ (人)



小問別通過率度数分布表 (校)

以上 未満	1-1	1-2	1-3	1-4	2	3	4	5	6	7-1	7-2	7-3	8	9	10	11	12	13	14	15	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95～100%	2	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
90～95%	8	2	6	0	4	2	0	1	0	4	0	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0
85～90%	17	5	21	1	17	3	1	0	0	11	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
80～85%	24	16	27	0	26	4	3	0	1	15	1	4	1	0	1	1	1	0	1	0	0
75～80%	26	29	20	0	32	22	0	7	1	17	0	1	1	0	1	0	0	1	3	1	0
70～75%	21	20	33	1	23	27	3	17	1	17	0	9	19	0	9	0	2	2	1	0	3
65～70%	17	23	14	1	8	26	6	21	1	13	2	12	13	2	12	1	7	5	5	0	7
60～65%	4	21	1	2	4	20	17	27	9	10	3	14	29	3	12	5	20	5	12	6	23
55～60%	1	3	0	6	4	13	8	23	11	10	3	7	18	5	13	3	14	18	16	19	25
50～55%	1	2	0	17	2	4	32	16	16	12	8	20	25	5	23	8	14	18	23	19	35
45～50%	0	1	0	19	0	0	21	5	20	9	13	9	10	8	20	14	30	18	21	26	22
40～45%	0	0	0	19	0	0	13	3	24	2	23	17	3	11	9	11	11	29	15	26	6
35～40%	0	0	0	29	0	0	15	2	19	0	20	14	1	14	9	15	10	13	15	9	0
30～35%	0	0	0	16	0	0	3	0	5	0	17	8	0	18	9	27	8	9	7	11	0
25～30%	0	0	0	9	0	0	0	0	7	0	13	3	0	18	2	15	4	2	3	2	0
20～25%	0	0	0	2	0	0	0	0	4	0	11	2	0	12	1	11	0	1	0	1	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5	0	0	5	0	8	0	0	0	1	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	6	0	2	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	8	0	1	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
計	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

※1学年20人以上データを提出した学校



# 中学校3年 数学 調査結果及び考察

## (1) 調査結果

### 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別		
		考え方	表現・処理	知識・理解	数と式	図形	数量関係
問 題 数	20	6	9	5	8	6	6
+10%以上	0	0	0	0	0	0	0
±10%内	8	2	3	3	5	2	1
-10%以下	12	4	6	2	3	4	5

## (2) 考察

### 全体について

- ア 設定通過率が昨年度と同じ70%であったが、平均通過率は55.0%から55.6%へ、設定通過率を超えた学校が4校から6校へとそれぞれ微増した。
- イ 平均通過率が50%に満たない学校は、26校から19校へ減るなど指導による改善も見られた。

### 成果

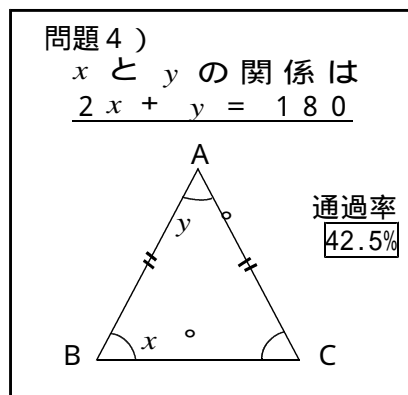
- ア 基礎的知識・技能に関する問題は、ほぼ設定通過率どおりで、適切な学び直しや繰り返しによって生徒に少しずつ力が付いてきている。
- イ 課題になっていた連立方程式の立式については、表の一部を与えることで改善が見られた。解決の方略を見通すことができれば、生徒は解決に意欲的になる。

### 課題

- ア 文字式を使い、簡潔・明瞭にしかも一般的に表現することにまだ抵抗がある。
- イ 推論の過程を的確に、しかも簡潔で、分かりやすく表現することに慣れていない。
- ウ 関数関係は目に見えないので難しい。ともなって変わる2つの量に着目し、それを目に見えるものにするための道具（式/表/グラフ）を十分に使いこなすことができていない。

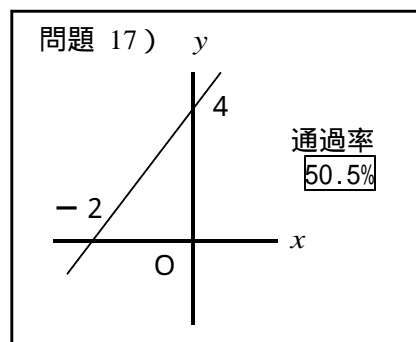
## (3) 課題をふまえた今後の指導

- ア 文字式の指導は、意味理解を丁寧に繰り返す。
  - ・文字式については、適切な学び直しの機会を捉えて、文字のもつ意味、特に変数の意味理解に重点をおきたい。成果の上がっている学校は、図と式を関連付ける、式をよむ活動を行うなど具体的な手立てを明らかにした実践を行っている。
  - 定着度の低い右図の問題を扱う場合も、色磁石を利用し生徒の視点を定めたり、矢印で式と図を結び付けたりする活動を行い、視覚に訴えることで意味理解を図りたい。



- イ 論理的に説明する力を計画的・継続的に指導する。
  - ・順番を表す言葉（例）「まず...そして...」や根拠を表す言葉（例）「...だから」を用いて筋道立ててわかりやすく話す・書くことを3年間を通して継続的に指導する。その課程で、図形の性質や条件を用いて説明すること、さらには三角形の合同条件を用いた証明形式のよさなどを実感できるようにして計画的に論証する力を高めるようにする。

- ウ 関数は多面的な見方を重視する。
  - ・文章題から式をつくる授業であっても、図をかく、表をつくる、簡単なグラフをかくなど多面的な見方で問題を考えるようにしたい。そして、それらを結び付ける活動を通して、関数への理解を深めていきたい。
  - その際、ノートを活用し、右図のようなグラフや表などを定規等を使わずに簡易な方法でかく指導を積み重ねることも大切である。




小学校 第4学年  
理科

小学校4年 理科 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 84.8%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
1	植物の育ち方	79.5%	70.0%	
2	こん虫の食べ物とすみか	88.4%	80.0%	
3	虫眼鏡の使い方	79.3%	70.0%	
4	光の性質	95.4%	85.0%	
5	磁石の性質	76.0%	70.0%	
6	レンズにより集めた光の性質	85.9%	70.0%	
7	回路の作製	88.0%	80.0%	
8	太陽の位置と日陰の位置	82.8%	65.0%	
9	地面の温度のはかり方	79.1%	75.0%	
10	日なたと日陰の違い	93.4%	85.0%	

※  は設定通過率±10%を示している。

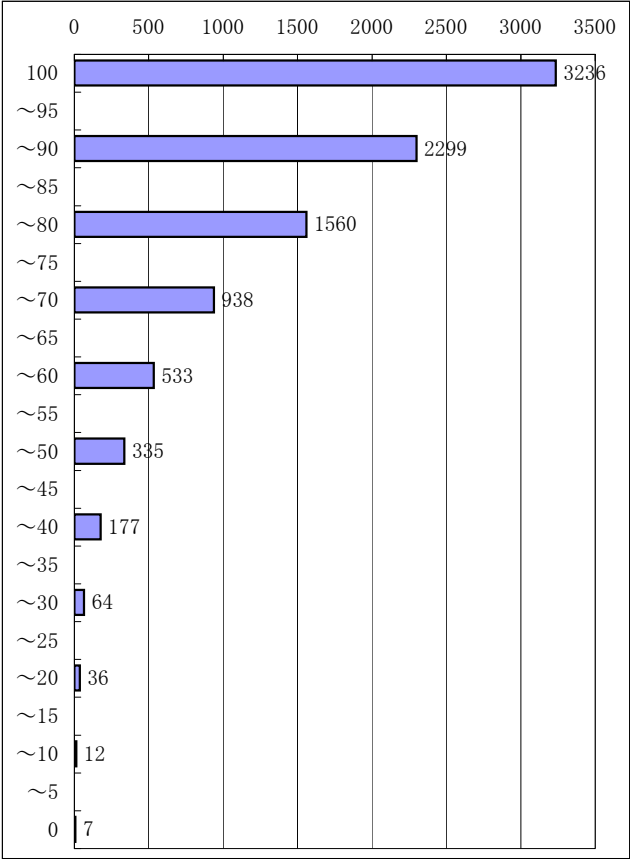
小学校4年 理科

小問別反応率

通し番号		1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	(1)	79.5%	20.4%	0.1%	0.1%
2	(2)	88.4%	11.0%	0.7%	0.0%
3	(3)	79.3%	20.6%	0.1%	0.0%
4	(4)	95.4%	4.5%	0.1%	0.1%
5	(5)	76.0%	23.7%	0.2%	0.1%
6	(6)	85.9%	13.8%	0.3%	0.1%
7	(7)	88.0%	11.1%	0.9%	0.0%
8	(8)	82.8%	17.0%	0.3%	0.1%
9	(9)	79.1%	20.7%	0.1%	0.0%
10	(10)	93.4%	6.4%	0.2%	0.1%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	通過率
100%	9	14	12	41	3	8	26	4	2	20	0
95～100%	10	35	18	62	6	20	42	13	6	47	9
90～95%	20	36	23	39	16	31	29	25	14	62	32
85～90%	29	31	18	16	15	37	20	33	26	22	41
80～85%	19	19	30	4	20	24	13	30	35	10	42
75～80%	15	15	18	0	31	30	9	19	29	2	25
70～75%	18	7	9	0	20	7	5	20	27	0	10
65～70%	9	1	9	1	25	1	6	12	9	0	3
60～65%	15	2	7	0	13	3	5	4	9	0	1
55～60%	7	2	5	0	5	2	3	2	1	0	0
50～55%	10	1	3	0	9	0	1	0	3	0	0
45～50%	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0
40～45%	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0
35～40%	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
30～35%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
25～30%	0	0	3	0	0	0	1	0	1	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163

※1学年20人以上データを提出した学校

## 小学校4年 理科 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別		
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	生物と環境	物質とエネルギー	地球と宇宙
問 題 数	10	3	3	4	3	4	3
+10%以上	3	2	0	1	0	2	1
±10%内	7	1	3	3	3	2	2
-10%以下	0	0	0	0	0	0	0

### (2) 考察

全体について

- ア 学習状況はおおむね良好といえる。
- イ 過去に実施した類似問題との比較から、各学校の指導状況のよさが感じられる。

成果

- ア 「科学的な思考力」の向上がみられる。
- イ 「物質とエネルギー」領域における実現状況が良好である。

課題

- ア 観察、実験器具の適切な操作について、学校間でばらつきがみられる。
- イ 実感をともなった理解を図る必要がある。

### (3) 課題をふまえた今後の指導

- ア 観察、実験器具の操作について、一人一人に習得の徹底を図る必要がある。
  - ・虫めがねなどよく使う観察・実験器具については、一人一人に基本操作をしっかりと習得させた上で、日常的に使えるような工夫をすることが重要である。指導する場合は、なぜそのような使い方をしなければならないのか理由を示しながら指導することが大切である。操作を定着させるためには、例えば活動をペアにして、操作を正しく行っているか互いに見合う場を設定することも考えられる。
- イ 具体的な活動を充実させて、実感をともなった理解を図る必要がある。
  - ・小学校3年生の特性や考え方を踏まえ、飼育や栽培、ものづくりなどの具体的な活動を充実させて、実感の伴った理解を図る指導が重要である。

1 ホウセンカのそだちかたをカードにまとめました。正しいじゅんばんにならんでいるのはどれですか。つぎのア～エから一つえらんで、□の中に記号をかきなさい。




- ・ホウセンカやモンシロチョウは児童にとって身近な素材である。例えば上の設問では、素材を効果的に活用し、観察カードを工夫するなどして継続的に観察させることによって、植物の育ち方などについての理解を図ることが大切である。飼育・栽培活動に親しみながらも、途中で挫折しないような工夫も必要である。
- ・ものづくりは、電気や磁石に関する学習内容の理解を図る上で効果的である。また、ものづくりを通して、自分自身でつくり上げたという成就感やつくったもので遊べる満足感も味わわせることができる。知的な好奇心を高め、より実感を伴った理解を図るために活動の時間を十分に保障することも大切である。

小学校 第 5 学年  
理 科

小学校5年 理科 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 83.6%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
1	季節の変化と植物の成長	98.3%	90.0%	
2	季節の変化と動物の成長	80.6%	80.0%	
3	気温の測り方	87.7%	80.0%	
4	空気と水の力	86.9%	70.0%	
5	加熱器の使い方 (A)アルコールランプ	91.8%	70.0%	
6	加熱器の使い方 (B)ガスバーナー	83.0%	70.0%	
7	電流の強さとはたらき	75.0%	70.0%	
8	光電池のはたらき	89.5%	80.0%	
9	天体の動き	91.6%	80.0%	
10	温度計の使い方	88.4%	70.0%	
11	温度と水の状態変化	46.6%	60.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

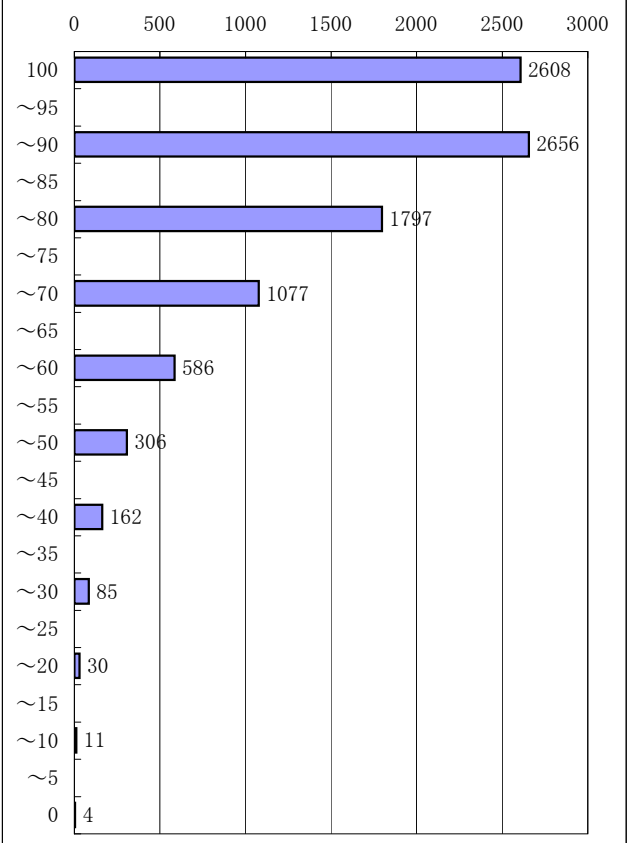
小学校5年 理科

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1)	98.3%	1.7%	0.0%	0.0%
	2	(2)	80.6%	19.2%	0.1%	0.0%
2		(3)	87.7%	12.2%	0.1%	0.0%
3		(4)	86.9%	13.0%	0.1%	0.0%
4	A	(5)	91.8%	8.1%	0.1%	0.0%
	B	(5)	83.0%	17.0%	0.0%	0.0%
5		(6)	75.0%	24.8%	0.2%	0.0%
6		(7)	89.5%	10.3%	0.2%	0.0%
7		(8)	91.6%	8.4%	0.0%	0.0%
8	1	(9)	88.4%	11.4%	0.2%	0.0%
	2	(10)	46.6%	50.1%	3.3%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	1-1	1-2	2	3	4-A	4-B	5	6	7	8-1	8-2	平均
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	通過率
100%	84	10	11	6	20	8	1	11	31	22	0	0
95～100%	66	11	34	25	54	2	5	27	34	37	1	1
90～95%	12	32	38	35	34	0	24	45	43	33	2	29
85～90%	2	22	24	35	31	0	17	45	29	29	3	48
80～85%	0	24	22	35	13	1	22	20	18	14	3	40
75～80%	0	17	9	13	3	0	26	14	4	12	6	30
70～75%	0	17	14	9	2	0	14	2	3	6	9	13
65～70%	0	10	8	2	4	0	14	0	2	7	10	2
60～65%	0	8	2	2	0	0	15	0	0	2	13	1
55～60%	0	7	2	2	1	1	12	0	0	1	12	0
50～55%	0	2	0	0	0	0	7	0	0	1	22	0
45～50%	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	8	0
40～45%	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	13	0
35～40%	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	16	0
30～35%	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	11	0
25～30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
0～5%	0	0	0	0	2	149	0	0	0	0	0	0
計	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164

※1学年20人以上データを提出した学校



# 小学校5年 理科 調査結果及び考察

## (1) 設定通過率との比較

比較表	全 体	観 点 別			領 域 別		
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	生物と環境	物質とエネルギー	地球と宇宙
問 題 数	10	3	3	4	3	4	3
+ 10%以上	4	0	2	2	0	2	2
± 10%内	5	2	1	2	3	2	0
- 10%以下	1	1	0	0	0	0	1

## (2) 考察

全体について

- ア 基礎的・基本的な学習内容の定着が図られている。
- イ 設定通過率の平均が74.5%に対して、通過率の平均が83.6%であり、学習状況はおおむね良好といえる。

成果

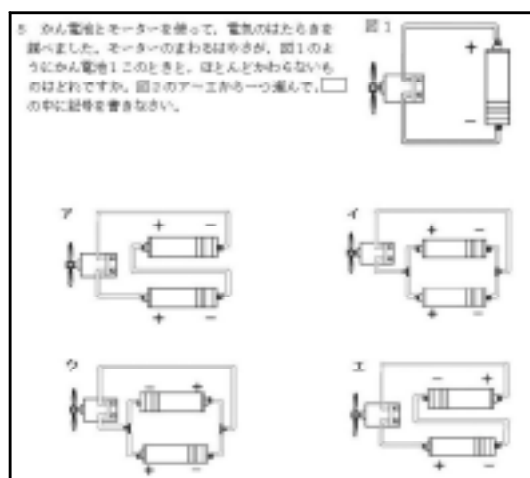
- ア 過去に実施した本県学習状況調査の類似問題の通過率を比較すると、すべての小問で上回っていることから、指導の改善がうかがえる。

課題

- ア 季節の変化と動物の成長について及び電流の強さと働きについては指導のばらつきが見られる。
- イ 理由の説明を求めるなどの記述式の設問については課題が残る。

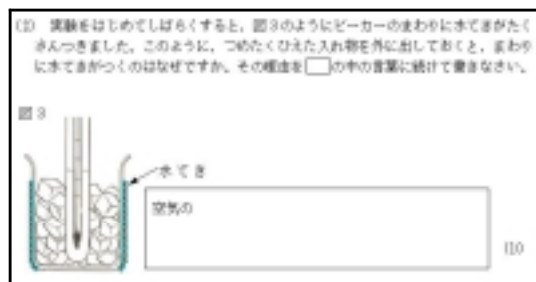
## (3) 課題をふまえた今後の指導

- ア 自然事象に対し、一人一人が見通しをもって問題が解決できるよう、教師の適切な指導のもとに児童の予想を生かした活動を取り入れる。



- ・6)の電流の強さと働きに関する小問においては、指導のばらつきが大きい。授業において、実験は比較的丁寧に行われていることと思われる。しかし、児童の自由試行による実験を保障しているかという視点で授業を見直したい。
- ・電池の配置や結線方法など、児童一人一人に予想させ、回路図に表すなどし、それをもとに実験を行い、必要であれば修正を加えて繰り返し実験に取り組ませたい。その活動を通して、多様に見えた乾電池のつなぎ方も、乾電池の極に注目すれば類型化できることを実感できると思われる。予想を明らかにさせた上で、観察や実験が行われるような指導が望まれる。

- イ 予想や実験方法も含め、自分の言葉でまとめるという指導の充実を図る。



- ・10)は水の状態変化を温度と関係付けて記述により答える小問であるが、未記入率が小問の中で最も高く、3.3%である。水滴がつくという結果の共有で終わるのでなく、変化の要因を自分の言葉で表現させ、考えの交流を通して、結論としてまとめる指導が大切である。
- ・根拠を明確にして自分の考えを適切に表現するためには、日常的に自分の感じたことや考えたことを簡潔に表現する学習を積み

かさねることが大切である。観察・実験を探究的に行う中で、自分の予想や仮説、その検証方法や結果、考察等、自分の考えをまとめたりする表現活動の充実を図りたい。

小学校 第 6 学年  
理 科

小学校6年 理科 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 82.2%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
1	インゲンマメの成長に必要な条件を調べる実験方法	88.9%	75.0%	
2	インゲンマメの成長に必要な条件	80.6%	75.0%	
3	メダカの卵の変化(A)	71.5%	75.0%	
4	人の発生の仕方(B)	92.2%	80.0%	
5	メダカの養分の取り方(A)	86.9%	75.0%	
6	母体内での養分の取り方(B)	96.6%	80.0%	
7	植物の受粉	85.7%	75.0%	
8	顕微鏡の操作手順	68.2%	65.0%	
9	物の溶け方の結果についてのグラフ表示	95.5%	80.0%	
10	水の温度とホウ酸、食塩が溶ける量	61.2%	65.0%	
11	食塩水の重さ	81.7%	80.0%	
12	てこの働きを利用した道具の使い方	80.0%	75.0%	
13	支点と力点の距離と、加える力の大きさとの関係を調べる実験方法	84.3%	75.0%	
14	支点と作用点の長距離と、加える力の大きさとの関係を調べる実験方法	85.6%	75.0%	
15	物の運動(振り子)を調べる実験方法(A)	86.6%	70.0%	
16	物の運動(衝突)を調べる実験方法(B)	71.4%	75.0%	
17	物の運動(振り子)に関するきまりの活用(A)	68.1%	70.0%	
18	物の運動(衝突)に関するきまりの活用(B)	93.5%	75.0%	
19	流れる水の働きの実験と実際の川との関連	87.9%	80.0%	
20	流れる水の速さと土地の削られ方の違い	90.1%	80.0%	
21	流れる水の働きと堆積物の違い	85.6%	80.0%	
22	気象情報(雲写真)と台風の進路の予想	97.6%	80.0%	
23	気象情報(雨量情報)と天気変化の関係	79.9%	70.0%	
24	気象情報を活用した天気変化の予想	61.0%	70.0%	

※ ——— は設定通過率±10%を示している。

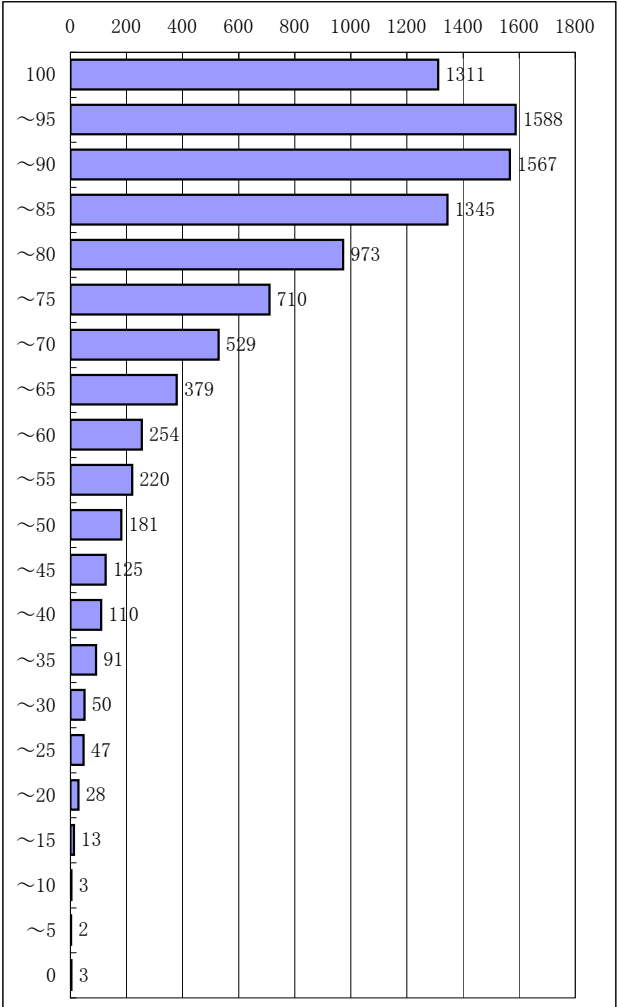
小学校6年 理科

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1	88.9%	11.1%	0.0%	0.0%
	2	(2	80.6%	18.5%	1.0%	0.0%
2	1A	(3	71.5%	28.4%	0.2%	0.0%
	2A	(4	92.2%	6.9%	0.9%	0.0%
	1B	(3	86.9%	13.1%	0.0%	0.0%
	2B	(4	96.6%	3.1%	0.3%	0.0%
3	1	(5	85.7%	14.2%	0.2%	0.0%
	2	(6	68.2%	31.6%	0.2%	0.0%
4	1	(7	95.5%	2.8%	1.7%	0.0%
	2	(8	61.2%	38.5%	0.3%	0.1%
5		(9	81.7%	18.2%	0.1%	0.0%
6	1	(10	80.0%	19.9%	0.1%	0.0%
	2	(11	84.3%	15.4%	0.3%	0.0%
	3	(12	85.6%	14.2%	0.3%	0.0%
7	1A	(13	86.6%	13.2%	0.2%	0.1%
	2A	(14	71.4%	28.3%	0.3%	0.1%
	1B	(13	68.1%	31.8%	0.1%	0.0%
	2B	(14	93.5%	6.4%	0.1%	0.0%
8	1	(15	87.9%	11.9%	0.2%	0.1%
	2	(16	90.1%	9.8%	0.1%	0.1%
	3	(17	85.6%	14.3%	0.2%	0.1%
9	1	(18	97.6%	2.3%	0.1%	0.0%
	2	(19	79.9%	20.0%	0.1%	0.0%
	3	(20	61.0%	38.9%	0.1%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	1-1	1-2	2-1-A	2-2-A	2-1-B	2-2-B	3-1	3-2	4-1	4-2	5	6-1	6-2	6-3	7-1-A	7-2-A	7-1-B	7-2-B	8-1	8-2	8-3	9-1	9-2	9-3	平均
以上 未満	1)	2)	3)	4)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	8	1	10	41	35	84	4	2	53	0	5	3	4	5	29	7	7	40	8	13	3	67	6	0	0
95～100%	23	8	1	28	9	21	16	7	54	0	17	10	8	15	5	2	3	25	22	24	8	77	5	1	3
90～95%	43	26	6	43	21	28	35	8	37	3	25	17	24	33	28	5	3	38	47	53	35	16	13	3	9
85～90%	50	27	12	21	28	6	46	15	12	5	30	29	49	45	40	11	6	24	44	46	42	1	27	5	43
80～85%	30	41	19	8	24	4	29	13	4	8	27	24	40	33	24	11	8	8	22	19	47	1	40	4	58
75～80%	4	16	17	5	10	1	19	15	1	13	23	36	24	23	13	31	20	3	11	5	15	0	31	8	36
70～75%	3	19	19	6	7	0	9	17	1	17	12	21	8	4	4	21	16	1	5	1	6	0	15	11	10
65～70%	1	11	20	2	5	0	4	15	0	22	10	12	4	3	3	18	22	0	2	1	3	0	15	23	3
60～65%	0	5	20	2	1	0	0	18	0	23	7	7	1	0	3	16	18	2	1	0	3	0	6	29	0
55～60%	0	4	19	1	2	0	0	14	0	20	3	3	0	1	2	10	12	0	0	0	0	0	3	21	0
50～55%	0	2	7	0	1	0	0	21	0	28	2	0	0	0	2	11	10	0	0	0	0	0	1	35	0
45～50%	0	1	2	0	0	0	0	7	0	16	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	10	0
40～45%	0	1	3	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0	0	0	3	0
35～40%	0	0	2	0	0	0	0	4	0	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8	0
30～35%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0
25～30%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	5	5	19	18	0	0	0	0	0	0	0	0	9	10	21	21	0	0	0	0	0	0	0
計	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162	162

※1学年20人以上データを提出した学校

# 小学校 6 年 理科 調査結果の及び考察

## ( 1 ) 設定通過率との比較

比較表 問題数	全 体	観 点 別			領域別 (分野別)		
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	生物と環境	物質とエネルギー	地球と宇宙
問 題 数	24	6	7	11	8	10	6
+ 10% 以上	11	1	4	6	5	4	2
± 10% 内	13	5	3	5	3	6	4
- 10% 以下	0	0	0	0	0	0	0

## ( 2 ) 考察 全体について

- ア 問題の 8 割が設定通過率を上回っており、学習状況はおおむね良好といえる。
- イ 本県の課題を意識した指導が各校でなされている。

- 成果
- ア 「知識・理解」「技能・表現」についての学習状況はおおむね良好である。
  - イ 「生物と環境」の領域についての学習状況はおおむね良好である。

- 課題
- ア 「結果の考察」における「結果から分かること」の記述についての指導を一層充実させる必要がある。
  - イ 「分かったこと」を日常の事象に当てはめたりして、より実感的にとらえる指導を一層充実させる必要がある。
  - ウ 「技能・表現」について、「実験用具の扱い」の指導を一層充実させる必要がある。

## ( 3 ) 課題をふまえた今後の指導

- ア 「結果の考察」において、児童の言葉でまとめ上げる授業の構築が求められる。
- ・ 実験結果を分かりやすくグラフや表にまとめたり、各グループの結果を比べやすいように板書を工夫したりして、自分の予想に照らした考察ができるようにするとともに、考察の時間を確実に確保する必要がある。

9 (3) 図 1 の天気のと看、その後の秋田県天候について、次のア～エから、正しいものを二つ選んで、次の□の中に記号を書きなさい。

- ア 秋田県西には雲がない。3 日くらいは晴れの日がつづきそうだ。
- イ 今後、風や雨が強くなりそうだ。大水などのひ害が心配だ。
- ウ 秋田県にも台風が近づきそうだ。天気予報やテレビのニュースをよくみておこう。
- エ 台風が通り過ぎたあとは、晴れることが多い。しばらく晴れの日がつづきそうだ。

- ・ 例えば上の設問では、資料の気象データを大きく拡大して表示し、資料から分かることを、一人一人が自分の言葉で表現し、多様な見方・考え方に触れ合う話し合いをするなどして、天気の変化を予想するなど、日常生活に結び付けて考察させることが必要である。

- イ 「分かったこと」をより実感的にとらえ、理解を深めるような指導の工夫が求められる。

7 (2) ターザンロープで遊んでいます。ふれはばが同じとき、一往復する時間が一番短いのはどのときですか。次のア～エから一つ選んで、□の中に記号を書きなさい。



- ア 体重に関係なく、ロープの上の方にぶらさがってゆれたとき
- イ 体重に関係なく、ロープの一番下の方にぶらさがってゆれたとき
- ウ 体重の重い人がロープの一番下の方にぶらさがってゆれたとき
- エ 体重のかるい人がロープの一番下の方にぶらさがってゆれたとき

- ・ 実験に身近な材料を使うこと、分かったことを基にものづくりをすること、日常の事象に関連付けること等で、科学的な見方・考え方をより実感的にとらえさせる工夫が必要である。
- ・ 例えば、左の設問では、学習した振り子の振れる速さのきまりを実際にターザンロープやブランコで体感させるなどして、より実感的に理解を深めていく必要がある。

- ウ 一人一人が確実に実験・観察を体験し、実験器具の扱いになれる必要がある。
- ・ 安易にグループ実験に終始せず、個人の実験を増やすことも大事である。また、実験・観察の見通しを児童にもたせるなど、ねらいが明確な追究活動が必要である。
- ・ パフォーマンステストを実施するなどして、操作手順・方法について確実な定着を図る必要がある。
- ・ 実験・観察器具に日常的に触れて操作できる学習環境づくりが必要である。

中学校 第 1 学年  
理 科

中学校1年 理科 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 74.6%

通し 番号	出 題 内 容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%100%
1	消化に関する体のつくり	87.2%	80.0%	
2	だ液のはたらき	58.2%	80.0%	
3	血液のはたらき	73.0%	70.0%	
4	光合成のはたらきを調べる実験	81.3%	70.0%	
5	植物のからだのつくりと光合成	83.7%	70.0%	
6	生物と環境とのかかわり	97.6%	70.0%	
7	枯れた植物体を食べる動物	38.5%	70.0%	
8	リトマス紙を使った性質の同定	54.2%	80.0%	
9	リトマス紙の使い方	87.2%	80.0%	
10	性質による水溶液の同定	74.1%	60.0%	
11	金属を変化させる水溶液	54.1%	60.0%	
12	物の燃焼と酸素、二酸化炭素	94.9%	80.0%	
13	気体検知管の適切な使い方	86.1%	80.0%	
14	物の燃焼の仕組み	85.1%	70.0%	
15	電磁石の強さの要因	76.9%	70.0%	
16	電流の向きと電磁石の極の関係	81.2%	70.0%	
17	地層のでき方	80.3%	80.0%	
18	地層の広がり	40.3%	70.0%	
19	地層の観察と実験による確認	65.7%	70.0%	
20	地震による土地の変化(A)	89.9%	80.0%	
21	火山の噴火による土地の変化(B)	94.0%	80.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

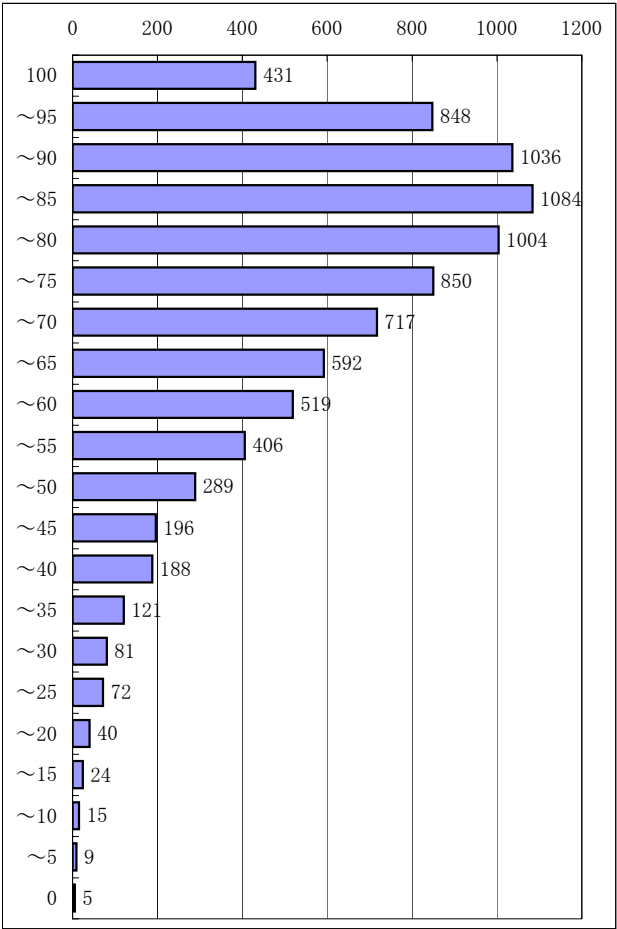
中学校1年 理科

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1	87.2%	12.8%	0.0%	0.0%
	2	(2	58.2%	41.7%	0.1%	0.0%
	3	(3	73.0%	26.7%	0.3%	0.0%
2	1	(4	81.3%	18.6%	0.1%	0.0%
	2	(5	83.7%	16.1%	0.2%	0.0%
3		(6	97.6%	2.0%	0.4%	0.0%
4		(7	38.5%	61.1%	0.4%	0.0%
5	1	(8	54.2%	42.9%	2.8%	0.0%
	2	(9	87.2%	12.5%	0.3%	0.0%
	3	(10	74.1%	25.1%	0.8%	0.0%
	4	(11	54.1%	40.0%	5.9%	0.0%
6	1	(12	94.9%	4.2%	0.9%	0.0%
	2	(13	86.1%	13.8%	0.2%	0.0%
	3	(14	85.1%	13.5%	1.4%	0.0%
7	1	(15	76.9%	20.0%	3.1%	0.0%
	2	(16	81.2%	18.1%	0.7%	0.0%
8	1	(17	80.3%	19.4%	0.3%	0.0%
	2	(18	40.3%	59.3%	0.4%	0.0%
	3	(19	65.7%	30.5%	3.8%	0.0%
9	A	(20	89.9%	9.6%	0.4%	0.0%
	B	(20	94.0%	5.9%	0.1%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	3	4	5-1	5-2	5-3	5-4	6-1	6-2	6-3	7-1	7-2	8-1	8-2	8-3	9-A	9-B	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	20)	通過率
100%	2	0	0	0	1	32	0	0	2	0	0	19	2	4	0	0	0	0	0	15	26	0
95～100%	8	0	0	2	5	75	0	0	8	0	0	48	7	20	0	2	3	0	1	16	37	0
90～95%	38	0	3	17	22	14	0	0	31	3	0	40	33	30	11	13	12	0	1	35	27	0
85～90%	41	0	7	20	28	1	0	0	37	9	1	13	35	26	18	25	22	0	4	28	18	1
80～85%	24	0	11	27	31	0	0	2	34	17	2	2	26	12	25	35	35	0	11	17	5	17
75～80%	6	4	37	31	15	0	0	3	7	27	3	0	6	8	22	28	22	0	13	7	1	41
70～75%	1	5	23	18	12	0	1	7	2	28	4	0	8	8	14	9	18	0	16	2	1	40
65～70%	2	23	22	6	4	0	1	14	0	21	13	0	3	7	12	8	4	0	24	0	0	22
60～65%	0	20	16	1	3	0	6	12	1	9	17	0	2	0	8	2	5	1	17	0	0	1
55～60%	0	30	3	0	0	0	5	16	0	7	18	0	0	1	7	0	1	4	12	0	0	0
50～55%	0	19	0	0	0	0	8	25	0	1	21	0	0	4	3	0	0	10	11	1	0	0
45～50%	0	11	0	0	1	0	15	18	0	0	14	0	0	1	1	0	0	24	5	0	0	0
40～45%	0	5	0	0	0	0	15	16	0	0	14	0	0	1	1	0	0	24	2	0	0	0
35～40%	0	3	0	0	0	0	20	6	0	0	5	0	0	0	0	0	0	26	2	0	0	0
30～35%	0	2	0	0	0	0	27	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	18	2	0	0	0
25～30%	0	0	0	0	0	0	9	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	12	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0
計	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

※1学年20人以上データを提出した学校



## 中学校 1 年 理科 調査結果及び考察

### ( 1 ) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別		
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	生物と環境	物質とエネルギー	地球と宇宙
問 題 数	20	6	6	8	7	9	4
+ 10% 以上	8	3	2	3	3	4	1
± 10% 内	8	2	3	3	2	4	2
- 10% 以下	4	1	1	2	2	1	1

### ( 2 ) 考察

全体について

- ア 通過率の平均及び設定通過率を上回るか同程度の問題数が昨年比でも上昇しており、学習状況はおおむね良好といえる。

成果

- ア 「技能・表現」の観点について、学習の実現状況に改善が見られる。

課題

- ア 結果からの確に考察したり、推論したりする問題について、学習の実現状況が十分とはいえない。

- ・ 2 )、8 )、11)、18) は、設定通過率を大きく下回り、各学校の通過率に開きがある。
- ・ 2 )、11) は、過去の調査の類似問題であるが、平均通過率の上昇がほとんど見られない。

### ( 3 ) 課題をふまえた今後の指導

- ア 観察、実験の結果に基づいて的確に考察することができるよう指導の手立てを工夫する。
- ・ 観察、実験操作の意味を理解させるようにする。
  - ・ 予想に基づき、結果がどのようになるか見通しをもたせるようにする。
  - ・ 観察する視点を明確にもたせ、結果を確実にとらえることができる時間を十分確保する。
  - ・ 結果について、予想と照らし合わせて考えさせ、一人一人が書き表してまとめる学習活動を取り入れる。

6 年 「動物のからだのはたらき」

だ液によるでんぷんの変化を調べる学習活動における指導の手立て(例)

( 参考 平成19年度学習状況調査 中学校第 1 学年 通し番号(2 ) )

観察、実験操作の意味を理解させるために

- ・ でんぷんの変化を調べるためには、何を使ってどのように調べればよいか、既習の学習内容を想起させて話し合わせる。

結果がどのようになるか見通しをもたせるために

- ・ ヨウ素液がでんぷんに対してどのような反応をするのかを確認させる。
- ・ 自分の予想に対して、ヨウ素液がどのような色の変化をするかをノートに書きせるなど見通しを明確にもたせてから実験をさせる。

観察する視点を明確にもたせるために

- ・ ヨウ素液の色の変化に着目して結果をとらえることを、全体で確認してから実験に取り組ませる。

結果について、一人一人に的確に考えさせ、まとめさせるために

- ・ 結果には、ヨウ素液が何色になったか等の観察、実験でとらえることができた事実を書かせる。考察には、結果から何が分かったか、予想と関係付けてどのようなことがいえるか等を書かせる。

- イ 科学的な見方や考え方を一層確かなものにするための学習活動を工夫する。

- ・ 身に付けた技能や知識等を繰り返し活用して問題解決を行うことができるような単元構成及び学習展開を工夫する。
- ・ 日常生活や身近なところで見られる事物・現象について、学習したことを活用して説明したり、推論したりする学習活動を意図的に設定する。

中学校 第 2 学年  
理 科

中学校2年 理科 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 57.4%

通 し 番 号	出 題 内 容	通 過 率 (%)	設 定 通 過 率 (%)	0%100%
1	凸レンズを通してできる像の記録	74.9%	70.0%	
2	物体の位置と像の位置。大きさの関係	38.8%	60.0%	
3	大気圧の働き方	68.4%	65.0%	
4	圧力の求め方	37.4%	70.0%	
5	音の大小高低	44.7%	70.0%	
6	光合成の働きを調べる実験	76.3%	75.0%	
7	光合成によって発生する気体	75.1%	75.0%	
8	顕微鏡の操作方法	46.7%	75.0%	
9	震度とマグニチュードの違い	84.6%	80.0%	
10	初期微動継続時間の推定	37.6%	60.0%	
11	地層の広がりの推定(柱状図)	69.0%	80.0%	
12	火山岩や深成岩の特徴や成因	62.4%	70.0%	
13	火山噴出物の観察技能	71.9%	80.0%	
14	植物のつくりと働き	32.6%	70.0%	
15	植物の特徴と仲間分け	54.6%	70.0%	
16	中和を確かめる実験の考案	33.2%	65.0%	
17	気体の性質と発生方法	45.5%	65.0%	
18	気体の性質に適した捕集方法	71.5%	70.0%	
19	蒸留の温度変化のグラフから液体の推定	61.1%	65.0%	
20	ガスバーナーの使い方	62.0%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

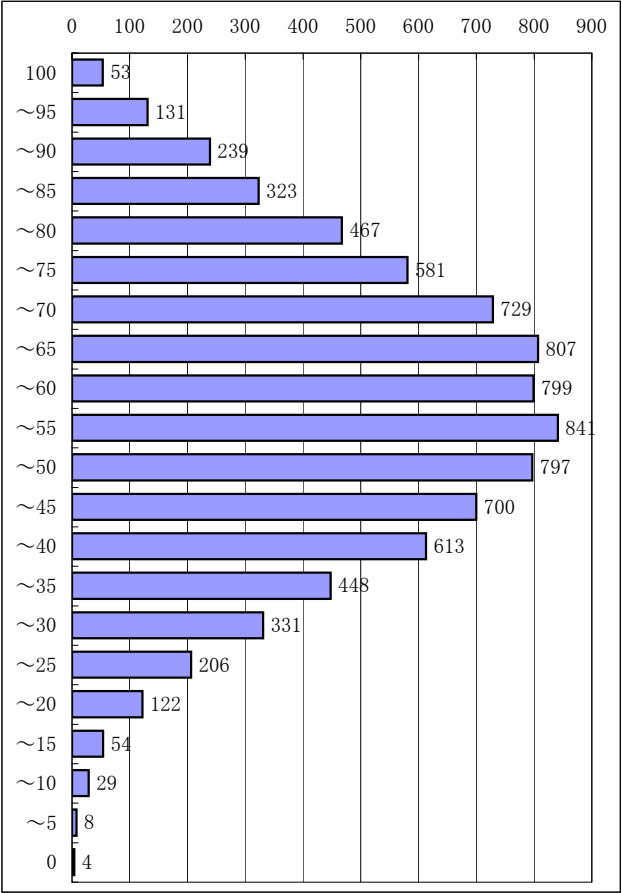
中学校2年 理科

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1)	74.9%	24.9%	0.1%	0.0%
	2	(2)	38.8%	60.9%	0.2%	0.0%
2	1	(3)	68.4%	31.5%	0.1%	0.0%
	2	(4)	37.4%	61.8%	0.8%	0.0%
3		(5)	44.7%	54.9%	0.3%	0.0%
4	1	(6)	76.3%	17.5%	6.3%	0.0%
	2	(7)	75.1%	24.6%	0.3%	0.0%
5		(8)	46.7%	53.1%	0.2%	0.0%
6	1	(9)	84.6%	15.2%	0.3%	0.0%
	2	(10)	37.6%	61.7%	0.7%	0.0%
7	1	(11)	69.0%	28.8%	2.2%	0.0%
	2	(12)	62.4%	36.9%	0.7%	0.0%
	3	(13)	71.9%	27.3%	0.8%	0.0%
8	1	(14)	32.6%	66.5%	1.0%	0.0%
	2	(15)	54.6%	44.7%	0.7%	0.0%
9		(16)	33.2%	65.8%	0.9%	0.0%
10	1	(17)	45.5%	53.1%	1.4%	0.0%
	2	(18)	71.5%	27.5%	1.0%	0.0%
11	1	(19)	61.1%	27.2%	11.7%	0.0%
	2	(20)	62.0%	37.7%	0.3%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	1-1	1-2	2-1	2-2	3	4-1	4-2	5	6-1	6-2	7-1	7-2	7-3	8-1	8-2	9	10-1	10-2	11-1	11-2	平均
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	2	0	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
95～100%	0	0	1	0	0	7	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2	0
90～95%	15	0	14	0	0	16	6	0	19	0	6	1	14	0	0	0	0	3	5	3	0
85～90%	12	0	6	0	0	20	9	0	51	0	6	0	15	0	2	0	0	5	12	4	0
80～85%	22	0	10	0	0	19	22	0	27	0	10	6	14	0	0	0	1	16	9	14	0
75～80%	15	0	20	0	0	16	33	0	15	1	17	11	23	1	3	0	0	20	10	17	1
70～75%	17	0	16	0	1	14	22	1	3	0	29	12	15	0	5	0	0	30	12	13	3
65～70%	13	1	8	3	1	11	14	4	4	0	18	18	10	0	6	1	4	22	9	13	14
60～65%	6	5	10	2	4	5	12	5	2	1	9	29	7	0	18	0	15	18	10	5	29
55～60%	11	6	16	7	7	0	1	14	0	2	13	21	4	3	30	1	13	4	11	6	31
50～55%	4	10	6	7	17	1	2	17	0	6	8	20	3	3	28	6	22	5	10	11	31
45～50%	0	10	3	12	31	2	0	28	0	11	4	4	4	11	19	9	10	0	6	14	11
40～45%	6	28	8	14	29	0	0	24	0	23	3	1	1	7	8	12	19	0	8	7	3
35～40%	0	19	2	23	17	0	0	19	0	32	0	0	5	15	1	22	11	0	7	6	0
30～35%	0	13	1	22	13	0	1	5	0	17	0	0	1	29	3	24	11	0	4	4	0
25～30%	0	20	1	12	3	0	0	3	0	24	0	0	3	32	0	29	10	0	5	3	0
20～25%	0	8	0	17	0	5	0	3	0	2	0	0	0	16	0	8	3	0	2	1	0
15～20%	0	3	0	2	0	3	0	0	0	4	0	0	0	3	0	7	3	0	1	0	0
10～15%	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123

※1学年20人以上データを提出した学校

## 中学校2年 理科 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			分 野 別			
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	物理	化学	生物	地学
問 題 数	20	7	6	7	5	5	5	5
+ 10%以上	0	0	0	0	0	0	0	0
± 10%内	10	2	5	3	2	3	2	3
- 10%以下	10	5	1	4	3	2	3	2

### (2) 考察

全体について

- ア 課題をもとに、より具体的な学習指導の改善を要する調査結果となった。
- イ 昨年度の類似問題は、8問すべてで通過率が上がっており、平均6.6ポイントの上昇であった。

成果

- ア 観察・実験の技能・表現については向上がみられ、授業改善が図られている。
- イ 光合成の内容について、その実現状況はおおむね満足できる。

課題

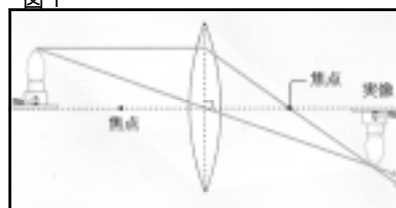
- ア 観察・実験の結果から、科学的に思考する力が不十分である。
- イ 圧力の求め方、音の振動の違い、気体の性質と発生方法についての理解が不十分である。

### (3) 課題をふまえた今後の指導

- ア 実験結果を表やグラフに表したり、作図したりするなどして、思考を深める工夫が必要である。

- ・ 2)の凸レンズでできる像と距離の問題は、3年連続で3割台の通過率である。実験結果と光の進む道すじの作図を併せて考察させるなど、きまりや規則性に気付かせる手立てが必要である。

図1



指導例：物体（光源）と凸レンズとの距離を変えると、像の大きさや凸レンズとの距離は、図1と比べてどうなるか、確かめてみよう。

図2（近づける）

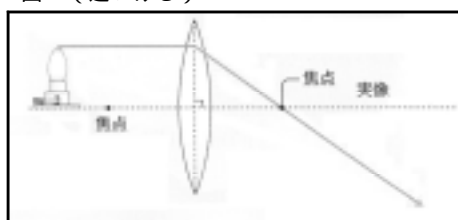
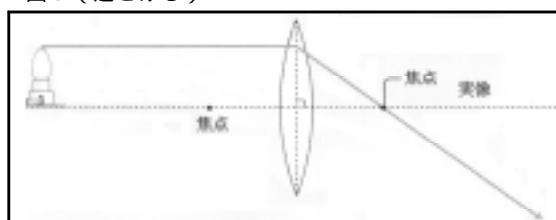


図3（遠ざける）



- ・ 10)の震源からの距離と初期微動継続時間の関係の問題も、データをグラフに表しながらきまりを見つけるような手立てが考えられる。
- ・ 表やグラフ自体をテキストとしてとらえ、条件や規則性を読み取っていくような場を意識的に設定する必要がある。16)の問題のような表を活用し、そこから読み取れる事象の変化について、多様な見方や考え方を出しながら練り合う場を設定する。
- イ 事象を多面的にとらえながら、理解を深める工夫が必要である。
- ・ 音の大小高低の違いについては、音叉やモノコードを使った実験だけでなく、オシロスコープやコンピュータで音の波形を示すなど、事象を多面的にとらえられるような工夫が考えられる。
- ・ 特に気体については他の単元とのかかわりが深く、系統性も意識した上で、日常生活や他の事象と結びつけて性質をとらえられるような指導の工夫が必要である。

中学校 第 3 学年  
理 科

中学校3年 理科 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 55.6%

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0%100%
1	電流計の使い方	76.0%	75.0%	
2	並列回路の電流と電圧	52.1%	60.0%	
3	電力と電流の関係	77.1%	70.0%	
4	電気分解の実験技能	75.0%	70.0%	
5	分解でできた物質の区別	80.4%	80.0%	
6	動物のなかま分け	43.1%	70.0%	
7	ハチュウ類の特徴	27.9%	70.0%	
8	銅と酸素の化合(グラフ作成)	41.5%	70.0%	
9	化学変化のモデル	54.9%	80.0%	
10	化学変化における質量の割合	39.2%	70.0%	
11	気象要素の知識・理解	70.7%	70.0%	
12	気温、湿度、気圧のグラフ	42.9%	60.0%	
13	前線と天気の変化	61.1%	60.0%	
14	露点と湿度	55.9%	60.0%	
15	雲ができる条件	66.0%	65.0%	
16	だ液のはたらきを調べる実験	59.7%	80.0%	
17	だ液のはたらく条件	48.9%	70.0%	
18	養分の運搬	50.7%	70.0%	
19	電流による磁界の観察	37.8%	75.0%	
20	コイルに生じる電流	50.9%	75.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

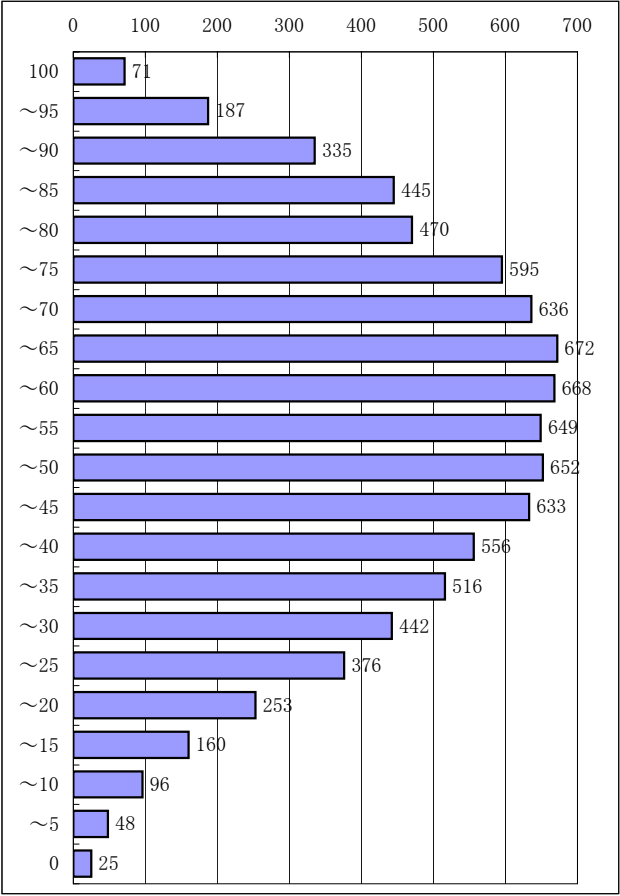
中学校3年 理科

小問別反応率

通し番号			1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	1	(1)	76.0%	18.8%	5.2%	0.0%
	2	(2)	52.1%	47.3%	0.6%	0.0%
2		(3)	77.1%	22.6%	0.4%	0.0%
3	1	(4)	75.0%	17.4%	7.5%	0.0%
	2	(5)	80.4%	19.2%	0.4%	0.0%
4	1	(6)	43.1%	56.3%	0.6%	0.0%
		(7)	27.9%	65.3%	6.8%	0.0%
5	1①	(8)	41.5%	52.6%	5.9%	0.0%
	1②	(9)	54.9%	38.4%	6.8%	0.0%
	2	(10)	39.2%	51.7%	9.1%	0.0%
6	1	(11)	70.7%	27.7%	1.6%	0.0%
	2	(12)	42.9%	56.6%	0.5%	0.0%
	3	(13)	61.1%	38.3%	0.6%	0.0%
7	1	(14)	55.9%	43.3%	0.8%	0.0%
		(15)	66.0%	33.2%	0.8%	0.0%
8	1①	(16)	59.7%	39.7%	0.6%	0.0%
	1②	(17)	48.9%	50.1%	1.0%	0.0%
	2	(18)	50.7%	48.4%	0.8%	0.0%
9	1	(19)	37.8%	61.4%	0.8%	0.0%
	2	(20)	50.9%	48.3%	0.8%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	1-1	1-2	2	3-1	3-2	4-1		5-1-1	5-1-2	5-2	6-1	6-2	6-3	7-1		8-1-1	8-1-2	8-2	9-1	9-2	平均 通過率
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
95～100%	3	0	0	1	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
90～95%	14	0	8	17	19	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0
85～90%	18	1	16	12	27	0	2	2	5	0	12	0	1	0	2	7	1	1	0	0	0
80～85%	18	0	28	18	25	0	1	1	3	0	12	0	5	1	1	5	0	3	0	0	0
75～80%	23	1	21	18	16	2	6	2	9	1	27	2	6	4	15	8	1	3	1	1	2
70～75%	13	5	18	17	19	1	3	8	6	2	13	1	9	6	15	13	1	10	0	5	6
65～70%	12	7	14	7	7	3	4	8	11	2	19	1	24	11	34	17	1	6	1	6	3
60～65%	9	13	9	13	3	4	4	7	14	5	15	9	20	19	22	9	8	5	1	13	20
55～60%	2	20	8	8	3	6	3	11	12	8	10	3	26	23	15	12	14	18	4	16	36
50～55%	7	28	0	5	2	15	2	10	13	13	7	12	19	25	13	13	30	15	6	22	26
45～50%	0	18	0	2	0	21	4	7	13	10	3	19	7	19	4	15	26	11	14	13	17
40～45%	0	12	0	0	0	22	2	4	13	18	2	28	3	7	0	10	18	21	21	24	12
35～40%	1	8	0	1	0	19	5	11	8	16	0	17	1	3	0	3	11	14	22	14	0
30～35%	0	8	0	0	0	17	6	5	3	11	0	16	1	2	0	2	8	7	20	6	0
25～30%	0	1	0	0	0	7	7	7	7	10	0	7	0	2	0	3	1	7	17	2	0
20～25%	0	0	0	0	0	2	6	10	3	12	0	6	0	0	0	1	0	1	7	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	18	13	0	6	0	1	0	0	0	0	1	0	7	0	0
10～15%	1	0	0	1	0	0	14	7	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	1	16	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	0	0	0	0	2	19	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
計	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

※1学年20人以上データを提出した学校



## 中学校3年 理科 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別			
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	物理領域	化学領域	生物領域	地学領域
問 題 数	20	8	6	6	5	5	5	5
+10%以上	0	0	0	0	0	0	0	0
±10%内	9	4	3	2	3	2	0	4
-10%以下	11	4	3	4	2	3	5	1

### (2) 考察

全体について

ア より一層の基礎・基本の確実な定着を目指すことが必要である。

成果

ア 地学領域における学習状況はおおむね良好といえる。

イ 観察・実験器具等の基本的な操作、実験結果の記録の仕方について指導の改善がなされてきている。

課題

ア 生物領域における指導の改善が必要である。

イ 科学的思考、技能・表現、知識・理解の各観点で、学校間の差が大きい問題がある。

### (3) 課題をふまえた今後の指導

ア 「なぜ」「どのようにして」「何のために」と踏み込んだ問いかけをする。

・「なぜ、両生類の卵には殻がなくても大丈夫なのか」「分解されたあとの養分はどのようにして、全身の細胞に運ばれるのか」等の踏み込んだ問いかけをすることで、ねらいに迫る疑問を引き出すとともに、目的意識をもった観察、実験や根拠に基づいた予想につなげながら、科学的な思考力を高める。

イ 観察・実験後の「結果から分かること」「見つけ出した規則性」を生徒自身の言葉や表現方法でまとめさせたり、考えを練り合わせたりする場面を大切にする。

・観察・実験後に結果を確認して終わるのではなく、じっくりと考察する場面を大切に、観察・実験のねらいや予想との比較をしながら、自分の考えを修正する場を設定し、多面的・総合的に考察し判断する力を高める。

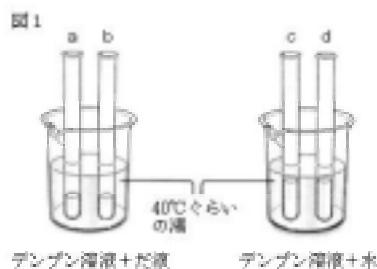
・実験結果から見いだした規則性をもっとも適切に表現できるのはどれか考えさせた上でグラフを描かせ、適切な表現に結びつくよう指導する。

・観察・実験をして考察したり考えを出し合ったりしたことが、生徒自身の言葉でまとめられ正しい理解に結び付いているかノートや実験レポート等で確認する。

\* 指導例：「だ液のはたらき」(調査問題 16) 17) に関連して)

【実験】

4本の試験管a～dに同量のデンプン溶液を入れました。さらにaとbにはトのだ液を加え、cとdには同量の水を加え、40℃ぐらいの湯に10分間入れました。その後、aとcにはヨウ素液を加え、bとdにはベネジクト液を加えてからある操作をし、反応を観ました。表はその結果をまとめたものです。



試験管	色の変化
a	変化なし
b	赤褐色
c	青紫色
d	変化なし

【実験前に】

- ・なぜ、だ液を入れたものの他に水を入れたデンプン溶液の実験もするのか
- ・なぜ、40℃ぐらいのお湯に入れて実験をするのか
- ・それぞれの試験管の結果がどうなれば、どんなことが言えるか

【実験後に】

- ・デンプンを分解したのはだ液のはたらきによるものであるということが、実験のどの結果とどの結果の比較から分かるのか

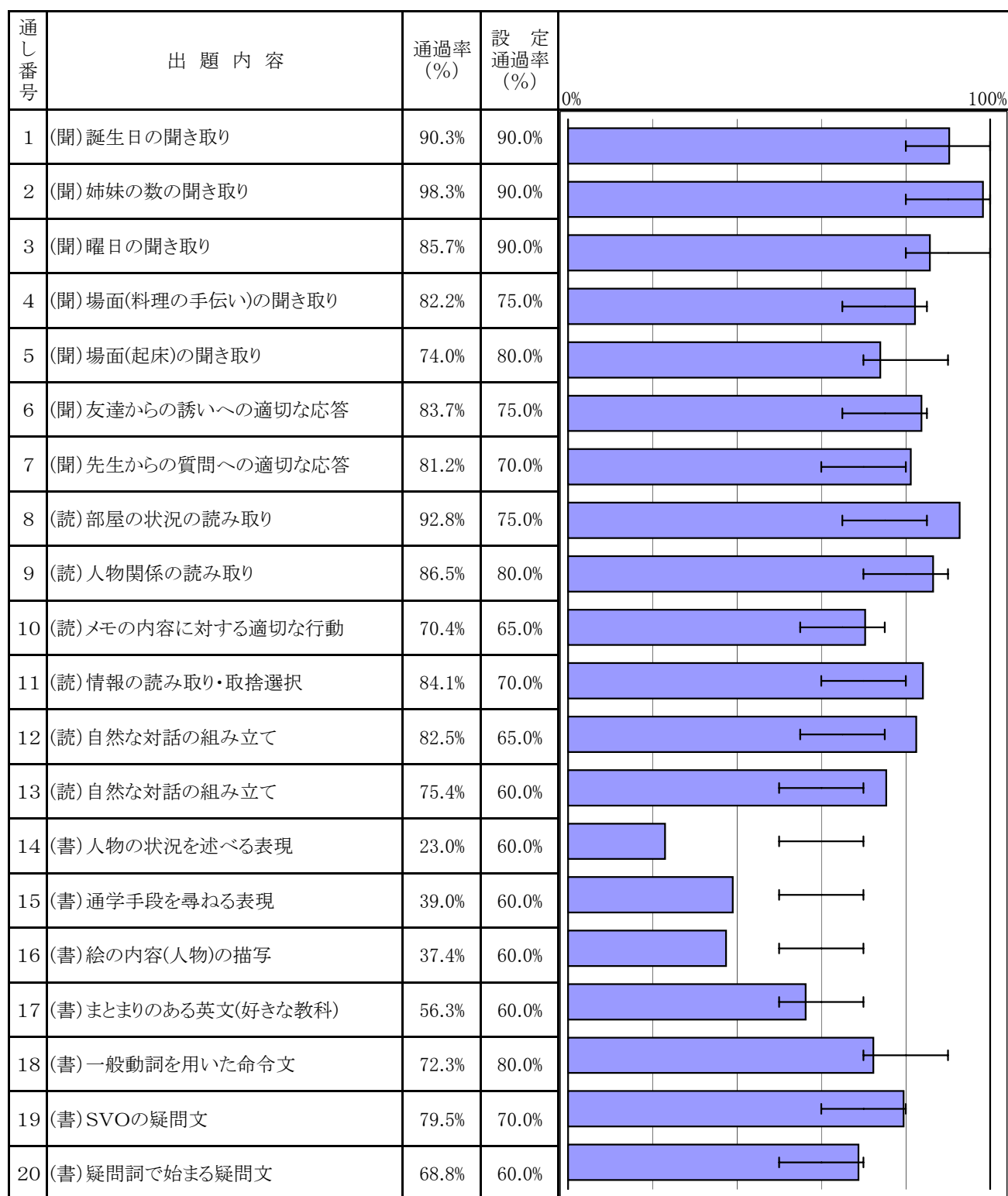
- ・この実験結果からだけでは分からないことは何か
- ・この実験結果をまとめると、どういうことが言えるか

中学校 第 2 学年

英 語

中学校2年 英語 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 73.1%



※ は設定通過率±10%を示している。

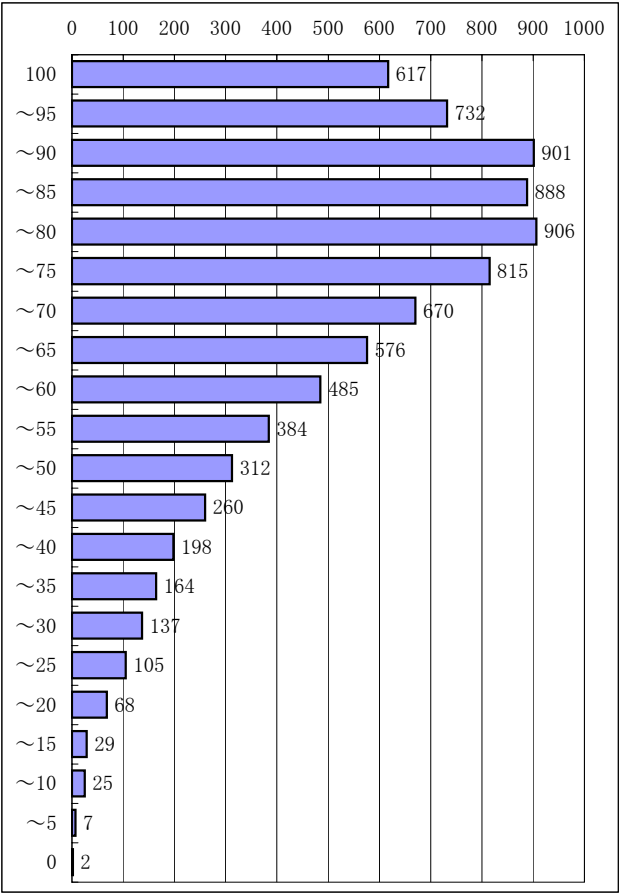
中学校2年 英語

小問別反応率

通し番号		1(通過率)	2(誤答)	3(未記入)	4(未履修)
1	(1)	90.3%	9.7%	0.0%	0.0%
2	1 (2)	98.3%	1.7%	0.0%	0.0%
	2 (3)	85.7%	14.2%	0.0%	0.0%
3	1 (4)	82.2%	17.7%	0.1%	0.0%
	2 (5)	74.0%	25.8%	0.1%	0.0%
4	1 (6)	83.7%	16.1%	0.2%	0.0%
	2 (7)	81.2%	18.4%	0.4%	0.0%
5	(8)	92.8%	7.1%	0.1%	0.0%
6	(9)	86.5%	13.3%	0.1%	0.0%
7	(10)	70.4%	29.3%	0.3%	0.0%
8	(11)	84.1%	15.6%	0.3%	0.0%
9	1 (12)	82.5%	17.0%	0.6%	0.0%
	2 (13)	75.4%	23.9%	0.7%	0.0%
10	1 (14)	23.0%	73.1%	3.9%	0.0%
	2 (15)	39.0%	51.0%	10.0%	0.0%
11	(16)	37.4%	56.6%	6.0%	0.0%
12	(17)	56.3%	32.8%	10.8%	0.0%
13	1 (18)	72.3%	26.3%	1.3%	0.0%
	2 (19)	79.5%	19.0%	1.4%	0.0%
	3 (20)	68.8%	29.6%	1.6%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

以上 未満	1	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	5	6	7	8	9-1	9-2	10-1	10-2	11	12	13-1	13-2	13-3	平均
	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	5	72	1	1	0	0	0	7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0
95～100%	23	47	9	1	1	7	4	37	7	1	4	3	0	0	0	0	1	3	5	3	0
90～95%	42	3	30	19	4	26	14	48	33	1	18	17	7	0	0	0	3	6	17	4	1
85～90%	33	0	36	20	8	30	25	24	44	4	43	34	8	0	0	0	1	10	21	10	3
80～85%	15	0	17	36	17	24	31	4	19	10	29	26	25	0	1	1	4	18	22	16	12
75～80%	4	0	18	24	27	17	26	2	17	17	18	22	33	0	1	2	10	16	17	12	31
70～75%	1	0	6	16	25	14	9	1	0	34	7	9	20	0	2	1	13	19	13	15	37
65～70%	0	0	3	2	19	3	8	0	2	30	3	7	13	0	9	0	11	17	11	16	27
60～65%	0	0	1	4	13	1	4	0	0	16	1	2	8	1	3	2	9	16	6	14	8
55～60%	0	0	2	0	6	0	0	0	0	7	0	1	8	0	7	10	15	4	5	11	3
50～55%	0	0	0	0	3	0	2	0	0	1	0	0	0	5	12	10	13	6	2	11	1
45～50%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	4	10	7	13	3	2	2	0
40～45%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13	19	4	3	0	3	0
35～40%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	10	19	8	1	0	2	0
30～35%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	11	12	9	1	0	1	0
25～30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	15	11	4	0	0	2	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	8	15	2	0	0	0	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	8	9	2	0	0	1	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	10	5	1	0	0	0	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0
0～5%	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0
計	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123

※1学年20人以上データを提出した学校

## 中学校2年 英語 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全体	観点別			領域別		
		表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと
問題数	20	4	11	5	7	6	7
+10%以上	5	0	3	2	1	4	0
±10%内	12	1	8	3	6	2	4
-10%以下	3	3	0	0	0	0	3

### (2) 考察

全体について

ア 「理解の能力」「知識・理解」においてはおおむね良好と言える。

イ 「表現の能力」においては依然として良好であるとは言えない。

成果

ア 各校の「聞くこと」「読むこと」の学習状況が良好であることがうかがえる。

イ 文のつながりや構成を考えた文章など、「まとまりのある英文」を書く問題において、向上が認められる。

課題

ア 「書くこと」において、文法に従って正しく書く能力が十分身に付いていない。

イ 第1学年から第2学年にかけて、「英語が好き」の割合が低くなる。

### (3) 課題をふまえた今後の指導

ア 基礎的・基本的な言語事項の定着とともに、学習意欲を持続させるための指導の工夫が必要である。

・生徒の学習意欲を喚起するような導入及び言語活動の設定を心掛ける。また、家庭学習も含め、生徒の頑張りを認める評価を継続的に実施する。

・「知識・理解」のさらなる定着のために、英語科はもとより、全校体制で基本的な単語や基本文型等について毎日、たとえ短時間でも英語に触れる時間を設ける。この場合、英語を書くことを中心に取り組ませる。(「1日1文3単語」運動の推進)

イ 音声によるコミュニケーション活動を重視する中で、他の領域(特に「書くこと」と)のバランスを図った指導が大切である。

・実質的な言語の使用場面を設定し、実践的なコミュニケーションを意識した書く活動を取り入れる。この場合、既習の表現や新出の基本文型等を用いて、自分のことなどについて積極的に書かせることが大事である。

・対話文では、前後の文脈から話の概要や流れについて理解させ、文法に従って正しく書く活動を取り入れたい。この場合、疑問詞で始まる疑問文に関しては、答えの文から質問文を作る活動も有効である。

実際の指導例：(15)

カード等を準備し、答えの文をヒントに疑問文を言ったり書いたりする活動

「こんな時、英語ではどう言えばいい?」

【表】尋ねたい内容

「学校に来る方法」を尋ねたい時

【裏】その答え(ヒント)

I come to school by bus.

例年、類似問題を出題

( ) ( ) ( ) come to school?

H18:通過率(30.5%) H19:通過率(39.0%)

疑問文中の空欄( )が埋まったら・・・

Read & Look upなどで1文を5回繰り返す。

ペアで対話をし、答えの文の下線部は自分の立場で答える。(How about you?で相手に聞き返す。)ペアを交代する。その後、プラス1文などで対話を継続・発展させる。

疑問文を速く正確に5回書く。

中学校 第 3 学年

英 語

中学校3年 英語 小問別通過率と設定通過率

平均通過率 68.7%

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設定 通過率 (%)	0%100%
1	(聞)背の高さについての聞き取り	87.4%	80.0%	
2	(聞)自己紹介文の聞き取り	89.9%	80.0%	
3	(聞)自己紹介文の聞き取り	84.4%	80.0%	
4	(聞)場面(書店)の聞き取り	58.6%	70.0%	
5	(聞)場面(窓の開閉)の聞き取り	83.7%	85.0%	
6	(聞)友だちからの質問への適切な対応	83.7%	80.0%	
7	(聞)提案を断られた場合の対応	78.5%	80.0%	
8	(読)人物の行動の読み取り	79.4%	70.0%	
9	(読)手紙文の大意把握	77.0%	70.0%	
10	(読)図書館の掲示に対する適切な行動	85.1%	75.0%	
11	(読)情報の読み取り	42.5%	60.0%	
12	(読)自然な対話の組み立て	57.8%	65.0%	
13	(読)自然な対話の組み立て	73.0%	70.0%	
14	(書)疑問詞で始まる疑問文	36.9%	60.0%	
15	(書)過去進行形を使った表現	36.4%	60.0%	
16	(書)「しなければならないこと」	65.5%	60.0%	
17	(書)まとまりのある英文「休日にしたこと」	61.1%	60.0%	
18	(書)SVOO(道を尋ねる表現)	64.8%	70.0%	
19	(書)SVO+前置詞句	77.6%	65.0%	
20	(書)最上級の疑問文	49.8%	60.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

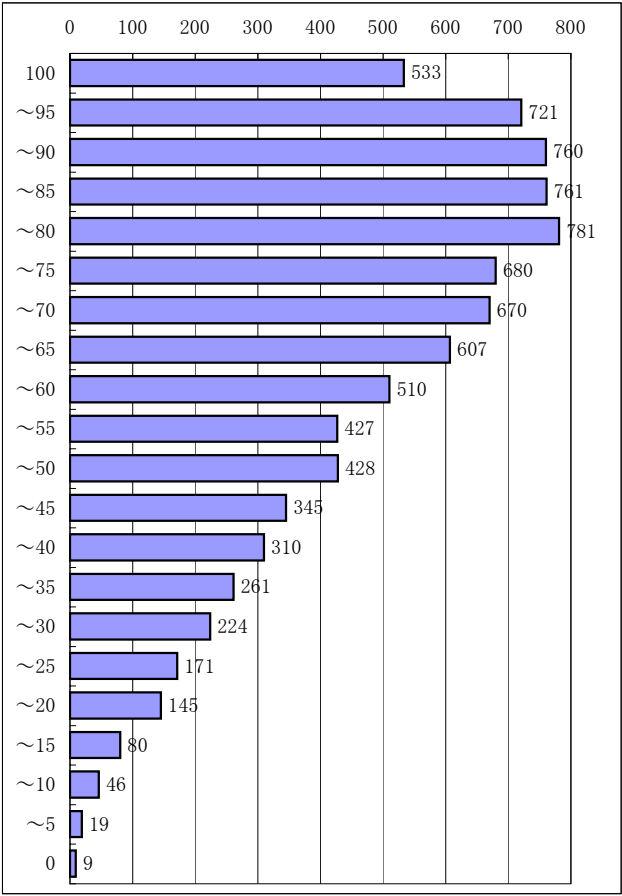
中学校3年 英語

小問別反応率

通し番号		1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
1	(1	87.4%	12.5%	0.1%	0.0%
2	1 (2	89.9%	10.1%	0.1%	0.0%
	2 (3	84.4%	15.5%	0.1%	0.0%
3	1 (4	58.6%	41.2%	0.2%	0.0%
	2 (5	83.7%	16.2%	0.1%	0.0%
4	1 (6	83.7%	16.2%	0.1%	0.0%
	2 (7	78.5%	21.3%	0.2%	0.0%
5	(8	79.4%	20.5%	0.2%	0.0%
6	(9	77.0%	22.8%	0.2%	0.0%
7	(10	85.1%	14.7%	0.2%	0.0%
8	(11	42.5%	56.9%	0.7%	0.0%
9	1 (12	57.8%	41.8%	0.4%	0.0%
	2 (13	73.0%	26.5%	0.5%	0.0%
10	1 (14	36.9%	49.3%	13.8%	0.0%
	2 (15	36.4%	54.0%	9.6%	0.0%
11	(16	65.5%	27.0%	7.5%	0.0%
12	(17	61.1%	28.9%	10.0%	0.0%
13	1 (18	64.8%	31.9%	3.3%	0.0%
	2 (19	77.6%	20.2%	2.2%	0.0%
	3 (20	49.8%	48.2%	2.0%	0.0%

※4(未履修)を除いた解答類型1～3の合計を分母として  
通過率を算出

通過率度数分布グラフ(人)



小問別通過率度数分布表(校)

	1	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	5	6	7	8	9-1	9-2	10-1	10-2	11	12	13-1	13-2	13-3	平均
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	通過率
100%	2	2	1	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
95～100%	15	28	6	0	3	3	4	2	0	8	0	0	0	0	0	0	4	3	4	0	0
90～95%	31	47	22	1	13	21	11	10	2	21	0	0	3	0	0	3	1	6	7	1	1
85～90%	37	23	34	2	36	34	19	24	16	39	0	0	5	0	0	3	5	9	18	3	3
80～85%	25	18	38	2	41	37	29	26	29	32	0	4	16	1	1	8	3	14	28	8	1
75～80%	6	1	14	3	18	12	24	24	27	12	1	7	30	0	0	18	13	11	22	4	12
70～75%	3	1	5	7	9	9	21	24	32	5	1	7	29	3	3	12	15	9	18	7	41
65～70%	3	1	1	15	2	3	4	8	9	2	2	14	26	0	0	22	9	13	11	11	32
60～65%	0	0	0	21	0	1	6	3	6	0	0	22	7	3	1	16	13	13	10	10	24
55～60%	0	1	0	30	0	0	1	0	0	0	2	22	3	3	1	8	15	9	2	10	7
50～55%	0	0	1	19	0	0	2	1	1	1	13	21	2	9	6	12	11	12	0	12	0
45～50%	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	26	18	0	13	13	10	11	7	0	6	0
40～45%	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	27	4	0	19	23	6	10	7	0	7	0
35～40%	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	23	2	0	12	20	2	5	3	0	11	0
30～35%	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	15	0	1	17	18	1	2	2	0	3	1
25～30%	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7	0	0	21	15	0	4	1	0	7	0
20～25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	11	12	0	0	0	0	10	0
15～20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	1	0	2	0	5	0
10～15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	4	0	0	0	1	4	0
5～10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0
0～5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
計	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

※1学年20人以上データを提出した学校



## 中学校3年 英語 調査結果及び考察

### (1) 設定通過率との比較

比較表	全 体	観 点 別			領域別(分野別)		
		表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと
問 題 数	20	4	11	5	7	6	7
+10%以上	2	0	1	1	0	1	1
±10%内	13	2	8	3	6	4	3
-10%以下	5	2	2	1	1	1	3

### (2) 考察

全体について

昨年度、課題のみられた事項について、全体的に改善がみられる。

成果

ア 各校の「聞くこと」「読むこと」の学習状況が良好であることがうかがえる。

イ 絵の内容を英語1文で書く問題や「まとまりのある英文」を書く問題において、改善傾向が見られる。

課題

ア 「書くこと」においては、「基本的な文構造についての知識の定着」と「文構造に従って正しく書くこと」が課題である。他の領域に比べて、未記入の割合が高い。

イ 「読むこと」においては、「書かれた内容を正しく読み取ること」が課題である。

### (3) 課題をふまえた今後の指導

ア 「書くこと」においては、「話す活動」と「書く活動」を結び付けるなど、「書く活動」を取り入れたコミュニケーション活動を通して、定着を図ることが大切である。

イ 「まとまりのある英文」を書くことにおいては、各校の取り組みの成果が現れており、改善傾向が見られる。今後は、文脈や論旨展開など文章構成についての指導を一層充実させる必要がある。

ウ 「読むこと」については、現実的な場面の中で、目的に応じて必要な情報を読み取る力を育成する。

**「書くこと」の指導例：「インタビューの結果から、友達の紹介文を書こう！」**

次の ~ を尋ねる英語の質問文を書きなさい。次に、  
ペアの友達にインタビューし、答えをメモしなさい。  
その後で、その友だちについての紹介文を書いてみよう。  
[ 朝起きる時間 ] \_\_\_\_\_  
[ 学校へ来る方法 ] \_\_\_\_\_  
[ 一番好きな教科 ] \_\_\_\_\_

MEMO
ペア名：

[ 紹介文の例 ] Taro gets up at six. He comes to school by bike.  
He likes music the best.

### 「読むこと」の指導のポイント

- ・文章を詳細に読み取らせる指導に加え、概要や要点を理解するための指導を行う。
- ・目的に応じて大切な部分をとらえさせたり、必要な部分を選択して読み取らせたりする指導を行う。
- ・語彙指導の充実を図る。
- ・友達の英文を読み合うなど、英語を読む活動を日常的に取り入れる。